

静岡県立美術館年報
平成26年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

2014

静岡県立美術館年報

平成26年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2014

目 次

使命・重点目標・評価指標	4	講演会	62
平成26年度 美術館の評価活動	5	美術講座	63
【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します。		対外活動	65
【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します。		【重点目標3】地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します。	
展覧会活動 展覧会一覧	7	美術館ボランティア・広報センター	68
観覧者数一覧	8	友の会活動	70
(企画展)		めぐるアート	74
佐伯祐三とパリ 一ポスターのある街角	9	【重点目標C】さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます。	
没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	10	【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます。	
アニマルワールド 一美術のなかのどうぶつたち	12	広報活動(ホームページ)	76
美少女の美術史	13	美術館ニュース「アマリリス」	77
風景解剖学 ー古今東西、風景画のしくみー	14	【重点目標2】観光業界などとの連携や新たな広報チャネルの開拓に取り組みます。	
石田徹也展 ーノート、夢のしるし	15	新たな広報チャネルの開拓	78
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します。		【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします。	
(調査研究活動)		ロダン館展示・イベント (ロダン館20周年記念事業 ロダンウィーク)	79
紀要の発行	17	【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます。	
研究活動	18	【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます。	
研究会	19	施設利用状況(年度別)	84
各種資料整理	22	県民ギャラリー利用状況	85
博物館実習	23	【重点目標2】周辺環境やアクセスの利便を向上させます。	
【重点目標3】特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します。		来館者のアクセス満足度	86
収蔵品展	24	■付帯資料	
移動美術展	25	平成26年度主要記事	87
新収蔵品	26	(展覧会 出品目録)	
収集品点数一覧	34	佐伯祐三とパリ ポスターのある街角	88
図書資料の収集・整理	36	没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	93
館蔵品の貸し出し	37	アニマルワールド ー美術のなかのどうぶつたち	102
美術作品の補修	44	美少女の美術史	105
保存活動	45	風景解剖学 ー古今東西、風景画のしくみ	117
【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します。		石田徹也展 ーノート、夢のしるし	122
【重点目標1】質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します。		収蔵品展	126
(一般向け)		移動美術展	130
ギャラリーツアー	47	(管理運営)	
実技・鑑賞講座	49	関連法規	131
(子ども向け)		組織・名簿	139
実技・体験	51	歳入・歳出決算	140
学校連携普及事業(美術館教室)	55	建築・設備概要	141
【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します。		利用案内	147
奥付			148

自己評価システムの体系 (平成24年度～平成26年度)

使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標	評価指標
A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します		1 新たな視点や工夫に基づく企画展を開催します	1 展覧会の来館者数 2 自主企画・企画参加型の展覧会の回数 3 作品やテーマに興味を持った人の割合 4 展覧会における新規来館者の割合 5 展覧会に対する外部評価【定性】 6 調査研究の発表回数 7 内部セミナー・研究会・研修の回数 8 他の美術館や大学と連携した取組件数 9 調査研究に関する外部評価【定性】 10 収蔵品展の観覧者数 11 収蔵品の公開件数 12 作品購入件数・価格 13 作品寄贈件数・価格 14 公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート【定性】 15 学校教育と連携した取組数 16 鑑賞系プログラム数 17 コレクションを活用したプログラム数 18 普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート【定性】 19 講演会等の開催件数 20 学芸員のフロアレクチャー等の数 21 地域住民等と連携した取組数 22 館内空間を生かした催事の件数・参加者数 23 地域機関、住民等と連携した取組に関する職員レポート【定性】 24 美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合 25 ホームページのアクセス件数 26 ホームページの満足度 27 観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数 28 広報手法における新たな取組状況に関する美術館職員のレポート【定性】 29 ロダン館の入館者数 30 美術館利用者数 31 鑑賞環境に対する満足度 32 レストラン・カフェに対する満足度 33 ミュージアムショップに対する満足度 34 来館者のアクセス満足度
		2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	
		3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	
B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します		1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	
		2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します	
		3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実します	
C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます		1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます	
		2 観光業界などとの連携や新たな広報チャネルの開拓に取り組みます	
		3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	
D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます		1 館内施設を充実させ、満足度を高めます	
		2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます	

平成26年度 美術館の評価活動

■総括

A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

取組方針①に従って新しい切り口の企画展を開催した。

【成果】

- ・本県ゆかりの下岡蓮杖や石田徹也をとりあげ、学術的に意義ある企画展や、サブカルチャーを含む冒險的な「美少女の美術史」展などを開催したほか、当館収蔵品を活用し、見応えのある展覧会（風景の解剖学）を開催することができた。
- ・「美少女の美術史展」では、新しい来館者の獲得に成功し、目標値を上回ることができた。
- ・今年度の他の美術館と連携した取り組みの最大の成果としても「美少女の美術史展」の開催を挙げておきたい。
- ・作品収集では、当館のコレクションの方針に沿って、江戸時代後期の風景画の新しい傾向を示す椿椿山《山海奇勝図》を購入することができた。そのほか、寄贈された作品も予想以上の点数にのぼり、コレクションの充実をはかることができた。

【課題】

- ・結果として来館者数は開館以来の最低を記録し、10万人を割った。
- ・展覧会の入館者数の回復を目指す。県民に親しまれ、足を運んでもらえる展覧会企画を組み込むことを今後の課題とする。
- ・作品の購入予算がゼロに据え置かれている状態は、美術館として望ましくない。今後の美術館の活動によって、予算の復活に各方面からの理解を得られるように努める。

B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術活動と普及活動を展開します

【成果】

- ・学校団体向けボランティアとの鑑賞ツアーの利用件数が増え、学校現場での鑑賞教育に協力する機会が増えた。実技系のプログラムも、企画展・収蔵品展と関係する内容にし、美術館ならではの鑑賞と制作の場を提供することができた。
- ・地域との連携については、大学や地域のキーパーソンとの連携が進み、例えば静岡大学と協力して行った事業では、地域の若手アーティストとの充実した展示を実現させた。
- ・地域住民との連携も、ロダン館20周年記念記念事業のほか、商店会の催しに出店を出すなど、交流を深めた。

【課題】

- ・教育普及事業の推進を目指して、他館で活動している教育担当者によるワークショップを試験的に開催した。当館の教育普及事業をより充実させるために、美術館の教育普及の専門的知識を有するスタッフの必要性を検討したい。
- ・地域との連携については、「地域に根差した美術館」を目指すべく、様々な取組を定着させていくことが課題である。

C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

【成果】

- ・「情報の入手のしやすさ」については、改善されてきている。
- ・ホームページについては、可能な限り、新しい情報を提供すべく更新の頻度を上げている。
- ・広報についても、「広報委員会」を設置して、アマリリストの充実、Facebookの新設など、引き続き、積極的な活動をした。

【課題】

- ・ホームページ、FacebookなどのSNSを積極的に活用しているが、アクセス件数、満足度などは、減少傾向である。今後は、詳細な分析をし、課題を明確にしたい。
- ・「ロダン・ウィーク」については、多くの来館者を数えたが、入館者に反映できなかった。

D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めています

【成果】

- ・来館者アクセス、レストラン・カフェ、ミュージアム・ショップいずれも満足度は、目標を達成できた。
- ・鑑賞環境の満足度については、高い数値を示している。

【課題】

- ・施設に関する数値は高いが、今後、さらなる美術館施設の充実を目指して、より良い他館の事例を調査し、利用者満足度をさらに高めていくことが課題である。

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学大学院教授）の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改定作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取組を行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた。

■平成26年度の活動

本年度も引き続き、ミュージアム・ナビによる自己点検評価とともに、外部委員による研究評価を受けた。それぞれに概要は以下の通りである。

(1) ミュージアム・ナビによる自己点検評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し自己点検を行うことで業務改善に取り組む。

それによって、Plan-Do-Check-Action（計画-実行-監視-改善）のサイクルを確立する。

自己点検の拠り所となるのは、来館者に対するアンケート調査である。統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を加え、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。平成26年度は、以下の活動を行った。

- 1 アンケート調査結果の集計と分析
 - A. 展覧会観覧者アンケート（3本）
 - B. 教育・普及プログラム参加者アンケート（実技系・イベント系）
 - C. 付帯施設（レストラン、ミュージアム・ミュージアムショップ）
 - D. 美術館ホームページによるアンケート

（2）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会及び学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼する。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【】内は専門分野）

坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／お茶の水女子大学
名誉教授
潮江 宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立美術館館長
山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所企画
情報部副部長
榎原 悟【日本画】／岡崎市美術博物館館長、
群馬県立女子大学教授
金原 宏行【教育普及・日本画】／豊橋市美術博物館
館長、常葉美術館顧問

■開催記録

平成26年7月3日

- ・平成25年度 研究活動評価について
- ・平成26年度 研究活動評価について
- ・今後の研究活動についての意見交換
- ・「没後百年 日本写真の開拓者」展の視察及び評価・提言

平成26年8月20日、21日

- ・「アニマルワールド」展の視察及び評価・提言

平成26年9月23日、9月25日

- ・「美少女の美術史」展の視察及び評価・提言

平成26年11月30日、12月1日

- ・「風景解剖学」展の視察及び評価・提言

平成27年2月6日、2月13日

- ・「石田徹也－ノート、夢のしるし」展の視察及び評価・提言

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要綱

（設置）

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関する刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条 委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業。
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物。
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項。

（組織）

第3条 委員は5名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要のあるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

（委嘱）

第4条 委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

（任期）

第5条 委員の任期は2年とする。

2

委員は再任することができる。

（委任）

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、多様な資料（写真や二次資料等）の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究（記録・整理を含む）等。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ／学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者（学芸員）の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ（新たな価値基準の提示）、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要／館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します

【重点目標1】新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します

展覧会活動 展覧会一覧

企画展						収蔵品展
1	2	3	4	5	6	7
4 APRIL	4 / 4 (金) ~ 5 / 25 (日) 大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ —ポスターのある街角	4 / 1 (火) ~ 5 / 25 (日) 新収蔵品展				
5 MAY						
6 JUNE	6 / 10 (火) ~ 7 / 21 (月祝) 没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	6 / 10 (火) ~ 7 / 21 (月祝) 静岡ゆかりの日本洋画—近年の御寄贈品を中心に				
7 JULY						
8 AUGUST	7 / 29 (火) ~ 9 / 7 (日) アニマルワールド —美術のなかのどうぶつたち	7 / 23 (水) ~ 9 / 7 (日) 水辺のアート				
9 SEPTEMBER	9 / 20 (土) ~ 11 / 16 (日)	9 / 9 (火) ~ 11 / 16 (日) 西洋の絵画 —画材とともに				
10 OCTOBER						
11 NOVEMBER						
12 DECEMBER	11 / 26 (水) ~ 1 / 4 (日) 静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学 —古今東西、風景画のしくみ	11 / 18 (火) ~ 1 / 4 (日) 風景解剖学 —空				
1 JANUARY						
2 FEBRUARY	1 / 24 (土) ~ 3 / 25 (水) 石田徹也展 —ノート、夢のしるし	1 / 24 (土) ~ 3 / 1 (日) 富士山の日記念展示 富士山の絵画				
3 MARCH						
		3 / 3 (火) ~ 3 / 31 (火) ロダン館開館20周年関連展示 人を描く				

観覧者数一覧

展 覧 会		会 期		観覧者 見込数	観 覧 者 数						
		期 間	日数		一 般	高校・大学	小・中学	70歳以上	招待・減免	実績数	対見込
企 画 展	佐伯祐三とパリ	4 / 4 ~ 5 / 25	46	35,000	10,709	768	770	2,642	4,034	18,923	54.1
	下岡蓮杖	6 / 10 ~ 7 / 21	37	12,000	2,098	537	413	622	1,599	5,269	43.9
	アニマルワールド	7 / 29 ~ 9 / 7	36	17,000	10,416	1,177	2,077	1,372	3,023	18,065	106.3
	美少女の美術史	9 / 20 ~ 11 / 16	50	15,000	9,701	4,366	2,740	903	3,437	21,147	141.0
	風景解剖学	11 / 26 ~ 1 / 4	30	11,000	1,972	575	853	531	(注1) 2,886	6,817	62.0
	石田徹也展	1 / 24 ~ 3 / 25	53	20,000	8,766	1,684	1,774	747	2,942	15,913	79.6
	小 計		252	110,000	43,662	9,107	8,627	6,817	17,921	86,134	78.3
収蔵品展		4 / 1 ~ 3 / 31	282	20,000	4,427	(注2) 1,653	—	1,047	1,403	8,530	42.7
合 計				130,000	48,089	10,760	8,627	7,864	19,324	94,664	72.8
移動美術展	沼津市	10 / 4 ~ 10 / 26	20	10,000	—	—	—	—	—	1,503	21.2
	菊川町	11 / 8 ~ 11 / 24	15		—	—	—	—	—	—	

(注1)「こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業」による観覧者（中学生1,661人）を含む。

(注2)「小・中学生」の観覧者数を含む。

■年度別観覧者数

(単位：人)

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746	平成13年度	207,340
昭和62年度	174,031	平成14年度	170,390
昭和63年度	214,156	平成15年度	184,095
平成元年度	229,258	平成16年度	146,706
平成 2 年度	233,904	平成17年度	129,768
平成 3 年度	190,361	平成18年度	222,608
平成 4 年度	173,665	平成19年度	184,535
平成 5 年度	218,921	平成20年度	190,669
平成 6 年度	410,182	平成21年度	101,792
平成 7 年度	245,028	平成22年度	264,207
平成 8 年度	178,701	平成23年度	126,626
平成 9 年度	127,299	平成24年度	163,533
平成10年度	153,099	平成25年度	139,428
平成11年度	107,977	平成26年度	94,664
平成12年度	146,833	累計	5,475,522

(企画展)

静岡第一テレビ 開局35周年記念

大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

主 催：静岡県立美術館、静岡第一テレビ、大阪新美術館建設準備室、読売新聞社、美術館連絡協議会
協 賛：損保ジャパン、清水建設、ライオン、大日本印刷
協 力：静岡日仏協会
会 期：平成26年4月4日（金）～5月25日（日）

■概要

近代日本洋画において、際だった個性の輝きを放つ佐伯祐三（1898-1928）。大阪に生まれた佐伯は、東京美術学校で学んだ後、パリに渡って魂のすべてを燃やし尽くすかのように絵画制作に打ち込み、わずか30歳でその命をパリで終えたことで知られる。短くも情熱に満ちた生涯が生み出した作品は鮮やかなきらめきを放ち、死後80年以上を経た現在も、多くの人々を魅了し続けている。佐伯の出身地に建設予定の大坂新美術館は、いち早くこの画家の才気に気づいた実業家・山本發次郎の収集品を基盤とする、日本最大かつ最高水準とされる佐伯祐三コレクションを誇る。本展では、この珠玉のコレクションから佐伯作品58点を一堂に展示し、この夭折の画家の留学前から晩年までの波乱に満ちた画業をたどった。同時に、里見勝蔵やモーリス・ド・ヴラマンクなど、フランスで交流のあった画家たちの作品を展示するとともに、1920年代前後のパリの街角を飾ったポスター作品（サントリーポスターコレクション）も出品し、佐伯を魅惑して止まなかった芸術の都パリの街角の華やぎを垣間見る展覧会ともなった。

■関連事業

- ・展覧会プレ企画 トークセッション「映画×宝塚！？佐伯祐三が憧れた1920年代のパリをもっと知る二つのキーワード」
2月28日（金）18:30～20:00／Business Community LINK 1F（静岡市葵区紺屋町8-12金清軒ビル1F）
講師：スティーヴ・コルベイ氏（静岡大学人文社会学部講師）、三谷理華（当館学芸員）
共催：静岡日仏協会
- ・特別講演会
「佐伯祐三と1920年代のパリ」
4月26日（土） 14:00～15:30／当館講堂
講師：熊田司氏（和歌山県立近代美術館館長）
- ・またたりロビーコンサート
「佐伯祐三が愛したパリの音楽」
5月5日（月・祝）11:00～11:30、14:00～14:30
／当館エントランス
出演：カオリアコーディオン氏（アコーディオン奏者）
- ・美術講座
「佐伯祐三と1920年代のパリ」
5月11日（日）14:00～15:30／当館講座室
講師：三谷理華（当館学芸員）

「1920年代、パリの諸相—エコール・ド・パリ、アル・デコ、宝塚少女歌劇」

5月10日（土） 14:00～15:30／当館講座室

講師：三谷理華（当館学芸員）

・学芸員によるフロアレクチャー

4月27日（日）、5月11日（日）各日14:00より30分程度／当館展示室

■図録

発 行：読売新聞大阪本社

仕 様：B5変形横版162頁

内 容：

ごあいさつ

熊田司「1924／28年、パリの佐伯祐三一大通りと横丁」

図版

畠田章「佐伯祐三が見たパリのポスター」

高柳有紀子「壁と線—『佐伯祐三のパリ』に見るもの」

佐伯祐三年譜

作家解説

関連地図

出品リスト

■出品目録

pp. 88-92 を参照



▲チラシ

没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖

主 催：静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
後 援：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保
助 成：芸術文化振興基金助成事業
協 力：下田商工会議所
会 期：平成26年6月10日（火）～7月21日（月祝）
休 館 日：毎週月曜日 ただし、7月21日（月祝）は開館

■概要

下岡蓮杖（1823-1914年）は日本の写真開祖の一人。幕末に下田で生まれ、初め絵師を目指して狩野派に入門した。その後独学で写真術の習得に努め、横浜で写場を構えた。進取の気性に富み、日本画のみならず、油彩画を含む絵画制作も続ける一方、石版画作品にも挑戦し、淨瑠璃を創作するなど、実に多彩な芸術活動を繰り広げた。蓮杖没後100年にあたる本年、本展は、写真を中心に、絵画、工芸品と資料など約280点によって、知られざる蓮杖の全貌を紹介する大回顧展となった。当館で日本の初期写真を展示する初の試みであると同時に、知られざる郷土の作家を紹介する機会ともなった。

なお、図録は日・英の完全バイリンガルで、本展関連の公式ガイドブックかつ一般図書として出版・販売された。

■会期中イベント

- 特別講演会
「浅草の変人奇人、下岡蓮杖のこと」
6月28日（土）14:00～15:30／当館講座室
講師：木下直之氏（東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学講座教授）
- 美術講座
「下岡蓮杖の写真と技術」
6月29日（日）14:00～15:30／当館展示室、当館講座室
講師：三井圭司氏（東京都写真美術館学芸員、本展企画・監修者）
- 学芸員によるフロアレクチャー
7月5日（土）、12日（土）
各日14:00（各回30～40分程度）
- コンサート
「下岡蓮杖展 渡辺鳳代賀（箏・三絃）ミニ・コンサート 邦楽で楽しむ明治から昭和の日本」
7月6日（日）14:00～（1時間程度）／当館展示室
演奏：渡辺鳳代賀氏（箏・三絃）
助演：青木康晴氏（尺八）
協力：静岡音楽館AOI

- 実技講座「遠近法を知って日本画を描こう」
7月20日（日）10:30～16:30／当館実技室
講師：日下文氏（日本画家、当館実技室インストラクター）

■図録

- 『下岡蓮杖 日本写真の開拓者』
監修：東京都写真美術館
編集：三井圭司、鳥海早喜（東京都写真美術館）
発行：株式会社図書刊行会
印刷・製本：三松堂株式会社
仕様：26.5×19 cm 236頁
内容：
謝辞
森重和雄「幕末明治の写真師 下岡蓮杖」
図版
論考
斎藤多喜夫「下田・浦賀・横浜時代の下岡蓮杖」
石黒敬章「下岡蓮杖のヌード写真」
セヴァスティヤン・ドブソン「ジョン・ウィルソン（1816～1868）～「ウンシン」と呼ばれた写真師～」
南美幸「絵師・下岡蓮杖に関する一考察～西洋的手法から見る作画態度～」
三井圭司「日本写真の開拓者 下岡蓮杖～写真史における位置とその作例～」
資料編
天野圭悟 山口才一郎「写真事歴」現代語訳
年表 印譜 家系図
参考文献

■関連記事

- サンケイ新聞（5/12）展覧会紹介記事
- 伊豆新聞下田版（5/22）展覧会紹介記事
- 静岡新聞（6/10 朝刊）展覧会紹介記事
- 読売新聞（6/10 朝刊）展覧会紹介記事
- 読売新聞（6/12、13、14）「下岡蓮杖展」上・中・下連載
- 静岡新聞（6/27朝刊）展覧会紹介記事

■出品目録

pp. 93-101 を参照



▲チラシ

アニマルワールド —美術のなかのどうぶつたち

主 催：静岡県立美術館、静岡朝日テレビ
会 期：平成26年7月29日（火）～9月7日（日）

■概要

古来、美術の世界では様々な形で動物たちが表現されてきた。ときに愛らしく、ときに優美なその姿は、たんに美しいものや身近な存在に対する愛着心ばかりでなく、出世や子孫繁栄といった種々の現実的な願いが投影されたものもあり、その意味では人間の実生活と密接に関わっていることができる。

本展では、当館所蔵・寄託作品を中心に、動物を描いた絵画を集めて展示し、動物園でおなじみの人気者から想像上の生き物まで、人間が動物たちに向かたまなざしと、そこに込められた意味を考えた。

開催にあたっては、日本平動物園と連携し、特別トークショーや動物を題材にした実技系講座など、鑑賞と絡めた各種イベントを実施、鑑賞者の興味を喚起するとともに鑑賞満足度を高めた。また共通チケットを販売するなど広報面でも有益であった。日本平ホテルとの連携企画も周知広報の点で効果があり、これら近在機関との協力体制が実績を挙げたことはひとつの成果といえる。

■会期中イベント

・特別トークショー

「どうぶつ絵画の不都合な真実」

8月24日（日）14:00～15:30／当館講堂

講師：柿島安博氏（静岡市立日本平動物園飼育担当課長・獣医師）

福士雄也（当館主任学芸員）

・わくわくアトリエ

「みんなで動物園をつくろう！」

8月16日（土）10:00～16:00／当館実技室

協力：弓削美可子氏（静岡市立日本平動物園飼育員）

・学芸員によるフロアレクチャー

8月3日（日）、17日（日）14:00～15:00

8月9日（土）18:00～19:00／当館展示室

■関連記事等

- ・長澤芦雪の「人物花鳥図巻」発見『毎日新聞』7月25日
- ・日曜美術館アートシーン NHK教育 8月10日、17日放送
- ・（展覧会紹介）『静岡新聞』8月15日
- ・（展覧会紹介）『産経新聞』8月18日
- ・蘆雪の絵巻物発見 16メートルの大作『静岡新聞』8月22日
- ・SAPIO美術館 伊藤若冲「樹花鳥獸図屏風」『SAPIO』9月号

・新発見！カワイイ日本画 長澤芦雪の「人物花鳥図巻」
『AERA』9月号

■図録

編集・発行：静岡県立美術館

制 作：ニューカラー写真印刷株式会社

仕 様：A4版 144ページ

内 容：

ごあいさつ

福士雄也「動物絵画をめぐる四つの断章」

図版・作品解説

主要参考文献

落款・印章

出品目録

■出品目録

pp. 102-104 を参照



▲チラシ

美少女の美術史

主 催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送
協 賛：ヤマトロジスティクス株式会社
助 成：一般財団法人地域創造
協 力：株式会社アートボックス
企 画：トリメガ研究所
会 期：平成26年9月20日（土）～11月16日（日）

■概要

世界の注目を集める日本の漫画やアニメ。その中でも「美少女」は突出したモチーフであるといえる。これを現代固有の事象としてのみならず、古くから日本の視覚文化において重要な役割を果たしてきた存在と捉え、美術、文学、漫画、アニメ、フィギュアなど様々な領域を横断しながら過去と現在の日本の視覚文化を考察することを主たる狙いとした。

展示構成においては「アニメや漫画の素材をたんに並べるだけ」の展覧会とは差別化を図ることを目指した。具体的には、歴史的に回顧された少女モチーフとの共通点や相違点を探ることで、温故知新的に現代日本文化について考えるきっかけとなるような展示を試みた。

静岡展の付帯イベントとして、企画者鼎談、出品作家（ob氏）によるワークショップを開催した。平素当館でみることの少ないハイティーンから学生、若手社会人といった層の参加者が集まり、現代アートの最前線で活躍する若手作家と作品制作を通じて交流する場を持つことができた。

本展は青森県立美術館および島根県立石見美術館との共同企画巡回展として開催したが、地方館の横の連携の成果として注目を集め、青山ブックセンターなどから声がけいただき、東京での企画者鼎談イベントも行った。

なお、関係各位の尽力により、本展は各紙誌上で内容において高い評価を受けた。『朝日新聞』（10月15日）では大西若人氏（同紙編集委員）が、『公明新聞』（同日）では、無署名記者氏がそれぞれ展示の現代的意義を踏まえた展評を執筆された。また、『芸術批評誌リア』33号（12月22日）では、コルベイユ・スティーブ氏（静岡大学）が美術史もしくは視覚文化論の観点から同展を評価されるエッセイを執筆された。

なお、本展は美術館連絡協議会から「2014年美連協奨励賞」を受けた。

■関連事業

- ・「トリメガ研究所」トークショー
9月20日（土） 14:00～15:30／当館講堂
パネリスト（50音順）：川西由里氏（島根県立石見美術館）、工藤健志氏（青森県立美術館）、村上敬（当館）
- ・ワークショップ「美少女を描いてみよう～in静岡」
10月18日（土）、19日（日）10:00～16:00頃

／当館実技室

講師：ob氏（本展出品作家）

- ・学芸員によるフロアレクチャー

10月12日（日）、26日（日）各日14:00から30分程度

／当館展示室

■図録

編 集：「美少女の美術史」展実行委員会（川西由里、工藤健志、村上敬）

執 筆：川西由里、工藤健志、村上敬

デザイン：塙原敬史（トリムデザイン）

発 行 者：安田洋子

発 行 所：株式会社青幻舎

仕 様：25.6×18.1 cm 256ページ

内 容：

「美少女の美術史」展企画者座談会

図版目録

川西由里「少女が見る美少女の夢一見る、描く、見せる」

工藤健志「『少女』をめぐる断想」

村上敬「江戸の室内風俗図から明治の外光派少女風俗画へ—少女洋画史への試み」

掲載作品一覧

■出品目録

pp. 105-116 を参照



▲チラシ

風景解剖学－古今東西、風景画のしくみ－

主 催：静岡県立美術館

会 期：平成26年11月26日（木）～平成27年1月4日（日）

■概要

当館では開館以来、「東西の風景画」を柱の一つとしてコレクション収集を続けてきた。

本展では風景画コレクションの魅力を再発見すべく、風景表現の構造や意味を分かりやすく提示することを目標として定め、そのために風景表現を構成する「パーツ」に着目した。

風景表現は空や水や山、建物や人など、様々なパーツを組み合わせることで成り立ち、画家が画面上でそれらのパーツを選び、自由に組み合わせていると考えることもできる。

このような考えのもとに「人」「地面」「山」「建物」「道」「水」「空」とパーツごとにテーマを設けて会場を構成し、各パーツがもつ役割や意味、そして画家がいかなる工夫を払って画面を構成しているかについて検証した。一方で制作年代や地域については区切りを設けず、様々な種類の作品が混交し、新鮮な視覚的体験ができる空間を目指した。

■関連事業

・特別講演会

「風景と美術と解剖学」

12月7日（日）14:00～15:30／当館講堂

講師：布施英利氏（美術評論家、東京藝術大学准教授）

・実技講座

「絵画の素材」

12月13日（土）、14日（日）／当館実技室

講師：末永敏明氏（東北芸術工科大学教授）

・わくわくアトリエ

講師：森谷明子氏（日本画家）

12月23日（火・祝）

・親子で楽しむ風景画の魅力

12月21日（日）1回目11:30～、2回目13:30～

（各回30分程度）／当館展示室

・学芸員によるフロアレクチャー

12月6日（土）、13日（土）、1月2日（金）、3日（土）

各日14:00から30分程度／当館展示室

・美術館に初もうで！

1月2日（金）～4日（土）

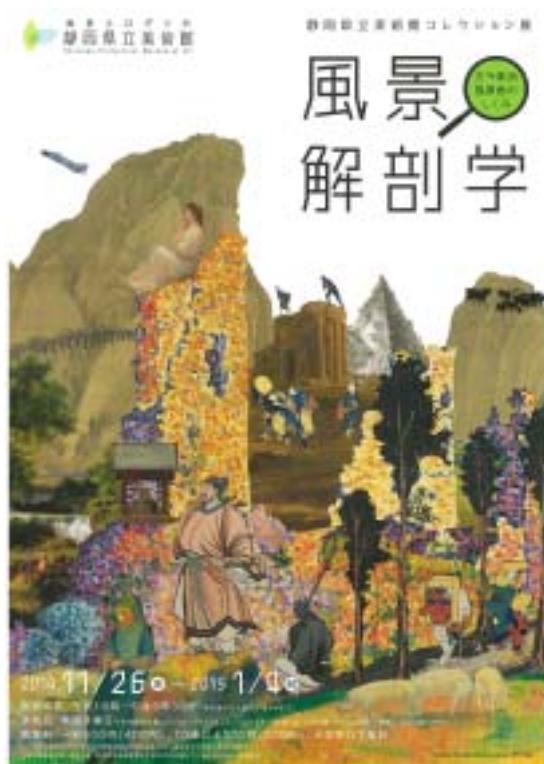
展覧会観覧者に先着順でポストカードなどが当たる「おみくじ」を配布。また、1月2日には先着順で来館者にお汁粉を無料でサービスした。

■関連記事

- （展覧会紹介）産経新聞（12/1）
- （展覧会紹介）静岡新聞（11/28）
- （作品紹介）静岡新聞（12/12）
- （作品紹介）静岡新聞（夕）自在（12/13）
- （展覧会紹介）朝日新聞（夕）（12/24）

■出品目録

pp. 117-121 を参照



▲チラシ

石田徹也展 ーノート、夢のしるし

主 催：静岡県立美術館、読売新聞社、美術連絡協議会、テレビ静岡
協 賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
会 期：平成27年1月24日（土）～3月25日（水）

■概要

1973年、静岡県焼津市に生まれた石田徹也は、社会に渦巻く不安に目を向け、時に辛辣に、時にユーモラスに描き続けた。気鋭の画家として注目を集めはじめた矢先、2005年に踏切事故により、31歳の若さでその生涯を閉じた。没後、遺作展の開催や遺作集が刊行され、メディアでも取り上げられ、大きな社会的反響を呼んでいる。当館では、作家の遺族より寄贈を受けた絵画作品21点を所蔵している。本展覧会では、これら静岡県立美術館の所蔵する作品に、個人所蔵の作品を加えた約100点と、スケッチブックやノートに残された、下絵・アイデアスケッチ・言葉とを並置して紹介し、制作の過程や思考の跡をたどる展示を行った。準備段階では、同展企画者の堀切正人氏（常葉大学准教授）と、巡回館の足利市立美術館、平塚市美術館、砺波市美術館の学芸員とが共働で調査をし、時代別に分担して作品と資料の分析を行った。これら研究の成果を反映した展覧会カタログは、2013年度の美術館連絡協議会の優秀カタログ賞に選ばれるなど、外部からの高い評価を得た。

また、会期中には、作家へのメッセージコーナーを設け、200人を超える参加があった。中身の濃いメッセージからは、鑑賞者の満足度をうかがい知ることができた。

■関連事業

- トーキイベント
「石田徹也の発想の源をさぐる」
2月15日（日） 14:00～15:30／当館講堂
平林勇氏（映像作家・CMディレクター）
- 美術講座
(1) 「石田徹也のノート類について」
1月25日（日） 14:00～15:30／当館講座室
堀切正人氏（常葉大学 准教授・常葉美術館 館長）
(2) 「石田徹也の時代」
3月1日（日） 14:00～15:30／当館講座室
川谷承子（当館上席学芸員）
- 親子ギャラリーツアー 「見て・観て・感じて伝えよう」
3月8日（日） 11:00～、13:00～、14:00～（各回30分程度）／当館展示室
松浦文香（当館臨時職員）、当館インターナン

- ・インターンギャラリーツアー 「見て・観て・感じて伝えよう」
3月19日（木） 14:00～、15:00～（各回30分程度）／当館展示室
ナビゲーター：松浦文香（当館臨時職員）、当館インターナン
- ・当館ボランティアによるギャラリーツアー
2月28日（土）、3月15日（日）
各日11:00～、12:00（各回30分程度）／当館展示室
- ・関連ワークショップ
「わたし」が背景にはいったら
2月11日（水・祝） 午前の部 10:15～12:45、午後の部 13:45～16:15

■図録

- 企 画：堀切正人（常葉大学）
編 著：江尻潔（足利市立美術館）、川谷承子、杉本積（砺波市美術館）、勝山滋（平塚市美術館）、堀切正人、福島直（足利市立美術館）
編集・構成：清水恭子（求龍堂）
発 行：求龍堂
装 帧：佐々木暁
印 刷：光村印刷株式会社
仕 様：24.7×18.3cm 334ページ
内 容：
論考：「痛み」としての地図 江尻 潔
1章 起点「創作方法を探したい」
論考：川谷承子「石田徹也とその世代」
2章 漂う人「現実の何かに光をあてる」
論考：杉本積「石田徹也の作風と変化－1」
3章 変化「他人の自画像」
論考：杉本積「石田徹也の作風の変化－2」
4章 ユーモア「ナンセンスへと近づくことだ」
論考：勝山滋「石田徹也特有のギャグ性について」
5章 再生「とにかくかく」
論考：堀切正人「石田徹也のノート類について」
6章 発想源
解説：福島直
資料 作品リスト、年譜、文献目録

■出品目録

pp. 122-125 を参照



ノート夢のしるし

石田徹也展

2015年1月24日土～3月25日水

開館時間／午前10時～午後5時（最終受入時間は午後4時30分まで）
休館日／毎週月曜日、1月1日、2月14日、3月25日
料金／一般 600円、中学生以上400円、3歳未満入館無料
会場／静岡県立美術館
主催／静岡県立美術館、株式会社、ホーリー・アーツ、アート・アンド・カルチャー・コンサルティング
協賛／スライク・ホールディングス、大日本印刷、加賀屋(株)、日本興業

展示場／静岡県立美術館
静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

▲チラシ

【運営基本方針A】人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を開催します
【重点目標2】他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します
(調査研究活動)

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って、研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成績品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第30号

■版型 29.7×21.0 cm

■頁数 68ページ

■発行日 平成27年3月31日

■内 容

□口絵図版

- ・二見彰一《旅の夜に》、《カクテルタイム》、《黄昏の古都物語から》、版画集『詩からの贈りもの 八木重吉の十一の詩と二見彰一の銅版画十葉』より、《白い枝》、《フェアリの国》、《おほぞらのこころ》、《花になりたい》、《剣を持つ者》、《空を指す梢》、《彫られた空》、《秋の日のこころ》、《花がふってくると思ふ》、《光》

※上記いずれにも、二見彰一氏自身による刷り、原版、柳本一英氏による刷りを併載。

- ・曾宮一念《毛無連峯》

□論文

- ・新田建史「二見彰一氏作銅版画の柳本一英氏による刷りについて」
- ・三谷理華「ラファエル・コラン(1850-1916)一関連一時資料類にみる画家を取り巻く交遊の諸相」
- ・泰井良「曾宮一念《毛無連峯》に関する試論～「もうひとつの絶筆」をめぐって～」

□各論目・英レジュメ



(表紙)

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・書籍執筆・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌・ニュースレターなどへの寄稿や、一般向け講演、館内研究会、図録の作品解説などは除いている。

■泉万里

- ・論文「田囃子・桂男・乗牛風流——月次祭礼図模本にみる中世の夏」（小泉和子編『新体系日本史』14 生活文化史 山川出版 平成26年4月）
- ・論文「浜松図屏風（文化庁蔵）——海辺の四季絵」（『國華』1432号、平成27年2月）
- ・作品紹介「三十六歌仙絵」（富士市立博物館編『六所家総合調査報告書 美術・書画』富士市教育委員会 平成27年3月）
- ・作品紹介「絹本着色 江戸風景図」、「紙本金地着色 竹梅図・紙本着色 草虫図衝立」（鳥取県教育委員会編刊『鳥取県文化財調査報告書』第20集 平成27年3月）
- ・分担執筆「第6章 桃山時代」（山下裕二・高岸輝監修『日本美術史』 美術出版社 平成26年4月）

■三谷理華

- ・口頭発表「ロダンとラファエル・コラン—ロダン美術館所蔵の関連一次資料にみる交友の諸相」（ロダン館開館20周年記念国際シンポジウム、当館講堂、平成26年10月31日）

■新田建史

- ・論文「二見彰一氏作銅版画の柳本一英氏による刷りについて」（『静岡県立美術館紀要』第30号、平成27年3月）
- ・論文「二見彰一と日本の戦後現代版画について（抄）」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』No.115、平成26年10月）

■村上敬

- ・論文「江戸の室内風俗図から明治の外光派少女風俗画へ——少女洋画史への試み」（『美少女の美術史——浮世絵からポップカルチャー、現代美術にみる“少女”的なたち』青幻舎、平成26年7月）

■泰井良

- ・論文「曾宮一念《毛無連峯》に関する試論～「もうひとつ絶筆をめぐって」」（『静岡県立美術館紀要』第30号 平成27年3月31日）

- ・論文「黒田清輝《富士之図(六点)》について(静岡県立美術館ニュース『アマリリス』No.116 平成27年1月)

■石上充代

- ・論文「鈴木松年《日本武尊・素戔鳴尊図屏風》一右隻主題の検討を中心にー」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』No.113、平成26年4月）

■福士雄也

- ・論文「動物絵画をめぐる四つの断章」（『アニマルワールド—美術のなかのどうぶつたち』静岡県立美術館、平成26年7月）

■浦澤倫太郎

- ・論文「館蔵品紹介《都鄙図屏風》をめぐって」（静岡県立美術館ニュース『アマリリス』No.114、平成26年7月）

研究会

平成26年度に開催された研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は準備室時代から始まり、現在まで継続している。発表者は学芸課職員だが、今年度は館長みずからが率先して発表を行い、その研究姿勢を示した。発表内容は、原則的には自由だが、担当する展覧会企画や館蔵品にかかわるものも多い。発表時間は発表後の質疑応答も含め、約1時間である。

4月

漱石のモナ・リザ

芳賀徹

夏目漱石はロンドン留学中の1902年にピカデリーの王立美術院の「昔日の巨匠展」に出品されていた「モナ・リザ」を見、その妖しさに魅了されて短編「モナリサ」を書いた。しかし、漱石がロンドンで見た絵は、ルーブル美術館にある真作ではなく、模作であった。ただし、模作とはいえ上質の画材を使って17世紀初めごろに描かれ、英國名門貴族の家に伝来していたものだった。漱石はルーブルに立ち寄ることなく、上質な模作を凝視することで、メリメ風ともいべき怪奇美術譚一編をものしたのである。

明治時代から大正時代にかけて、多くの日本人がモナ・リザを見つめてきたが、漱石の模作を介してのモナ・リザとの出会いもまた、「近代日本におけるモナ・リザ受容史」のなかの一章たりえるものだろう。

5月

平安時代の七夕の造形

泉万里

七夕に関連する平安時代の絵画としておもに「昆明池障子」をとりあげる。

「昆明池障子」は、十世紀以来、清涼殿に常設されていた衝立の名称で、表面に中国の名所昆明池（唐絵）を描き、裏面に嵯峨野の秋の鷹狩（やまと絵）を描くものである。十二世紀後半の「伴大納言絵巻」（出光美術館蔵）の画中画が、平安時代の「昆明池障子」をしのぶ唯一の手がかりである。

この絵について漢の武帝が掘削した軍事訓練用の池を描く図と説明してきた。しかし、全体的にさびしく空疎なこの風景は、杜甫の「秋興」の第七節がうたう、牽牛織女の石像がむなしく立ち尽くす昆明池のイメージに近い。確証は得られないが、「昆明池図」は、平安貴族にとって親しいものであった杜甫の詩を、本文として描かれた可能性を指摘したい。

6月

下岡蓮杖のキリスト教絵画——「手本」を中心とする考察

南美幸

今年度の企画展「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」に出品された、下岡蓮杖制作のキリスト教絵画2点を中心に発表を行なった。なお、この内容は当館研究紀要29号でも論題として取り上げたものである。下岡蓮杖（1823～1914）は日本草創期の写真師として知られるが、狩野派に学んだ絵師でもあり、後クリスチャンとなった。蓮杖による《ゲッセマネに祈るキリスト》、《キリスト昇天の図》は、キリスト教を題材とする、開国後の日本におけるきわめて初期の宗教画であると考えられる。まず両作品の基本データについて述べ、蓮杖の基本的な作画姿勢と当時の美術界における西洋宗教画の状況を踏まえつつ、次にこれらが模写であると考えられることからその原図、また模写にあたって蓮杖が参照した可能性のあるイメージ・ソースを探るとともに、蓮杖の絵画歷におけるこれらの位置づけを試みた。

7月

二見彰一銅版画作品の刷りについて

新田建史

アクアチントの作家、二見彰一氏（1932～）の個展を静岡県立美術館で開催した際（2013（平成25）年11月22日（金）～2014（平成26）年1月19日（日））、刷り上がった作品だけではなく、その銅版も併せて展示された。銅版画、リトグラフの作家柳本一英氏がこれを見、自分でその版を刷ってみることを希望された。驚くべきことに二見氏はこれを許可した上、色調や版の使い方など、全てを自由に試みることを許可している。研究会では、この時の両者の刷りを、実物で比較検討し、同一技法、同一の版でありながら、どれだけの差異が生じるものかを紹介した。また、この試みが、単に技術の優劣を競うというものではなく、作家相互に行われた非言語のコミュニケーションであったこと、美術作品には本来、言語化や数値化によってこぼれ落ちる要素が多分に含まれていること等を述べた。

10月

世界のなかの富士山

浦澤倫太郎

平成27年度に開催の展覧会「富士山 一信仰と芸術一」中の第3章「世界の中の富士山」に出品予定の作品を中心に考察を加えた。富士山の姿を瀟湘八景と重ね合わせる例や、あるいは狩野探幽《富士山・金山寺・阿育王寺図》に見られるように雪舟を意識しながらも、富士山と

中国の名勝を組み合わせた例がある。こうした富士山図を、富士山を中国の名山名勝にも比肩しうる存在に位置付ける試みとして、その在り方を探った。

また展覧会とは直接は関係しないが、富士山図との比較を狙い、中国から舶載された名山図集の版本を江戸時代の絵師たちがどのように受容したのか、個々の作例を見ながら振り返った。

12月

TAKARAZUKA REVUE 事始めの事始め——1930（昭和5）年、レビュー『パリゼット』をめぐる白井鐵造とパリ

三谷理華

白井鐵造（1900-1983）は、静岡県に生まれ、宝塚少女歌劇団（1938年より宝塚歌劇団）の座付き演出家として戦前から戦後の長きにわたり活躍した。その最大の功績は、最初の渡欧より帰朝した直後に発表した、レビュー『パリゼット』（1930年）により、歌劇団にパリを中心に隆盛をみていた「レビュー」を根付かせ、今日の歌劇団の一つの主要な演目スタイルの礎を築いたことにあるだろう。

本発表では、白井が洋行時に目にした「パリ」の様相と、レビューの中に取り入れた「パリ」の要素を指摘し、この演出家が移入を目指した「レビュー」のあり方とはいかなるものであったのかについて、分析を試みた。結果、白井はパリのレビューにみられた個別の諸要素の移入のみならず、ダンス、演劇、美術が一体となった「総合芸術」としての側面に大衆的娯楽性を加味したレビューのスタイルを目指したのではないかと推察するに至った。

長船恒利の「在るもの」をめぐって

川谷承子

1943年、北海道小樽市に生れた長船恒利は、1964年に静岡へ移住の後、県立高校の教員として生計を立てながら、写真家として活動した。発表者はグループ「幻触」の調査の途中に、長船の写真と出会い、関心を持って以来、作品や資料の調査を行っている。発表では、長船が1977年～1991年にかけて発表したシリーズ「在るもの」を取り上げ、都市、およびその周辺を素材として、主体としての「私」を入れずに、「あるものがあるがままにしっかりと写しとる」という考えのもと制作された点を確認した。また、本職は教員であった長船が、写真家としての活動の拠点としていた、GIG（静岡）、PUT（新宿）などの、写真の自主運営ギャラリーに言及し、こうした1970年代半ばから80年代半ばに日本各地に勃興した、自主運営ギャラリーが、日本の写真史において果たした役割、あるいは地方の表現者にとっての意義を整理した。

1月

曾宮一念の作品について

泰井良

本発表では、曾宮一念の画業をたどりながら、曾宮が風景画を描くことの意味を問うことを主な目的とした。

まず、曾宮が早稲田中学校および東京美術学校在学時代に描いた、新出の素描・水彩画の調査報告を行った。この中には、第8回文展に入選した《酒蔵》の下絵も含まれており、曾宮の作品研究にとって重要な資料である。また、これまで絶筆とれされてきた《毛無連峯》についての新知見について報告した。本作とそれ以後に制作されたとされる（ご令嬢である曾宮夕見氏の証言によって明らかになった）、もう一つの絶筆《失題 毛無山》との比較考察を試みた。

曾宮一念の生涯と画業は、眼の病との闘いであり、その中から風景の骨格を剥ぎ出すように力強い作品が多く生み出された。曾宮にとって、風景画を描くことは何なのかを問うために、作品や資料を紹介しながら様々な視点から検証した。

2月

橋本雅邦「三井寺」の主題——その意義と造形

石上充代

橋本雅邦《三井寺》（紙本着色、掛幅、当館蔵）は、明治27年（1894）に開催された東京美術学校成績物展覧会及校友会臨時大会の出品作である。生き別れの母子が鐘の音を機縁に再会するという謡曲『三井寺』に材を取り、幻の我が子を胸に抱き石段を駆け上がる、狂気の母の姿を描く。謡曲の高雅なイメージを離れ、登場人物の感情、ここでは子に対する母の深い愛情といったものに主眼を置いた構成は、当時美術学校において岡倉天心が推し進めようとした意匠研究や着想重視の制作方針に沿うものであり、教授雅邦がそれを優れた実作によって示したものと位置付けられる。また、下絵との比較などから、「駆け上がる」という運動性を伴った人物を表すための構図上の工夫が確認され、感情に突き動かされて動く身体をいかに表現するか、という苦心の跡には、近代画家としての雅邦の独自の創作を見ることができる。本作が美校教授としての模範作であることを考えるならば、制作者であり、また教育者であるという二面性を持つ雅邦の仕事の中で、教育者としての制作のうちに、より革新的なあり方が見られることが指摘できよう。

3月

少女洋画はなぜ少ないか？

村上敬

発表者は当年度の展覧会「美少女の美術史」展の準備段階で日本洋画分野の作品調査を行った。その結果、昭和戦前期の官展には「少女室内風俗画」ともいべき作品群が出品されていたこと、そしてその多くが現在行方不明であることを知った。これらの作品群は日本近代洋画史の形成過程においてかならずしも高く評価されず、ゆえに時代の進展にともなって淘汰され、現存数が少なくなってしまったのではないかと思われる。

しかしながら発表者は、こういった作品群の成立動因を「近世室内風俗画の伝統と近代の生活空間、そして外光派的絵画技法の融合」と捉えた。白馬会の風俗画はともすれば黒田のもくろんだ構想画をついに達成し得なかつたものとしてネガティヴに捉えられることなきにしもあらずだが、むしろ逆に近代洋画の新技法を近世以来の風俗画の伝統によって消化したものとして前向きに評価したい。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

(1) 作家（現代）人名別ファイル

(2) 館蔵品資料

(3) 出品作家資料

(4) 館蔵品収集に関する資料

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている

■館蔵品等のフィルム・デジタル画像作成整理

(1) 館蔵品のフィルム

新収蔵品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による写真撮影を行なっている。4×5インチまたはブローニー判のカラー・ポジフィルムを写真原板として、受入番号順フォルダに入れ、整理収納している。経年変化で劣化したものは、予算の範囲内で適宜再撮影を実施している。

(2) 館蔵品のデジタル画像

平成16年度からは、新収蔵品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影も行なっている。作成または撮影されたデジタル画像は、DVDなどで納品される。また課内PCにも保存され、研究、各種刊行物・広報物の作成、講演会や研究会等に活用されている。デジタル画像が作成されていない館蔵品もまだあり、それらの廻及撮影も懸案となっている。

(3) その他

館蔵品の他、寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、様々な形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料（美術館宛の個展案内状など）については、ボランティアの資料整理グループに整理を行なっていただいている、学芸員の研究などに活用されている。

■展覧会資料の整理

企画展等の文書及び資料については、各企画展毎に整理収納されている。

■コンピューターによる各種データ管理

館蔵品や図書などのデータベース作成には市販のデー

タベースソフト「桐」を使用している。

(1) 館蔵品

館蔵品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は主な作品については揃っているが、未作成の作品については順次作成を進めている。

履歴データは伝来、修復歴、展覧会出品歴、収蔵品展示歴、文献掲載歴の5種のファイルで構成され、館蔵品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、デジタル画像とリンクしている。新たに発生する履歴データは日常業務と連携し、蓄積することを目指しているが、見落し等によるデータの濃淡が散見され、問題となっている。

館蔵品データのバックアップを、館内だけではなく、館外の適切な場所に保管することも、防災対策上考えていかねばならない。

(2) 図書

図書データはデジタル化され、来館者による検索も閲覧室に設置されたPC上で行なうことができる（現在は修繕のため閉室中）。新規図書は、図書担当職員によってデータベース登録が行なわれている。

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受け入れには、次の3つを条件とし、本年度は7大学11名の実習生を受け入れた。

- (1) 県内出身者もしくは県内の大学に在籍していること。
- (2) 美学・美術史学、または美術教育・制作・政策等を専攻し、美術館で実習を行う合理的な理由があること。
- (3) 大学の推薦を受けていること。

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館界を支える一員としての素養を身につけてもらうことを目指している。カリキュラムは実習、講義、演習、見学からなり、それぞれを当館学芸課の職員が担当した。

本年度は「美術館は社会に必要か?」という総合テーマを設定し、現在の日本の美術館に期待されている社会の要請を、実習を通じて学生に考えてもらうことを目指した。このテーマに沿って、事前レポートの提出、発表、および実習後の成果をまとめた事後レポートの提出を義務づけ、学習効果の意識化と定着を図った。

*以下()内は当館担当者名

■実習内容

・実習

作品取扱実習(南、三谷、福士、石上、浦澤)

収蔵庫内実習(新田、村上、浦澤)

「美術館教室」補助体験(神谷)

・講義

県立美術館の概要(泉)

コレクション形成とその活用の工夫(泉)

展覧会ができるまで①:日本洋画展(泰井)

展覧会ができるまで②:日本画展(福士)

展覧会ができるまで③:現代美術展(川谷)

文化財の管理・保全(新田)

学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動(石上)

実技外イベントについて(川谷)

博物館評価と文化政策の基礎(泰井)

美術館と学校教育連携(三谷)

・演習

事前課題発表(村上)

・見学

施設見学①:裏方(村上)

施設見学②:表方(村上)

■カリキュラム

- (1) 10:00~10:50
- (2) 11:00~11:50
- (3) 13:00~13:50
- (4) 14:00~14:50
- (5) 15:00~15:50
- (6) 16:00~16:50

8月4日(月)

- (1) オリエンテーション(村上)
- (2) 県立美術館の概要(泉)
- (3~5) 事前課題発表、実習ノート整理(村上)
- (6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月5日(火)

- (1) 施設見学①:裏方(村上)
- (2) コレクション形成とその活用の工夫(泉)
- (3) 博物館評価と文化政策の基礎(泰井)
- (4) 施設見学②:表方(村上)
- (5) 展覧会ができるまで①:日本洋画展(泰井)
- (6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月6日(水)

- (1) 文化財の管理・保全(新田)
- (2) 展覧会ができるまで②:日本画展(福士)
- (3~5) 取り扱い実習(南、三谷、福士、石上、浦澤)
- (6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月7日(木)

- (1) 展覧会ができるまで③:現代美術展(川谷)
- (2) 実技外イベントについて(川谷)
- (3~5) 収蔵庫内実習(新田、村上、浦澤)
- (6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

8月8日(金)

- (1) 美術館と学校教育連携(三谷)
- (2) 学芸広報・HP等PR活動とボランティア活動(石上)
- (3~5) 「美術館教室」補助体験(神谷)
- (6) 課題制作・実習ノート整理(村上)

収蔵品展

当館の収蔵品を幅広くご観頂くため、新収蔵品のほか、日本画や西洋絵画、日本洋画、現代美術等、ジャンルごとにテーマを設定して展示を構成した。

また、企画展との部分にもなり得るテーマを設定し、全体としての鑑賞体験をより豊かにする試みも行われた。

本館1階エントランスにある名品コーナーでは、常時3点の作品を無料で公開しており、内1点は、富士山を描いた作品を展示するようにしている。本年度は、平成27年2月3日（火）～3月1日（日）の間、めぐるりアート作品を展示したため、当館収蔵品は展示されなかった。

本年度の収蔵品展は、以下の通りである。

■平成26年度収蔵品展

4月1日（火）～5月25日（日）

新収蔵品展

6月10日（火）～7月21日（月祝）

静岡ゆかりの日本洋画—近年の御寄贈品を中心に

7月23日（水）～9月7日（日）

水辺のアート

9月9日（火）～11月16日（日）

西洋の絵画—画材とともに

11月18日（火）～1月4日（日）

風景解剖学—空

1月24日（土）～3月1日（日）

富士山の日記念展示 富士山の絵画

3月3日（火）～3月31日（火）

ロダン館開館20周年関連展示一人を描く

■出品目録

pp. 126-129 を参照

移動美術展 「日本人の油彩画」

静岡県立美術館のコレクションは現在2,600点を超え、常時開催している収蔵品展は、多くの来館者からご好評をいただいている。しかし、静岡県は東西に広く、静岡市から遠く離れた地域では、これらのコレクションを鑑賞する機会に必ずしも恵まれているとはいえない。移動美術展は、開館以来、県内の遠方にあって、これら静岡県立美術館のコレクションをご覧いただくことが難しい方々のために、選りすぐりのコレクションを鑑賞いただく機会として開催するものである。

今回の移動美術展では、数あるコレクションの中から、明治以降の近代洋画、とりわけ「日本人の油彩画」を取り上げた。黒田清輝、和田英作、佐伯祐三、小出栄重といった当館の珠玉の日本洋画コレクションを通じ、日本人が西洋由来の油彩画をいかに受容し、日本人独自のものとして展開していくのか、日本人と油彩画の関係について見つめ直した。

沼津移動美術展 「日本人の油彩画」

会 場：モンミュゼ沼津 沼津市庄司美術館
会 期：平成26年10月4日（土）～10月26日（日）
主 催：静岡県立美術館、沼津市、沼津市教育委員会、
モンミュゼ沼津 沼津市庄司美術館
観覧料：無料

■会期中イベント

静岡県立美術館学芸員によるギャラリートーク
10月12日（日） 14：00～

■出品目録

p. 130 を参照



▲チラシ

菊川移動美術展 「日本人の油彩画」

会 場：菊川市歴史街道館
会 期：平成26年11月8日（土）～11月24日（月・振替休日）
主 催：静岡県立美術館、菊川市、菊川市教育委員会
観覧料：無料

■会期中イベント

静岡県立美術館学芸員によるギャラリートーク
11月16日（日） 14：00～

■出品目録

p. 130 を参照



▲チラシ

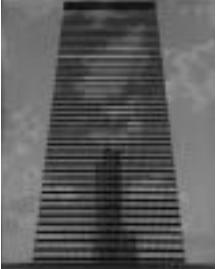
平成26年度 新収蔵品

当館における作品収集の主要な方針は以下のとおりである。

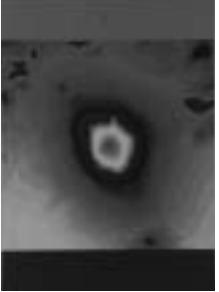
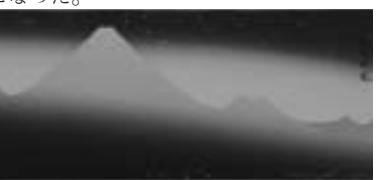
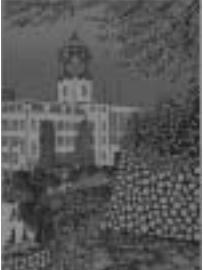
- ①17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画
- ②ロダンを中心とした国内外の近代以降の彫刻
- ③20世紀以降の美術動向を示す作品
- ④静岡県ゆかりの作家、作品
- ⑤富士山をモティーフとする作品

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	説明	写真
1	椿椿山	山海奇賞図巻	1830（文政13）	紙本淡彩	13.5×466.5	購入	江戸時代後期の絵師・椿椿山による、実際の風景をもとに描いた9図から構成される画巻。久能山周辺よりはじまり、東海道沿いから眺めた富士山の図が続き、箱根の図で終わる。富士山の秀麗な姿と江戸時代の東海道の光景がみずみずしい筆致でとらえられている。また以前から椿山の作として全3巻の『山海奇賞図巻』（重要文化財、個人蔵）が知られていたが、本作はその続きにあたる可能性が高い。	
2	杉浦俊香	溪山避暑図	1916（大正5）以前	絹本着色	168.0×86.0	杉浦徳融氏 寄贈	静岡ゆかりの作家・ 杉浦俊香の掛幅3件 をご遺族より頂戴した。 堅実な技法による 水墨山水、鮮やかな 濃彩と細緻な描写 が目を引く青緑山水、 いずれも高雅な趣を たたえ、俊香の山水 画の典型例を示す。	
3	杉浦俊香	山水図	20世紀前半 (明治-大正)	絹本着色	168.0×86.5	杉浦徳融氏 寄贈		
4	杉浦俊香	雪景山水図	20世紀前半 (明治-大正)	絹本着色	175.0×72.5	杉浦徳融氏 寄贈		

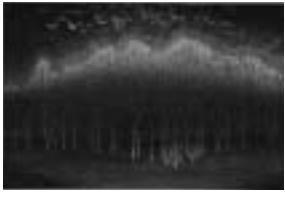
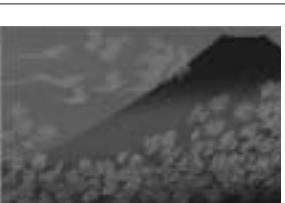
No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
5	速水御舟	芍薬図	1923（大正12）	紙本着色	55.1×44.5	伊藤恒道氏 寄贈	
6	伊藤隆史	生き物	1958（昭和33）	合板、油彩	72.0×92.0	伊藤恒子氏 寄贈	
7	伊藤隆史	現代人A	1959（昭和34）	合板、油彩	140.0×91.0	伊藤恒子氏 寄贈	
8	伊藤隆史	現代人	1959（昭和34）	合板、油彩	152.0×91.0	伊藤恒子氏 寄贈	
9	伊藤隆史	現代人	1960（昭和35）	合板、油彩	152.0×91.0	伊藤恒子氏 寄贈	
10	伊藤隆史	生き物	1961（昭和36）	合板、油彩	145.0×68.0	伊藤恒子氏 寄贈	

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
11	長岡宏	MITSUI BUILDING	1975 (昭和50)	キャンヴァス、アクリル	227.3×181.8	長岡宏氏 寄贈	<p>長岡は、目まぐるしく変化する美術の潮流の中で、1960年代末より国際的にひろがりを見せた、ハイパー・アリズムに大きな影響を受けた。本作は、前年に竣工した東京新宿の三井ビルを取材した。格子で分割されたビルのガラス面に、青い空や雲、対面するビルが映りこむ様を描き、都会的で無機質な高層ビル街の風景を浮かび上がらせている。</p> 
12	長岡宏	Past-Present-Future (A)	1975 (昭和50)	キャンヴァス、アクリル	227.3×181.8	長岡宏氏 寄贈	<p>東名高速道路を車内から取材し、写真に撮ったイメージを、大画面のキャンヴァスに拡大して描き出している。車内風景、前方に広がる高速道路、バックミラーに映りこんだ背後の風景。路上の現在、過去、未来が平面上で重なりあう。実景と鏡に映る虚像が交錯する、風景を浮かび上がらせている。鏡に映るイリュージョンを描く手法は、80年代からのシンメトリーシリーズへと展開していく。</p> 
13	加藤泉	無題	2005 (平成17)	キャンヴァス、油彩	91.0×60.3	太田正樹氏 寄贈	<p>1969年、島根県生まれ。加藤が描く人は、頭が大きく、ずん胴で、お腹が出ており、手足は胴体に比べて小さい。その形は、まるで胎児を思わせる。指や布を用いて描かれた描線は、有機的である。輪郭線が強調され、目や口などの顔の造作、体の線は、単純化され、現代の人間存在、不確かな身体性を、映し出している。</p> 
14	飯田昭二	Half and Half (ハンドバッグ)	1968 (昭和43) (2012 (平成24) 年に一部加筆)	鳥籠、鏡、ハンドバッグ	48.0×50.0×50.1	飯田昭二氏 寄贈	<p>1966年に、静岡で結成された、グループ「幻触」の中心メンバー、飯田昭二の作品。鳥籠の中にある、実物のハンドバッグと、鏡に映りこんだハンドバッグが同時に目に入るとき、鑑賞者は、実像と虚像の関係性に惑わされる。空間の中央に配置された、鏡による視覚的效果を、作品に、巧みに取り込んでいる。鳥籠の格子は、錯視の効果をいっそう増幅させている。</p> 

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
15	嵯峨篤	Repose/009-017	2008(平成20)	MDF、ウレタンコート、9枚組	41.5×41.5×3.3-4.7	太田正樹氏寄贈	家具や建具などの日用品に広く使われるMDFを素材にして、表面に塗装と研磨を繰り返し、透明な輝きを放つディケートな質感を生み出している。1枚ごとに垂直面の傾斜の角度がミリ単位で異なり、見る位置によって写り込みの大きさが変わるように、計算されている。細部へのこだわりと、厳しく妥協のない制作プロセスが、作品の特徴といえる。
16	谷川晃一	ジャン=リュック・ゴダール監督特集 Film Program: 1967 (昭和42) Jean-Luc Godard/QUA 発行		紙、シルクスクリーン	100.9×72.6	谷川晃一氏寄贈	ポスター研究、制作、販売グループ「QUA(クア)」により、シルクスクリーンで制作された。1967年11月12日に早稲田大学大隈講堂で開催された、ゴダール映画祭のためのポスター。谷川晃一のデザインによる。
17	磯辺行久	パラシュート・キャノピー	1969(昭和44)	紙、シルクスクリーン	92.0×186.0	本阿弥清氏寄贈	1935年東京都生まれ。1969年から、パラシュートを屋外に持ち出し、風に任せて千変万化する形を追求する《フローティング・スカルプチャー》を手がけるようになる。広い空間で、風を待ち、その方向を探るという行為の過程で、気象という自然現象と深く関わる機会を持ったことが、後の環境計画への探求へと磯辺を導いていった。
18	赤瀬川原平	『漫画主義』 No.1-4 ポスター /QUA発行	1969(昭和44)	紙、シルクスクリーン	103.1×73.2	谷川晃一氏寄贈	美術評論家の石子順造が、1967年に編集者、菊地浅次郎(山根貞男)、梶井純(長津忠)と同人を結成し、発行した、漫画批評同人誌『漫画主義』のポスター。デザインは、赤瀬川原平が担当した。同年秋頃に、石子の呼びかけで、谷川晃一、辛美奈子、木村恒久、刀根康尚らと立ち上げた、ポスター研究、制作、販売グループ「QUA(クア)」により、シルクスクリーンで、制作された。

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
19	靉嘔	Mt.Fuji [Rainbow Landscape]	1974 (昭和49)	紙、シルクス クリーン	72.5×51.0	本阿弥清氏 寄贈	<p>1931年茨城県生まれ。靉嘔は、感覚により世界を認識するための探求の一つとして、1962年後半から、視覚のための「虹」の作品を生み出した。線によって形を描くことを止め、虹のスペクトルの色を平行線のグラデーションで描く絵画の制作を始める。以来、絵画や彫刻、立体などさまざまなモチーフを覆う手法による探求が続けられている。</p> <p>富士山をモチーフにした2点の版画は、どちらもデンマークにあるルイジアナ美術館で1974年に開かれた「ルイジアナの日本」展のために制作された。</p> 
20	靉嘔	Rainbow Volcano [Rainbow Landscape]	1974 (昭和49)	紙、シルクス クリーン	72.5×51.0	本阿弥清氏 寄贈	
21	関根伸夫	位相-大地	1986 (昭和61)	紙、シルクス クリーン	99.0×200.0	本阿弥清氏 寄贈	<p>1942年、大宮生まれ。《位相-大地》は、1968年の「神戸須磨離宮公園第1回現代彫刻展」に出品された。大地に直径2.2m、深さ2.7mの円筒形の穴を掘り、掘り出された土を穴と同じ円筒形に積み上げた現場制作の彫刻作品である。展覧会終了後に、土は穴に埋め戻され、作品そのものは姿を消したが、日本の戦後の美術を語る上で欠かせない作品として、現在まで高く評価されている。</p> 
22	牧野宗則	秋冷無風	1978 (昭和53)	紙、木版	20.4×48.5	牧野宗則氏 寄贈	<p>牧野宗則は、伝統版画・浮世絵の高い技法と創作版画の精神性とを融合した版画家である。少年時代に出会った歌川広重や葛飾北斎の版画に魅了され、長年にわたり、版画技法の習得に努めた。今回は、18点の作品を寄贈いただいた。広重や北斎の影響が強く見られる作品、有明海シリーズ、富士山の連作など、牧野宗則の画業を一望できる作品が収蔵されることになった。</p> 
23	牧野宗則	桜満開	1979 (昭和54)	紙、木版	55.0×37.8	牧野宗則氏 寄贈	

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
24 牧野宗則	早春	1980 (昭和55)	紙、木版	22.7×52.6	牧野宗則氏 寄贈
25 牧野宗則	黎明	1980 (昭和55)	紙、木版	41.8×58.8	牧野宗則氏 寄贈
26 牧野宗則	月下岑嶺	1981 (昭和56)	紙、木版	49.5×35.8	牧野宗則氏 寄贈
27 牧野宗則	雪更紗	1984 (昭和59)	紙、木版	73.5×49.8	牧野宗則氏 寄贈
28 牧野宗則	久遠	1986 (昭和61)	紙、木版	49.3×35.3	牧野宗則氏 寄贈
29 牧野宗則	蒼い流れ	1987 (昭和62)	紙、木版	22.5×35.0	牧野宗則氏 寄贈
30 牧野宗則	光明	1989 (平成元)	紙、木版	49.3×74.1	牧野宗則氏 寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
31	牧野宗則	なでしこの花	1989（平成元）	紙、木版	35.0×49.7	牧野宗則氏 寄贈	
32	牧野宗則	赤い風	1990（平成2）	紙、木版	49.3×74.2	牧野宗則氏 寄贈	
33	牧野宗則	五彩の海	1991（平成3）	紙、木版	49.3×35.3	牧野宗則氏 寄贈	
34	牧野宗則	祈り	1991（平成3）	紙、木版	49.3×35.3	牧野宗則氏 寄贈	
35	牧野宗則	創世	1992（平成4）	紙、木版	34.7×49.8	牧野宗則氏 寄贈	
36	牧野宗則	華の風	1998（平成10）	紙、木版	34.7×49.7	牧野宗則氏 寄贈	
37	牧野宗則	天啓	1999（平成11）	紙、木版	33.7×22.9	牧野宗則氏 寄贈	

No. 作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
38 牧野宗則	夢にめぐる	2004（平成16）	紙、木版	34.8×49.8	牧野宗則氏 寄贈	
39 牧野宗則	いのちの花	2007（平成19）	紙、木版	34.7×49.8	牧野宗則氏 寄贈	
40 淀井敏夫	野の兎	1967（昭和42）	ブロンズ	32.0×34.0× 23.0	弓良由利子 氏寄贈	
41 淀井敏夫	野の兎	1967（昭和42）	石膏	32.0×34.0× 26.0	弓良由利子 氏寄贈	
42 淀井敏夫	幼いキリン・堅い土	1985（昭和60）	石膏	135.0×109.0 ×73.0	弓良由利子 氏・若林彩 子氏寄贈	

1911年兵庫県朝来郡朝来町生まれ。自宅で飼っていた兎をモデルにして制作した。ごつごつとして豪快なタッチで肉付けされ、どっしりとした胴体の量感と、ぴんと立てた耳の周辺に生れる空間とが絶妙なバランスを保っている。足をくずして横たわりながらも、顔を振り向けて耳を立てて、何かを警戒している様子。俊敏な兎の動感がよく表されている。

《野の兎》の石膏原型。淀井は、木材や針金で心棒を作った上から、麻の纖維を混ぜ込んだ石膏を、直接はりつけたり、吹き付け、それを彫ったり削ったりすることで完成へとすすめていく手法を特徴としていた。本作は、手仕事の跡を伝える1点。

《幼いキリン・堅い土》の石膏原型。淀井には、動物をモチーフにした作品が多くみられるが、中でも伸びやかな肢体を持つキリンを作家は好み、座ったり、立ったり、動いたりする様子を、繰り返し表現している。中空に伸びる、若いキリンのしなやかな首の造形は、その周辺の空間も作品の中に取り込んでいる。

■収藏点数一覧 (平成26年度末現在)

購入作品数

(百万円)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合計	
55						5					5	74
56	14	14	4	7	58		3	1			101	287
57	9	5	3		3	2					22	563
58	10	6	2	1	60		1				80	483
59	3	10			27		2				42	597
60	7	10	2		5		11				35	669
61	4	4	1		16		2				27	240
62	3	6			85		2				96	242
63	5	3			1		7				16	499
元	5	2			3		3		33		46	392
2	2	1		3	43		5		13		67	598
3	1	8	2		268		9				288	675
4	3	4			4		12				23	768
5	5	3	2		68		13			3	94	557
6	8	8	1		27		1			4	49	395
7	4	8	1	1	152						166	397
8	3	2	4							4	13	137
9	5	4	1		2						12	146
10	5	4	1		52						62	120
11	4	3	2		37						46	88
12	1	3	2							1	7	46
13	2	1	1		9		1				14	39
14	3	4	1		9						17	45
15	7	2									9	52
16	3	2			60		1				66	56
17	2				22					7	31	41
18			2				2				4	6
19		1								1	2	30
20	1	1			1						3	13
21	1										1	20
22	1	1			1						3	12
23	1										1	5
24		1			1						2	5
25											0	0
26	1										1	16
合計	点数	123	121	32	12	1,014	7	75	1	46	20	1,451
合計	金額	1,697	2,831	311	68	361	80	2,811	3	8	142	8,313

寄贈作品数

(作品数)

年度	日本画	油彩画	水彩画	素描	版画	書	彫刻	工芸	写真	その他	合 計
55	71					271					342
56		19	1	50							70
57	2	1		10		62	1				76
58	17	8	1	9	176	1					212
59					1						1
60	4	1				6		2			13
61		6		2	16		1	5			30
62	75	1			1			1			78
63	4	1	1								6
元	1	1		3							5
2	1	1	1		2		1		10		16
3	3		1		3		2				9
4	2		2	1	1						6
5					0						0
6					1						1
7					0						0
8	3			1	1						5
9	3	5			4						12
10			4		17						21
11		2			1						3
12	1			15					38		54
13		5									5
14	2				6						8
15		1	7								8
16											0
17		3									3
18	9				1						10
19		23									23
20	3	7	1	2	4			1	14		32
21		5			11		3			1	20
22	1	1									2
23	1	10			22		2		1		36
24	3				13				1		17
25	2	10						2			14
26	4	8			24		3		2		41
計	212	119	19	93	305	340	13	8	13	57	1,179

※管理換作品(9)、基金保有作品(6)を除く

図書資料の収集・整理

■収集

平成26年度の新たな受入により、当館蔵書は90,722冊となった。その累計内訳は、刊行図書40,713冊、美術雑誌21,950冊、美術館等刊行物28,059冊である（データのデジタル化による冊数表記の改訂については、平成18年度年報を参照されたい）。

また、各地の美術館等との図書交換（海外含む）あにより、展覧会図録の収集も継続して進んでいる。

■分類・整理

平成26年度に行った作業は、以下のとおりである。

①図書の受入

収集図書を分類表に則って分類した後、コンピューターに入力、配架した。

②定期刊行物の受入

美術雑誌等の定期刊行物に関しても、コンピューターに入力後、配架した。

■閲覧

当館には、来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、約千冊の美術図書および美術雑誌、当館刊行物等を配架して自由に閲覧できるようになっている。受付は当館ボランティアが行っている。平成18年度より、閲覧室に2台のパソコンを設置し、デジタル図書データを用いた図書検索ができるようになった。利用者は、閲覧希望図書をパソコンで検索し、申込用紙に必要事項を記入して受付に提示すれば、閉架図書も閲覧可能である。

なお、平成26年度には図書閲覧室天井照明設備修復のため8月27日より閉室したため、利用者数は823名に留まった。

館蔵品等の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	モーリス・ド・ヴラムンク	小麦畑と赤い屋根の家	愛知県美術館、NHK、NHK名古屋放送局、NHKプラネット中部、中日新聞社	「印象派を超えて一点描きの画家たち～ゴッホ、スターからモンドリアンまで」展	愛知県美術館 (2/25-4/6)	2013/9/24-2014/4/16
2	狩野探幽	白鶲図	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
3	狩野探幽	竹林七賢・香山九老図	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
4	狩野安信	猿曳き・醉舞図屏風	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
5	狩野尚信	西湖図屏風	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
6	狩野探幽	富嶽図巻	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
7	狩野探幽	天橋立丹後図画冊	板橋区立美術館、群馬県立近代美術館、美術館連絡協議会	「探幽三兄弟」展	群馬県立近代美術館 (4/19-6/1)	2014/1/22-2014/6/11
8	石田徹也	ピアガーデン発	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
9	石田徹也	居酒屋発	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
10	石田徹也	SLになった人	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
11	石田徹也	(無題1)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
12	石田徹也	飛べなくなった人	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
13	石田徹也	社長の傘の下	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
14	石田徹也	燃料補給のような食事	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
15	石田徹也	トイレへ逃げ込む人	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
16	石田徹也	兵士	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
17	石田徹也	引き出し	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
18	石田徹也	クラゲの夢	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
19	石田徹也	(無題2)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
20	石田徹也	めばえ	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
21	石田徹也	市場	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
22	石田徹也	彼方	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
23	石田徹也	(無題3)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31
24	石田徹也	(無題4)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1-2015/3/31

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
25	石田徹也	(無題 5)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1- 2015/3/31
26	石田徹也	(無題 6)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1- 2015/3/31
27	石田徹也	(無題 7)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1- 2015/3/31
28	石田徹也	(無題 8)	平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	平塚市美術館 (4/12-6/15)	2013/9/1- 2015/3/31
29	石田徹也	ピアガーデン発	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
30	石田徹也	居酒屋発	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
31	石田徹也	SLになった人	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
32	石田徹也	(無題 1)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
33	石田徹也	飛べなくなった人	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
34	石田徹也	社長の傘の下	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
35	石田徹也	燃料補給のような食事	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
36	石田徹也	トイレへ逃げ込む人	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
37	石田徹也	兵士	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
38	石田徹也	引き出し	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
39	石田徹也	クラゲの夢	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
40	石田徹也	(無題 2)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
41	石田徹也	めばえ	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
42	石田徹也	市場	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
43	石田徹也	彼方	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
44	石田徹也	(無題 3)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
45	石田徹也	(無題 4)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
46	石田徹也	(無題 5)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
47	石田徹也	(無題 6)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
48	石田徹也	(無題 7)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
49	石田徹也	(無題 8)	砺波市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	砺波市美術館 (9/6-10/5)	2013/9/1- 2015/3/31
50	石田徹也	ピアガーデン発	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
51	石田徹也	居酒屋発	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
52	石田徹也	SLになった人	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
53	石田徹也	(無題1)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
54	石田徹也	飛べなくなった人	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
55	石田徹也	社長の傘の下	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
56	石田徹也	燃料補給のような食事	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
57	石田徹也	トイレへ逃げ込む人	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
58	石田徹也	兵士	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
59	石田徹也	引き出し	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
60	石田徹也	クレゲの夢	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
61	石田徹也	(無題2)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
62	石田徹也	めばえ	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
63	石田徹也	市場	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
64	石田徹也	彼方	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
65	石田徹也	(無題3)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
66	石田徹也	(無題4)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
67	石田徹也	(無題5)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
68	石田徹也	(無題6)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
69	石田徹也	(無題7)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
70	石田徹也	(無題8)	静岡県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会	「石田徹也展」	静岡県立美術館 (1/24-3/25)	2013/9/1- 2015/3/31
71	松林桂月	松林山水屏風	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	練馬区立美術館 (4/13-6/8)	2013/7/29- 2014/6/18
72	松林桂月	春宵花影	山口県立美術館、田原市博物館、練馬区立美術館、神戸新聞地域活動局事業部	「没後50年 松林桂月展」	練馬区立美術館 (4/13-6/8)	2013/7/29- 2014/6/18
73	中村岳陵	婉膩水韻	東京都美術館、日本美術院、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社	「世紀の日本画」展	東京都美術館 (1/25-4/1)	2014/1/15- 2014/4/11
74	安井曾太郎	森の中	ふくやま芸術文化振興財団ふくやま美術館、佐倉市立美術館	「安井曾太郎の世界 -人物画を中心に-」展	ふくやま美術館 (9/20-11/16)	2014/9/10- 2015/1/4
75	安井曾太郎	森の中	ふくやま芸術文化振興財団ふくやま美術館、佐倉市立美術館	「安井曾太郎の世界 -人物画を中心に-」展	佐倉市立美術館 (11/22-12/25)	2014/9/10- 2015/1/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
76	佐々木秀子	澡流	立入秀子	「立入秀子 1983～2014 作品展」	たましんギャラリー (3/6～4/1)	2014/2/24- 2014/4/11
77	式部輝忠	富士八景図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
78	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
79	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
80	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
81	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
82	歌川広重	不二三十六景 東都隅田堤	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
83	歌川広重	不二三十六景 東都飛鳥山	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
84	歌川広重	不二三十六景 武蔵小金井堤	山種美術館、朝日新聞社	「富士と桜と春の花」展	山種美術館 (3/11～5/11)	2014/3/3- 2014/5/20
85	石川欽一郎	台湾風景	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	府中市美術館 (5/14～6/8)	2014/2/3- 2014/7/31
86	石川欽一郎	台湾風景農村	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	府中市美術館 (5/14～6/8)	2014/2/3- 2014/7/31
87	竹内栖鳳	揚州城外	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	府中市美術館 (5/14～6/8)	2014/2/3- 2014/7/31
88	石川欽一郎	台湾風景	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	兵庫県立美術館 (6/14～7/21)	2014/2/3- 2014/7/31
89	石川欽一郎	台湾風景農村	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	兵庫県立美術館 (6/14～7/21)	2014/2/3- 2014/7/31
90	竹内栖鳳	揚州城外	福岡アジア美術館、府中市美術館、兵庫県立美術館、美術館連絡協議会	「東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術」展	兵庫県立美術館 (6/14～7/21)	2014/2/3- 2014/7/31
91	東山魁夷	秋富士	静岡市、静岡市美術館、静岡市文化振興財団、公益財団法人川端康成記念会、静岡朝日テレビ	「巨匠の眼 川端康成と東山魁夷」展	静岡市美術館 (4/12～6/1)	2014/4/2- 2014/6/11
92	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	ヒューストン美術館（アメリカ合衆国）	「セーヌ川のモネ：川の印象」展	ヒューストン美術館 (10/26～2015/1/29)	2014/10/16- 2015/2/8
93	狩野永岳	富士山登龍図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (3/21～5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
94	横山華山	清見潟富士図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (3/21～5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
95	菊池容斎	蒙古襲来図	府中市美術館	「江戸絵画の19世紀」展	府中市美術館 (3/21～5/6)	2014/3/11- 2014/5/16
96	鏑木清方	朝顔日記	佐野美術館、三島市、三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送	「鏑木清方」展	佐野美術館 (4/5～5/11)	2014/3/26- 2014/5/21
97	三宅克己	白壁の家（ベルギー、ブリュージュ）	徳島県立近代美術館、徳島新聞社	「生誕140年・没後60年記念 水彩表現の開拓者 三宅克己回顧展」	徳島県立近代美術館 (10/11～12/7)	2014/10/1- 2014/12/17
98	中澤弘光	風景（秋の湖畔）	三重県立美術館、一般財団法人そごう美術館	「生誕140年 中澤弘光展」	三重県立美術館 (7/12～9/7)	2014/7/2- 2014/10/23
99	中澤弘光	風景（秋の湖畔）	三重県立美術館、一般財団法人そごう美術館	「生誕140年 中澤弘光展」	そごう美術館 (9/12～10/13)	2014/7/2- 2014/10/23

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
100	海老原喜之助	かぜ	鹿児島市立美術館、下関市立美術館、横須賀美術館、中日新聞東京本社	「生誕110年 海老原喜之助展」	鹿児島市立美術館 (10/20-11/9)	2014/9/22-2015/4/15
101	海老原喜之助	かぜ	鹿児島市立美術館、下関市立美術館、横須賀美術館、中日新聞東京本社	「生誕110年 海老原喜之助展」	下関市立美術館 (11/15-12/28)	2014/9/22-2015/4/15
102	海老原喜之助	かぜ	鹿児島市立美術館、下関市立美術館、横須賀美術館、中日新聞東京本社	「生誕110年 海老原喜之助展」	横須賀美術館 (2015/2/7-4/5)	2014/9/22-2015/4/15
103	狩野常信	波濤・花鳥図屏風	川越市立美術館	「没後300年記念 柳沢吉保とその時代」	川越市立美術館 (10/18-12/1)	2014/10/8-2014/12/11
104	狩野探信	井手玉川・佐野渡図屏風	川越市立美術館	「没後300年記念 柳沢吉保とその時代」	川越市立美術館 (10/18-12/1)	2014/10/8-2014/12/11
105	狩野周信	蓮池鷺図	川越市立美術館	「没後300年記念 柳沢吉保とその時代」	川越市立美術館 (10/18-12/1)	2014/10/8-2014/12/11
106	岡田半江	洋人富士山遠望図屏風	サントリー美術館、朝日新聞社	「のぞいてびっくり江戸絵画」	サントリー美術館 (3/29-5/11)	2014/3/19-2014/5/21
107	平山郁夫	黄河（宵）	広島県立美術館、平山郁夫美術館、中国新聞社	「平山郁夫」	広島県立美術館 (4/8-6/1)	2014/3/30-2014/6/11
108	里見勝藏	静物	熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK熊本放送	「画家たちの上京物語」展	熊本県立美術館 (7/19-8/31)	2014/7/10-2014/9/10
109	中村岳陵	残照	名古屋市美術館、中日新聞社	「挑戦する日本画：1950～70年代の画家たち」展	名古屋市美術館 (7/5-8/24)	2014/6/25-2014/9/3
110	長沢蘆雪	大原女	青森県立美術館	「美少女の美術史」展	青森県立美術館 (7/12-9/7)	2014/7/2-2014/9/17
111	横山華山	清見潟富士図	公益財団法人 阪急文化財団、読売新聞社	「観月一月愛でる日本人の心」展	逸翁美術館 (10/11-11/24)	2014/10/1-2014/12/4
112	狩野惟信	富嶽十二ヶ月図巻	公益財団法人 阪急文化財団、読売新聞社	「観月一月愛でる日本人の心」展	逸翁美術館 (10/11-11/24)	2014/10/1-2014/12/4
113	平山郁夫	黄河（宵）	長崎県美術館、平山郁夫美術館	「没後5年 求道と鎮魂の絵画 平山郁夫」展	長崎県美術館 (7/19-8/31)	2014/6/1-2014/9/10
114	吉田博	籠坂	丸山晩霞記念館、東御市教育委員会、東御市	「太平洋に馳せる夢－水彩画家たちの浪漫と冒険－」展	丸山晩霞記念館、東御市文化会館 (9/13-11/3)	2014/9/3-2014/11/13
115	吉田博	街道	丸山晩霞記念館、東御市教育委員会、東御市	「太平洋に馳せる夢－水彩画家たちの浪漫と冒険－」展	丸山晩霞記念館、東御市文化会館 (9/13-11/3)	2014/9/3-2014/11/13
116	吉田博	日光・荒沢	丸山晩霞記念館、東御市教育委員会、東御市	「太平洋に馳せる夢－水彩画家たちの浪漫と冒険－」展	丸山晩霞記念館、東御市文化会館 (9/13-11/3)	2014/9/3-2014/11/13
117	中川八郎	松原	丸山晩霞記念館、東御市教育委員会、東御市	「太平洋に馳せる夢－水彩画家たちの浪漫と冒険－」展	丸山晩霞記念館、東御市文化会館 (9/13-11/3)	2014/9/3-2014/11/13
118	横山大観	群青富士	平塚市美術館	「横山大観の富士」展	平塚市美術館 (10/11-11/24)	2014/9/27-2014/12/8
119	横山大観	富士山	平塚市美術館	「横山大観の富士」展	平塚市美術館 (10/11-11/24)	2014/9/27-2014/12/8
120	横山大観	日出処之日本	平塚市美術館	「横山大観の富士」展	平塚市美術館 (10/11-11/24)	2014/9/27-2014/12/8
121	狩野探幽	瀟湘八景	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2-2015/5/20
122	狩野探幽	白鶲図	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2-2015/5/20
123	狩野探幽	富士山図	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2-2015/5/20
124	狩野探幽	富士山図	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2-2015/5/20

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
125	狩野永岳	富士山登龍図	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
126	狩野宗眼 重信	帝鑑図・咸陽宮図 屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
127	狩野尚信	西湖図屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
128	狩野栄信 (伊川院)	桐松鳳凰図屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
129	狩野栄信 (伊川院)	樓閣山水図屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
130	狩野永岳	四季耕作図屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
131	狩野永岳	三十六歌仙歌意図 屏風	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
132	狩野探幽	富嶽図画冊	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
133	狩野探幽	富土図巻	フィラデルフィア美術館	「狩野派特別展 Ink and Gold: Art of Kano」	フィラデルフィア美術館 (2015/2/12-5/10)	2015/2/2- 2015/5/20
134	松岡映丘	今昔ものがたり 伊勢図	高崎市タワー美術館	「美術でたどる物語」展	高崎市タワー美術館 (2015/1/31-3/22)	2015/1/21- 2015/4/1
135	今村紫紅	宇津の山路	高崎市タワー美術館	「美術でたどる物語」展	高崎市タワー美術館 (2015/1/31-3/22)	2015/1/21- 2015/4/1
136	菊池契月	観菊図	高崎市タワー美術館	「美術でたどる物語」展	高崎市タワー美術館 (2015/1/31-3/22)	2015/1/21- 2015/4/1
137	小林清親	川中島合戦図屏風 (裏: 龍虎墨竹図)	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
138	小林清親	鬼念仏図	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
139	小林清親	東京新大橋雨中図	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
140	小林清親	海運橋(第一銀行 雪中)	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
141	小林清親	今戸有明楼之景	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
142	小林清親	駿河湖日没の富士	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
143	小林清親	大森乃海	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
144	小林清親	神田八雲神社暁	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
145	小林清親	虎乃門夕景	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
146	小林清親	池之端弁天	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
147	小林清親	神田川夕景	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
148	小林清親	日本橋夜	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
149	小林清親	大伝馬町大丸	静岡市、静岡市美術館、 静岡市文化振興財団	「没後100年 小林清親」展	静岡市美術館 (2015/2/7-3/22)	2015/1/28- 2015/5/27
150	カミュー・ ピサロ	ライ麦畠、グラッ ト＝コックの丘、 ポントワーズ	三重県立美術館	「空飛ぶ美術館」展	三重県立美術館 (2015/3/7-5/6)	2015/2/25- 2015/5/16

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
151	伊藤若冲	白象群獸図	サントリー美術館、MIHO MUSEUM、読売新聞	「生誕三百年 同い年の天才絵師 若冲と蕪村」展	サントリー美術館 (2015/3/18-5/10)	2015/3/8- 2015/9/9
152	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風	サントリー美術館、MIHO MUSEUM、読売新聞	「生誕三百年 同い年の天才絵師 若冲と蕪村」展	サントリー美術館 (2015/3/18-5/10)	2015/3/8- 2015/9/9
153	金沢健一	音のかけら2	NPOキッズアートプロジェクトしづおか、静岡市	「発見！キッズアート！－こども・コラボ・みゅーじあむー」展	静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る (2015/3/7-3/15)	2015/3/5- 2015/3/31
154	金沢健一	音のかけら2	NPOキッズアートプロジェクトしづおか、沼津市教育委員会、沼津市商工会議所	「発見！キッズアート！－こども・コラボ・みゅーじあむー」展	沼津市商工会議所コミュニティホール (2015/3/21-3/29)	2015/3/5- 2015/3/31

美術作品の補修

平成26年度の修復作品

- ・岡本宣就《布袋図》解体、表具新調、箱作成
- ・楫取魚彦《酒泉猩々図》解体、表具新調、箱作成
- ・守住貫魚《美人図》解体、表具新調、箱作成
- ・守住貫魚《朝顔図》解体、表具新調、箱作成
- ・狩野探信（守政）《周茂叔愛蓮図》解体、表具新調、
箱作成
- ・歌川貞秀《大日本富士山絶頂之図》マット装
- ・歌川芳幾《富士山北口女人登山之図》マット装
- ・歌川芳幾《源頼朝上洛大井河行列之図》マット装
- ・ヨーハン・バルトールト・ヨンキント《オンフルール
郊外の街道》画面剥落防止、額装調整

保存活動

美術作品の保存と公開とを両立させる作品の保全活動は、美術館の持つ重要な役割の一つである。しかしながら、建設されてから30年近くが経過した当館では、建物の各所に不具合が出始めており、この作品保存という機能への障害がしばしば生じている。

最も大きな要因は老朽化である。防水、配管、電気等の基本的な設備が、思いがけない故障によって脅かされ、緊急の対応によって事なきを得ることが多なくなった。

建物を取り巻く環境が、設計当初の想定とは異なってきていることも看過出来ない。夏季には気候の高温高湿化、冬季であれば急激な冷え込み等の気候変動は、かつては見込まれていなかった空調施設への負荷を、著しいものにしている。電気やガス、水道料金の高騰が、対応の困難に拍車をかける。

また、生物の生息環境の変化は、これまでに見られなかった虫菌害のリスクを高めている。マダニ、トコジラミ、ヤンバルトサカヤスデ、ヒアリ等は、文化財害虫ではないが、観覧環境を悪化することもある。またハクビシン、アライグマ、タイワソリス等の外来生物も、静岡県内で被害を生じているようである。

既に施設の大規模修繕ないしリニューアルの検討に入っているが、一朝一夕に成るものではない。計画的な施設改修の推進と、突発的な変調の解決との、二正面に向かい合うことを余儀なくされているのが、当館保存活動の現状である。

■展示室等殺虫

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は例年通り行った。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

作品に虫菌害が発生した際、有害要因を物理的に排除するだけではなく、薬剤等による処理が必要となる場合がある。

菌害の場合、燻蒸用薬剤ならば、主成分が酸化エチレンの薬品（商品名エキヒュームS）が適当かと考えている。資料に適性があるなら、夏期の日照を利用した熱処理も試行しつつある。

虫害に対しては、環境や人体への影響が少ない殺虫処

理方法として、これまでに検討を進めてきた窒素置換法による低酸素濃度殺虫を、今後も必要に応じて実施する見込みである。この手法は、処理時間を長く取る必要があるものの、安全性が高く、メリットは大きい。今後、手法の洗練と精度を高めていく予定である。

収蔵庫等で大規模な虫菌害が発生した場合にも、当該個所全域を大規模燻蒸することは、極力避ける方針である。特にエキヒュームを用いる場合、資料への吸着が強く、ガスの開放を念に行なう必要があることから、この薬剤の使用を検討する場合には、必要と危険とが十分に勘案されなくてはならない。

ガス燻蒸は個別作品への小規模燻蒸に留め、清掃や環境の改善で対応することを、可能な限り目指したい。

■照明用代替光源検討

作品保全活動に関わる課題の一つ、現状の白熱灯スポットライトや蛍光灯の代替光源については、従来から情報を収集してきたが、蛍光灯を含む水銀を使用した照明への規制が厳しくなることが予想されるため、一層具体的な情報の収集に着手している。

本年度は株式会社灯工舎の藤原工氏をコンサルタントに迎え、当館の作品照明の現状を踏まえた上で改善、灯体更新等についてのアドバイスを得た。12月末から実施されたロダン館照明LED化工事では、このアドバイスを出来る限り生かし、より良い鑑賞環境を目指した。

ロダン館では、照明器具設置エリアが夏場に高温になることや、展示作品はほぼ全てブロンズ彫刻であることから、ある程度の演色性を確保した上で、使用環境への適合性を重視した。本館照明は絵画作品を照明することがほとんどであるため、高い演色性能を有するものが望ましくなる。

今後、有機ELやCCFL等も視野に入れるものの、主力となる代替光源はLEDになると思われる。色温度可変の機種は、演色性への懸念から、検討の優先順位は相対的に低い。

■環境調査、環境改善

有害生物管理には、環境の調査が非常に重要である。当館では平成12年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度は4回の調査を行なった。

■普及活動

環境維持のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの

情報を集積することが出来るからである。館内職員に対しては、研修等の機会に保存活動への協力を呼び掛けている。また博物館実習の中に「作品の保全について」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部にも理解を求める試みが行われている。

■防災

昨年度に引き続き、展示室でお客様のご案内や作品の監視に当たる、ミューズスタッフの防災訓練も行われた。管理班職員の発案による災害図上訓練（DIG）の導入は、当館の場合効果が高く、結果として実際の行動を伴う訓練の際にも、練度が向上している。

当館は静岡県博物館協会事務局でもあるため、協会加盟館園での災害図上訓練（DIG）を、協会防災事業の一環として、試験的に実施した。また、加盟館園の保有する資料データのバックアップ事業も、事務局として進めつつある。

■主な保存活動の経過

5月13日（火）～18日（日）
エキヒュームSによる小規模燻蒸実施
5月19日（月）～26日（月）
外部業者による環境調査第1回目
5月31日（土）～6月2日（月）
ブンガノン殺虫処理実施
6月26日（木）～
静岡県博物館協会事務局として、協会加盟館園宛に防災体制についてのアンケートを開始
8月18日（月）～25日（月）
外部業者による環境調査第2回目
8月27日（水）
職員による防災訓練
12月4日（木）～15日（月）
外部業者による環境調査第3回目
12月27日（土）～1月23日（金）
ロダン館照明LED化工事
1月14日（水）
職員による防災訓練
1月26日（月）
ミューズスタッフ、レストラン、カフェ、ショップ職員等による防災訓練
2月28日（土）
静岡県博物館協会事務局として、上原近代美術館、上原仏教美術館で防災図上訓練実施

3月2日（月）～9日（月）
外部業者による環境調査第4回目
3月15日（日）～20日（金）
エキヒュームSによる小規模燻蒸実施
3月20日（金）～
静岡県博物館協会加盟館園目録等データバックアップ
事業開始

ギャラリーツアー

展示室グループのギャラリーツアー班に所属する当館ボランティアが、ナビゲーターを務めて、収蔵品展を、参加者とともに対話形式で30分間鑑賞する。開館年から平成21年度まで行われてきた「ギャラリートーク」のスタイルを改変して、平成22年度より行っている。

平成26年度のボランティアの再募集によって、ギャラリーツアー班の人数が6名から11名に増えた。前回から継続して活動しているボランティアは、経験を重ねることによりナビゲーションの技術を一層向上させており、新たに加わったボランティアは、意欲的に館内の美術講座に参加するなど自己研鑽を重ねた。通常は、収蔵品展を対象に行っているが、当館コレクションを活用した企画展「アニマルワールドー美術のなかのどうぶつたち」、「風景解剖学ー古今東西、風景画のしくみ」、「石田徹也展ーノート、夢のしるし」でもツアーを実施した。1年間のツアーへの参加者数は、517名であった。

■ 「ギャラリーツアー」の定義

作品を前にして対話をしながら展示室を案内する。来館者に静岡県立美術館のコレクションの魅力を伝えるとともに、美術作品を鑑賞することのおもしろさや楽しさを分かち合う。

■ ボランティア 展示室グループ・ギャラリーツアー班の役割

収蔵品展、ロダン館のギャラリーツアーのガイドを行う。

一方的に作品を解説する従来のギャラリートークのスタイルから、双方向的に対話しながら鑑賞するスタイルへ変更。作品の魅力を「伝える」のではなく「分かち合う」ことを目的とする。

■ ギャラリーツアー登録ボランティア

11名（27年3月現在）

■ 実施日、研修日

実施日：毎月第1土曜日（11：00～、12：00～）

*11：00の回はロダン館

毎月第3土曜日（14：00～、15：00～）

企画展開幕後の最初の休館日：展覧会担当学芸員による研修

■ ギャラリーツアー本番までの流れ

①ツアーデ取り上げる作品について、文献等で各自自主学習を行う。

- ②展覧会開幕後、展示室で実作品を前にボランティア同士でディスカッションを行う。
- ③学芸員による研修会に参加
- ④模擬ツアー（予行演習）
- ⑤本番ツアー

■ 26年度 ギャラリーツアー実施実績（参加者数 計517名）

・収蔵品展

- 「静岡ゆかりの日本洋画」ギャラリーツアー 6月21日、7月5日、19日（計18名）
- 「水辺のアート」ギャラリーツアー 8月2日、16日、9月6日（計24名）
- 「西洋の絵画」ギャラリーツアー 9月20日、10月4日、18日、11月1日、15日（計40名）
- 「風景解剖学ー空」ギャラリーツアー 12月6日（計14名）
- 「富士山の絵画」ギャラリーツアー 2月7日、21日（計14名）
- 「人を描く」ギャラリーツアー 3月7日、21日（計11名）

・ロダン館

- 4月5日、19日、5月3日、17日、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、1月4日、2月7日（計114名）

・企画展（収蔵品を活用した企画展）

- 「アニマルワールド」ギャラリーツアー 8月9日、23日、30日（計144名）
- 「風景解剖学」ギャラリーツアー 12月14日、20日、23日、1月4日（計77名）
- 「石田徹也展」ギャラリーツアー 2月28日、3月15日（計61名）

■ 研修会

今年度は、ボランティアのスキルアップのため、以下のとおり外部講師を招いた研修会を実施した。

日時：10月5日 13：30～15：30

講師：平野智紀氏（京都造形芸術大学アート・コミュニケーション研究センター研究員）

内容：（前半）美術館における大人とアートのコミュニケーション

対話型アート鑑賞が求められる背景について、20世紀はじめの来館者研究や美術教育、認知心理学等の視

点を引用しながら解説していただいた後、実践編として、京都造形芸術大学アート・コミュニケーションプロジェクト（ACOP）で行われているナビゲーションのコツについてお話をいただいた。

（後半）作品画像をプロジェクトしながら対話型鑑賞の体験を行った。

実技・鑑賞講座

■ちょこっと体験

平成22年度に実技室廊下にて試験的に行ったイベントを平成23年度から実施し、来館した方が気軽に参加できるように美術館正面玄関入ってすぐのエントランスで約15分の創作体験を行っている。

水曜日から土曜日までの4日間を基本とし、今年度は、これまでより展覧会に絡めた内容の実施を目指した。展示作品で用いられた制作技法や作品に登場するモチーフを制作することで、展示作品への興味関心を促した。また、実技室の各講座の募集チラシを配布することで、ちょこっと体験で興味をもった方が再び他の講座や創作週間に参加する傾向が見られた。

実施日	内 容	人 数
4月29～5月3日	ちょこっとコラージュ体験	197
8月5～8日	ちょこっとドット若冲 マス目描き体験 5m×10mの巨大な作品の一部を体験制作	264
11月6～9日	ちょこっとシルクスクリーン体験 ハンカチへのプリント体験	367
12月3～7日	ちょこっと木版画体験摺り体験	232
2月24～28日	ちょこっと日本画体験 簡単な水墨画・金砂子蒔体験	128
年間24日間実施		1,188



■実技講座

実技講座は①鑑賞することで表現を豊かにし、制作することで観る目を養う、②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深めることを目指し、展覧会にできるだけ合わせられるように関連づけて実施している。

どの講座も開催中の展示に関連させた内容とし、講師である作家の方と展示作品の鑑賞を楽しんだ。

昨年に続き、今年度も静岡県出身の切り絵作家、福井利佐氏を講師に招き、自画像を能面に置き換えた切り絵制作を行った。また、日本画家による金箔貼りや砂子蒔き、自然素材から絵の具を用いた制作など、素材や技法に触れ楽しむ作品制作などの講座を行った。

実施日	内 容 <インストラクター>	人 数
5月17日	リトグラフ	
5月18日	<柳本一英氏(銅版画家)>	7
7月20日	日本画と遠近法 <日下文氏(日本画家)>	15
9月6日	日本画金箔貼り	
9月7日	<鈴木強氏(日本画家)>	15
10月18日	美少女を描こうin静岡	
10月19日	<ob氏(現代美術家)>	28
12月13日	自然素材で風景画	
12月14日	<末永敏明氏(画家)>	13
2月1日	能面 meets 自画像 <福井利佐氏(切り絵作家)>	16
2月11日	「わたし」が風景に入ったら <松浦文香(当館スタッフ)>	13
年間11日間実施		107



■創作週間

創作週間は中学生以上の個人を対象に、実技室および設備、用具を開放することで、利用者の自主的・自発的な創作活動を支援するものである。

大型プレス機を使い、エッチング、リトグラフ等、自宅ではできない版画に取り組んだり、デッサン、水彩画、日本画といった制作活動を利用者同士アドバイスし合って取り組んでいた。

特に利用者が多い日本画、木版画、銅版画については、曜日固定でインストラクターを配し、利用者への指導、

相談、助言をお願いした。また、エントランスでの「ちょっと体験」を行うことで、自分でもっと制作をしてみたいと、創作週間を利用し始める参加者が年々増えてきている。

開室日数：49日

開室時間：10：00～16：30

インストラクター：日下文氏（日本画家）、藤田泉氏（木版画家）、柳本一英氏（銅版画家）、丸山成美氏（造形作家）

利用者数：556名



■ロダン館デッサン会

ロダン館デッサン会は、当館所蔵のロダン作品を描く機会として、毎月2日間、金・土曜日に実施している。年配の方のご参加が多いものの、今年度は10代、20代の参加も多数見受けられた。

実施日数：22日

実施時間：10：00～16：30

インストラクター：半田直生、中村美穂子（当館実技室担当）

参加者数：429名

(子ども向け)

実技・体験

■粘土開放日

粘土開放日は、実技室と実技室にある1tの粘土を提供し、親子で楽しく創作活動や粘土あそびをしてもらうプログラムである。

3歳以上の親子で楽しみながら取り組んでもらうようにするために、こちらで細かい指示は出さず、会話も含めて楽しんでもらうことに重点をおいている。

後に記載する美術館教室の粘土・絵の具教室で来館した園児・児童に粘土開放日や絵の具開放日等の子ども向けイベントの配布資料をアンケート（教師用）とともに人数分渡しているため、今度は親子で参加しているというケースも多い。園・学校リピーターも増加傾向にあるため、季節に合わせて制作内容に変化をもたせたり、展覧会内容を紹介したりしている。新規の参加者は、口コミで聞いて興味をもつ方が多く、また、HP、チラシを見た方などの数も増え、少しずつ広報効果があがってきている。

月ごとに変化する参加者数の予測が困難なため、1日3回（午前2回、午後1回）各回80名の定員を設け、多くの参加者に対応できるようにインストラクター、助手、スタッフと、実技室ボランティアの協力が欠かせない。

実施日数：12日（1日3回で36回実施）

実施時間：午前の部① 10:10～11:30

午前の部② 11:30～12:50

午後の部 14:00～15:20

インストラクター：内海健夫氏（美術作家）

助手：志村将史氏、吉村友利氏

場所：当館実技室

参加者数：2,060名



■絵の具開放日

絵の具開放日は、3歳以上の親子で自由に楽しく絵を描いてもらう今年で8年目のプログラムで、基本は屋外で行い雨天時は室内で行う。

屋外のプログラムは広い石畳にハケを使い、体を思い切り動かしながらの制作で、やっているうちに足の裏に絵の具が付き、それがスタンプ遊びになり、さらには手足等へのボディーペインティングへと発展していった。室内のプログラムはビニールクロスに絵を描き、表に描いた後、裏返しにして描くことができる。季節や行事に合わせて描いたり、上に寝て輪郭をなぞり人物を親子で描きあったり、描くことは勿論、コミュニケーションを楽しむ姿が見られた。

こちらも美術館教室で来館した子どもの親子連れ、リピーター、新規参加者の内訳等、長年行ってきた粘土開放日と肩を並べるようなプログラムになってきている。

また粘土開放日と同様、より広々としたスペースで楽しんでもらうこと、安全面等を考え、室内の場合は各回80名程度、屋外の場合は各回150名程度の定員を設けている。

実施日数：7日（午前・午後で14回）

実施時間：午前の部 10:15～12:00

午後の部 13:30～15:30

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：屋外展示テラス（雨天時は当館実技室）

参加者数：1,520名



■わくわくアトリエ

わくわくアトリエは、一昨年度まで行っていたプログラム、工作アトリエと色彩アトリエを一つに統合した新たなプログラムである。工作アトリエ、色彩アトリエが掲げた「いろんな素材をかたちに！」というテーマはこのわくわくアトリエにも活かしていきたい。今年度はコラージュ・写真・立体造形・シルクスクリーン・日本画・切り絵といった幅広いジャンルの内容を実施した。さまざまな素材を用いて制作する面白さを発見、体験するプログラムを心掛けた。

対象は大人から小学生としながらも、親子でも参加できる企画として開催しているものもある。テーマである、素材に手を加えて形作ること以上に親子による制作を通じたコミュニケーションがこのプログラムの主たる特色となった印象である。

午前、午後各1回のプログラム実施や、じっくり1日かけて制作するプログラムとして行うなど、インストラクターは、さまざまな講師を招いて企画展と関連づけた内容とプログラムの進行をめざした。

実施日数：8日

実施時間：10：15～15：50の間で1回または2回開催

助 手：吉村友利氏、志村将史氏

場 所：当館実技室

参加者数：184名

実施日	内容<インストラクター>	人 数
4月19日	コラージュ <持塚三樹氏（画家）>	41
4月20日		
6月15日	おもしろ瞬間写真を撮ろう！ <杉山雅彦氏（写真家）>	27
8月16日	みんなで動物園をつくろう！ <丸山成美氏（造形作家）>	21
10月13日	絵の具ってすげえ！ <榎本寿紀氏 大分県立美術館 (エデュケーター)>	14
10月26日	シルクスクリーン大作戦 <北川純氏（アーティスト）>	21
12月23日	鳥になって風景を描いてみよう <森谷明子氏（日本画家）>	17
1月31日	文字で顔をつくってみよう！ <福井利佐氏（切り絵作家）>	43
年間8日（計8回実施）		184



■夏休み子どもワークショップ

「みんなで！ドット若冲」

夏休み子どもワークショップは、小学生を対象に、夏休みという比較的来館しやすい時期を選び、作品や作家との関わりの中で創造・鑑賞の喜びを感じてもらうためのプログラムである。

当館所蔵品《樹花鳥獸図屏風》（伊藤若冲）の屏風が特別展示される時期に行なっているワークショップで、9回目を迎えた。

「枠目描き」の一マスを7×7センチの厚紙に置き換えて着色し、約9倍に拡大するような作業となる。出来上がった作品は、エントランス床面に並べ、約10×5メートルの巨大絵（屏風一扇）となる。とはいって、絵の具を作った段階で微妙に色が違ったり、グループごとに手法が違ったりと、参加者たちのブレーンストーミングが一番の醍醐味かもしれない。

また、来館した方が一マス描く体験コーナー「ちょこっとドット若冲」を、期間限定でエントランスに設けた。ブログでも完成作品を紹介し、完成した作品を見に再び来館される方多く見られた。

日 時：8月9日（土）、8月10日（日）

インストラクター：志村将史氏、吉村友利氏

助 手：岡田友里香氏

場 所：当館実技室、エントランス

参加者数：42名



ちょこっとドット若冲（夏休み子どもワークショップ
「みんなで！ドット若冲」の体験版）

期 間：8月5日～8日の4日間

場 所：エントランス

参加者数：264名



■ART+

昨年度まで継続した中学生から大学生までのティーンエイジャーを対象としたART!、そして大学生・専門学校生を対象としたARU?という二つのワークショップを統合したものがART+である。対象は高校生・大学生で、これまでのように制作中心ではなく、鑑賞中心のプログラムとして企画された。テーマは自分の目で見て感じたことを、他人に伝わる客観的な言葉に置き換えること。今回は実際に展示されている作品についてのガイドブックを作成することを目標に掲げた。

対象とした作品は収蔵品展「人を描く」に展示中であった日本画作品で、参加者にとって初めて見るものばかりであったと思われる。鑑賞時間は長めにとり、じっくりとみてもらった。

参加者に自分の文章表現を客観的にとらえてもらうために、参加者全員の間でコメントを交換する仕組みを取り入れた。そのゴールとしてガイドブックを作ってもらい、それらは展示室に配架、来館者の皆様にご覧いただいた。

当館にとって、そして参加者のほとんどにとっても初めての試みではあった。しかし各参加者は真摯に取り組み、成果物のガイドブックも力作ぞろいであった。終了後の感想、そして出来上がったガイドブックからも、作品とじっくり向かい合った様子がうかがえた。今後も展覧会と連動したイベントなどに成果や経験を活かしていきたい。

日 程：平成27年3月20日（金）～3月22日（日）

場 所：実技室、展示室

担 当：浦澤倫太郎（当館学芸員）

神谷洋介（当館主査）

ス タ ッ フ：半田直生（当館普及スタッフ）

中村美穂子（当館普及スタッフ）

助 手：藤岡美樹氏

吉村友利氏

谷正輝氏

参 加 者：10名

内 容：

1日目

自己紹介、アートカードを用いたゲーム

作品鑑賞（収蔵品展「人を描く」から気に入った作品を選びメモを取る）

2日目

意見交換（他の参加者のメモに、その作品を見ながらコメントを加える）

3日目

原稿作成（他の参加者のコメントを参考にしながら推敲する）

清書

講評・まとめ



とスタッフが制作したスタンプを用いたしおりの制作体験コーナー（無料）、樹花鳥獸図屏風のレプリカ展示、展覧会のポスター掲示とチラシを置き、広報活動もあわせて行った。

日 時：8月19日（火）

場 所：エスパルスドリームプラザ1階

助 手：吉村友利氏、岡田友里香氏、丸山成美氏

参加者数：122名



■美術館活用事業

「エスパルスドリーム夏の工作体験『どうぶつひこうきをつくろう！』」

平成22年度に初めてエスパルスドリームプラザにて「出張実技講座・ロダン体操・ワークショップ」を行ったことをきっかけに、一昨年度「珪藻土レンガを使ってのヒエログリフを彫る体験や工作体験、レプリカの鑑賞、ロダン体操」と続き、今年度「第四回、夏の工作体験」参加となった。

今回のイベントは当館で展示中のアニマルワールド展に関連した内容である。実技室スタッフが企画準備を行い、参加者に市内模型会社から提供いただいた模型飛行機にアニマルワールド展にちなんだ動物たちのシールを貼って仕上げるひこうきづくりの体験コーナー（無料）

学校連携普及事業（美術館教室）

美術館教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象とした教育普及プログラムで、実技や鑑賞、職場体験、総合的な学習の時間における取組など、美術館で実施できるさまざまな学習活動を、学芸員やエデュケーションナルスタッフがお手伝いするものである。

粘土教室、絵の具教室は、県内の保育園、幼稚園、学校に周知されるようになり、年々参加希望団体が増加している。できるかぎり多くの団体に参加していただきため、学年をほぼ同じくする複数の園や学校の合同実施とした。

また、今後の取り組みとして、アートカードの活用を組み込んだ出張美術講座や授業協力等、美術館と学校との連携に重点をおいた普及を充実させていきたい。

■粘土教室

粘土教室は、幼児、児童、生徒を対象に、水粘土を使用し、体感的な活動から創作活動へと繋げていくプログラムである。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室

参加者数：3,573名



月日	団体名	人数
6月25日	清水駒越小学校	71
	ふじみ幼稚園	53
6月26日	清水船越小学校	76
	清水船越小学校	68
6月27日	静岡市立由比北小学校	15
	竜南保育園	33
7月2日	静岡田町幼稚園	82
	静岡市立清水岡小学校	32
7月3日	清水川原保育園	38
	第二ふたば保育園	37

7月3日	船原幼稚園	48
7月4日	富士市立元吉原小学校	50
	静岡市立岡小学校	59
7月30日	井宮北児童クラブ	27
	新通児童クラブ	21
7月31日	清水手をつなぐ育成会	42
	服織児童クラブ	26
	大里東児童クラブ	32
8月1日	興津児童クラブ	61
	学童保育所こぐまクラブ	19
	千代田東児童クラブ	33
8月20日	葵児童クラブ	33
	瀬名児童クラブ	31
	美和児童クラブ	32
8月21日	飯田東児童クラブ	41
	小島児童クラブ	19
	田町児童クラブ	30
8月22日	長田西児童クラブ	68
	中島第一児童クラブ	51
	南藁科児童クラブ	23
9月17日	有度十七夜山保育園	33
	麻機幼稚園	40
	静岡隣人会保育園	27
9月18日	麻機幼稚園	60
	清水有度東保育園	67
	こまどり幼稚園	47
9月24日	服織第二保育園	31
	静岡聖母幼稚園	55
9月25日	東新田保育園	47
	北安東保育園	49
9月26日	静岡市立大谷小学校	66
	中央特別支援学校おおぞら学級	27
10月1日	清水有度第二小学校	71
	中原幼稚園	29
10月2日	服織保育園	24
	清水有度第二小学校	72
10月3日	八幡聖母幼稚園	49
	静岡市立清水有度第二小学校	37
11月18日	静岡市立安倍口小学校	50
	矢部保育園	42
11月19日	島田市立第二小学校	67
	リリー幼稚園	24
11月20日	静岡市立由比小学校	46
	静岡市立中藁科小学校	25

11月20日	静岡市立賤機南小学校	15
11月26日	静岡市立大里西小学校	76
	静岡市立大里西小学校	70
11月27日	静岡市立清水小学校	67
11月28日	静岡市立清水三保第二小学校	27
	あけぼの保育園	55
	蒲原東部保育園	24
12月10日	若草保育園	30
	清水飯田北保育園	60
	ゆりかご保育園	16
12月11日	長沼保育園	37
	八幡保育園	24
12月12日	静岡市立東豊田小学校	54
	静岡市立東豊田小学校	55
1月28日	東豊田保育園	40
1月29日	静岡市立安西小学校	58
	静岡市立南部小学校	84
1月30日	若竹幼稚園	65
	常葉大学教育学部附属橋小学校	51
2月18日	静岡市立清水岡小学校	57
	リリー幼稚園	66
	静岡市立清水岡小学校	57
2月19日	袖師保育園	23
	瀬名川保育園	43
2月20日	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	25
	清水折戸保育園	20
	清水駒越保育園	14
	清水三保保育園	24
合計人数		3,573
団体数		82

■絵の具教室

絵の具教室は、幼稚園・保育園の園児、学校の児童、生徒を対象としたプログラムで、対象の発達段階に応じ、少しづつ内容を変えて実施している。

幼稚園・保育園児に対しては、スタンプあそびを中心に行い、学年が上がるにつれ少しづつ難易度をつけていくが、全身を使い、楽しく描くことを重視している。

インストラクター：志村将史氏（イラストレーター）

助手：吉村友利氏、岡田友里香氏

場所：当館実技室、屋外展示テラス

参加者数：1,408名



月日	団体名	人数
6月17日	江尻幼稚園	44
	曙保育園	32
	矢部保育園	17
	静岡隣人会保育園	33
6月18日	清水有度西保育園	20
	あいわ保育園	13
	安倍口幼稚園	18
	足久保保育園	15
6月19日	リリー幼稚園	63
	静岡大学附属幼稚園	45
	広野保育園	27
	清水有度北保育園	31
7月9日	静岡市立清水岡小学校	56
	静岡市立清水有度第二小学校	63
7月10日	静岡市立清水岡小学校	57
	静岡市立清水有度第二小学校	63
7月11日	若竹幼稚園	68
	ふじみ幼稚園	48
10月8日	静岡市立西奈南小学校	69
	聴覚特別支援学校	8
10月9日	静岡市立西奈南小学校	67
	登呂保育園	42
10月10日	ゆりかご保育園	13
	あゆみ第二保育園	36
	美和保育園	16
	静岡サレジオ幼稚園	53
10月15日	静岡田町幼稚園	88
	螢ヶ丘保育園	37
	丸子幼稚園	38
10月16日	静岡市立東源台小学校	70
	静岡市立東源台小学校	38
10月17日	静岡市立大谷小学校	63
	さくら幼稚園	57

合計人数		1,408
団体数		33

■音のかけらワークショップ

「音のかけらワークショップ」は、当館収蔵品、金沢健一作《音のかけら》を用いたワークショップである。

昨年度に続き、特別支援学校の利用のみとなった。車椅子やストレッチャーの児童生徒の安全面と健康管理にも配慮するため、事前の下見来館時の対応や電話FAX等の打ち合わせ、雨天時の入館時の対応（雨天時は屋根のあるロダン館から入館）、トイレや体調管理のための控え室等の確保等様々な準備対応が必要となる。当館独自の鑑賞系ワークショップとして、今後の利用について特別支援学校以外の各学校でもどのようにしていくか検討が必要である。



	団体名	人数
6月27日	静岡県立中央特別支援学校	17
合計人数		17
団体数		1

■ロダン館ななふしき

「ロダン館ななふしき」は、ロダン館の彫刻作品を楽しみながら鑑賞するために7枚のカードを配付し、表に書かれたクイズを解き、最後に答え合わせをしながら展示作品を見て回り、カード裏の作品解説シートとともに鑑賞を深めるプログラムである。

クイズは作品のシルエットやキャプションがヒントになっているため、じっくりと鑑賞することが必要になる。答え合わせでは、単にそれだけを行うのではなく、鋳造の手法、作品のエピソードなどにも触れるように配慮した。また、《考える人》や《カレーの市民》を前にして同じポーズや表情の真似することにより深く作品に目を

やる子どもたちの姿が見られた。



月日	団体名	人数
5月15日	静岡市立南中学校	6
5月17日	静岡県立静岡高校美術部	5
7月17日	静岡市立清水有度第一小学校	141
10月22日	日本航空高校静岡校	22
11月7日	沼津市立静浦小中一貫学校	33
11月18日	静岡市立西奈南小学校	29
2月8日	静岡市立川原小学校	78
2月19日	川根本町立中川根南部小学校	8
合計人数		322
団体数		8

■美術館の秘密をさぐれ

「美術館の秘密をさぐれ」では、美術館を誰もが楽しく鑑賞できる工夫や作品保護についてワークシートを頼りにスタッフが館内を案内するプログラムである。普段は見ることができない美術館の裏側や施設の特徴や工夫を紹介しながら、美術館が多くの人によって支えられていることに気づくことができる。施設見学や職場体験の一つとしての申し込み傾向が見受けられる。



月日	団体名	人数
5月15日	静岡市立南中学校	6
5月17日	静岡県立静岡高校美術部	5
7月15日	武藏野音楽大学音楽学部	33
9月11日	静岡県立富岳館高校	2
9月18日	星陵中学校	76
9月19日	静岡学園中学校	77
9月30日	はばたく教室	13
10月21日	清水町立清水中学校	76
10月23日	清水町立南中学校	37
11月14日	静岡市立安東小学校	31
合計人数		356
団体数		10

■ロダン館スケッチ・デッサン

学校を対象としたロダン館の彫刻作品をスケッチ、デッサンするもので、これにより作品をじっくり見ることへとつなげている。

デッサンやスケッチの技術指導を行うことはないが、美術館でのマナー・ルールに則った道具の使い方、描き方などの基本をオリエンテーション時に伝えている。



月日	団体名	人数
5月24日	焼津市立大井川中学校美術部	16
8月6日	愛知県立尾北高校美術部	7
9月18日	星陵中学校	76
10月9日	中央調理製菓専門学校静岡校	41
10月21日	常葉菊川高校	41
12月6日	静岡市立服織中学校美術部	22
2月10日	沼津特別支援学校愛鷹分校	17
2月17日	静岡県立浜松江之島高校	33
合計人数		253
団体数		8

■学校向けギャラリー・ツアーア

教育普及活動は、美術館の財産すなわち作品を生かした鑑賞系プログラムの充実に力を入れている。

その一環として、来館1ヶ月前までに学校からの依頼に応じて、当館ボランティア（展示室グループ学校班）に連絡を取り、都合のつくボランティアに当日鑑賞の手伝いをお願いしている。

展示室では、子どもたちの感想や気付きに耳を傾けながら作品について一緒に考え、話をする鑑賞を行っており、観賞後、子どもたちから「楽しかったよ」「また、美術館に来るね」の声が多く聞かれる。

粘土教室や絵の具教室に参加した園・学校にも観覧を呼びかけ、ギャラリー・ツアーアを実施したが、ボランティアへの連絡や、学校の観覧時間や人数にあわせたボランティアの配置の工夫、オリエンテーションや荷物置き場の確保、ミューズスタッフへの連絡等細かい配慮が必要となっている。



月日	団体名	人数
4月19日	静岡市立安東中学校	28
	静岡市立豊田中学校	24
5月16日	静岡市立高校美術部	8
5月17日	静岡大学教育学部美術専攻	35
6月21日	静岡市立高校美術部	6
7月17日	静岡市立清水有度第一小学校	141
8月21日	田町児童クラブ	30
8月28日	静岡県立金谷高校美術部	11
9月7日	静岡市立高校美術部	7
9月18日	星陵中学校	76
9月19日	静岡学園中学校	77
10月1日	中央特別支援学校おおぞら学級	7

10月18日	静岡市立安東中学校美術部	22
10月19日	静岡市立高校美術部	8
10月21日	清水町立清水中学校	76
10月22日	日本航空高校静岡校	22
10月25日	御殿場市立原里中学校	25
11月18日	静岡市立西奈南小学校	29
12月 6日	静岡市立服織中学校美術部	22
12月 9日	静岡県立川根高校	163
	焼津市立東益津中学校	75
12月10日	静岡市立清水第四中学校	135
	浜松市立新津中学校	134
12月11日	富士市立富士川第二中学校	68
	静岡市立大河内中学校	24
	浜松市立南部中学校	223
	熱海市立多賀中学校	80
	富士市立富士南中学校	292
	日大三島中学校	49
12月12日	静岡市立東豊田小学校	54
	静岡市立東豊田小学校	55
12月17日	三島市立南中学校	151
	浜松市立中郡中学校	155
12月18日	学校組合立牧之原中学校	30
	浜松修学舎中学校	65
	袋井市立周南中学校	221
12月20日	静岡市立安東中学校美術部	17
	静岡市立高校美術部	7
2月 4日	静岡市立川原小学校	78
2月10日	沼津特別支援学校愛鷹分校	17
2月13日	静岡県立富士特別支援学校	59
2月17日	静岡県立中央特別支援学校 中学部	11
2月24日	静岡聖光学院	27
合計人数		2,844
団体数		43

■職場体験学習

職場体験学習は、今日の少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化、あるいはフリーターやニートといった社会問題に対し、しっかりととした勤労観、職業観を身につけ、将来、社会人、職業人として自立できるようにするキャリア教育の一環として実施されている。

当館でも美術館教室・実技プログラムの開催日を中心に受け入れを行った。

主な活動としては、美術館教室での補助活動、ロダン

館ななふしき、美術館の秘密を探れといったプログラムへの参加、ショップやインフォメーション業務の体験などがある。

こうした体験を通して、美術館は単に絵を鑑賞する場所ということにとどまらず、さまざまな活動が行われていること、そこにはいろいろな仕事をする人がいること、また多くの工夫があることを感じ取ってくれていた。



月日	団体名	人数
5月13日～15日	静岡市立南中学校	5
5月20日	静岡市立清水第八中学校	3
8月 6日～8日	静岡雙葉中学校	3
8月14日～16日	静岡県立駿河総合高校	2
8月14日～16日	サレジオ中学校	2
8月20日	富士市役所主催ツアーハウス	31
8月26日～28日	静岡市立東中学校	3
10月25日	富士宮市立富士宮第二中学校	2
11月18日～20日	静岡市立觀山中学校	5
合計人数		56
団体数		9

■教員研修

初任者研修や複数年経験者研修、自校で粘土ワークショップ等を指導したい教員を対象として、イベント補助作業や粘土教室の参加・見学を受け入れるとともに、先生方の研究会に参加させていただき講師を務めるなど積極的に取り組んだ。



月日	団体名	人数
8月13日	県総合教育センター主催	23
8月23日	指導者向け粘土絵の具講習会	37
8月24日	指導者向け木版画制作・鑑賞授業講習会	23
11月23日	志太地区教員研修会	15
合計人数		98
団体数		4

※教員研修会での講師含

■出張美術講座

出張美術講座では、美術館職員が学校に出向き、美術館の概要や企画展、収蔵品展、ロダン館の紹介やレプリカ教材（屏風、掛軸、西洋画、考える人等）を使って鑑賞授業を行ったり、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業（チーム・ティーチング）を行った。

また、こどもたちのための文化芸術鑑賞推進事業の事前指導のために、同事業参加中学校に赴き、鑑賞マナーや開催展覧会の見どころ解説などを行った。

次年度で用いる新たな観賞用貸し出し教材であるアートカード体験を各学校に呼びかけ、試行の協力を数多くいただいた。



月日	団体名	人数
5月8日	焼津市立和田中学校	62
7月4日	富士市立富士南中学校	38
7月11日	富士市立富士南中学校	70
7月23日	牧之原市立萩間小学校	27
10月2日	日本航空高校	20
10月8日	日本航空高校沼津校	28
11月21日	静岡市立安東中学校	25
12月3日	熱海市立多賀中学校	74
12月5日	富士市立富士川第二中学校	65
12月8日	静岡市立清水第四中学校	129
1月30日	静岡大学教育学部	59
2月3日	富士宮市立上野中学校	57
2月9日	静岡大学教育学部	51
2月13日	静岡市立服織中学校	22
2月26日	沼津市立沢田小学校	74
合計人数		801
団体数		15

■出張粘土教室

平成25年以降は遠方の学校団体や来館が困難な特別支援学校のみを対象として公用車にて粘土を学校に運び、粘土教室を行った。

出張前日は公用車への500 kgを超える粘土や準備用具の積み込み作業。当日は、公用車に同乗できる人数3名で学校に運び、積み下ろし会場準備、粘土教室の実施、実施後の片づけと積み込み作業。翌日は、粘土の練り直し作業等で丸1日の時間を費やし、1回の出張粘土教室で3日間を要する。実技室年間活動計画の見直しの中で3日間をより有効に使うため、先に述べた遠方の学校団体や来館が困難な特別支援学校などの学校団体を対象とした活動とした。

月日	団体名	人数
1月16日	静岡県立藤枝特別支援学校	24
合計		24
団体数		1

■粘土やレプリカ、当館資料の貸し出し

児童・生徒を引率して当館に来るには、授業の時間数の関係や距離的に障害があるが、当館の普及事業を自らの手で実践したいという教員のために、粘土やレプリカ等の貸し出しを行ったり、授業協力という形で相談に応じたり、資料の提供を行った。



・粘土貸出

月日	団体名
5月10日	ふじままネット
5月19日	AAP
5月20日	エンゼル幼稚園
6月8日	藤枝橋幼稚園
6月20日	牧之原市立相良小学校
6月20日	富士市立鷹岡小学校
6月26日	島田市立六合小学校
7月1日	服織児童館
8月17日	子育て支援センター服織第二
9月12日	地域子育てセンターあけぼの
	静岡大学教育学部附属特別支援学校
10月14日	エンゼル幼稚園
10月24日	橋幼稚園
10月27日	麻機幼稚園
11月7日	静岡県立静岡北特別支援学校 小学部
1月30日	静岡県立藤枝特別支援学校

・授業協力、レプリカ貸出等

月日	団体名
5月26日	静岡県立清水南高校
6月29日	静岡市立三保第二小学校
	静岡市立清水庵原小学校
8月31日	静岡県立西部特別支援学校
9月6日	富士市立元吉原小学校
9月23日	静岡市立梅ヶ島中学校
10月25日	長泉町立北中学校
11月8日	伊東市立旭小学校
11月17日	静岡県立遠江総合高校
11月18日	静岡市立西奈南小学校
11月27日	静岡市立清水江尻小学校
11月29日	静岡市立井宮北小学校
	浜松市立白脇小学校
12月7日	静岡大学 大学院
12月23日	静岡市立水見色小学校
1月30日	御殿場市立御殿場中学校
1月30日	静岡市立服織中学校

【運営基本方針B】地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

【重点目標2】講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実します

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会を開催した。

■特別講演会

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月26日	「佐伯佑三とパリ」展特別講演会「佐伯佑三と1920年代のパリ」	熊田司氏（和歌山県立近代美術館館長）	講堂	90人
6月28日	「下岡蓮杖」展特別講演会「浅草の奇人変人、下岡蓮杖のこと」	木下直之氏（東京大学教授、文化資源学）	講座室	48人
8月24日	「アニマル・ワールド」展特別トークショー	柿島安博氏（静岡市立日本平動物園副園長・獣医師）、福士雄也（当館主任学芸員）	講堂	120人
9月20日	「美少女の美術史」展 トリメガ研究所トークショー	川西由里氏（島根県立石見美術館）、工藤健志氏（青森県立美術館）、村上敬（当館上席学芸員）	講堂	60人
12月7日	「風景解剖学」展特別講演会「風景と美術と解剖学」	布施英利氏（美術評論家、東京藝術大学准教授）	講堂	60人
2月15日	「石田徹也展」トークイベント「石田徹也の発想の源をさぐる」	平林勇氏（映像作家・CMディレクター）	講堂	130人

美術講座等

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、展覧会に関わった外部講師、当館学芸員による講座を開催した。

■美術講座

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
5月10日	「佐伯佑三とパリ」展美術講座「1920年代、パリの諸相—エコール・ド・パリ、アール・デコ、宝塚少女歌劇」	三谷理華（当館学芸課長）	講座室	40人
6月29日	「下岡蓮杖」展美術講座「下岡蓮杖の写真と技術」	三井圭司氏（東京都写真美術館学芸員）	講座室	40人
1月25日	「石田徹也展」美術講座「石田徹也のノート類について」	堀切正人氏（常葉大学准教授）	講座室	60人
3月1日	「石田徹也展」美術講座「石田徹也の時代」	川谷承子（当館上席学芸員）	講座室	33人

■鑑賞講座

親子やファミリーを対象にした鑑賞講座。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
12月21日	「風景解剖学」展親子鑑賞講座	石上充代（当館上席学芸員）、浦澤倫太郎（当館学芸員）	展示室	11人
3月8日	「石田徹也展」親子ギャラリーツアー 「見て・観て・感じて伝えよう」	川谷承子（当館上席学芸員）、松浦文香（当館臨時職員）、当館インターン	展示室	46人
3月19日	「石田徹也展」インターンギャラリーツアー 「見て・観て・感じて伝えよう」	松浦文香（当館臨時職員）、当館インターン	展示室	11人

■フロアレクチャー

展示室で展覧会のみどころや代表作品について解説するもの。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
4月19日 5月17日	「新収蔵品展」フロアレクチャー	三谷理華（当館学芸課長）、村上敬、石上充代、川谷承子（当館上席学芸員）、福士雄也（当館主任学芸員）	展示室	40人
4月27日 5月11日	「佐伯佑三とパリ」展フロアレクチャー	村上敬（当館上席学芸員）、三谷理華（当館学芸課長）	展示室	50人
6月22日 7月20日	収蔵品展「静岡ゆかりの洋画家」展フロアレクチャー	泰井良、村上敬（当館上席学芸員）	展示室	19人
7月5日 7月12日	「下岡蓮杖」展フロアレクチャー	南美幸、石上充代（当館上席学芸員）	展示室	35人
8月3日 8月5日 8月9日 8月16日 8月17日	「アニマル・ワールド」展フロアレクチャー	福士雄也（当館主任学芸員）	展示室	72人
8月17日	収蔵品展「水辺のアート」展フロアレクチャー	三谷理華（当館学芸課長）	展示室	30人
9月21日 10月5日	収蔵品展「西洋の絵画」展フロアレクチャー	南美幸、新田建史（当館上席学芸員）	展示室	30人
10月12日 10月26日	「美少女の美術史」展フロアレクチャー	村上敬（当館上席学芸員）	展示室	90人

12月 6 日 12月13日 1月 2 日 1月 3 日	「風景解剖学」展 フロアレクチャー	石上充代、新田建史（当館上席学芸員）、浦澤倫太郎（当館学芸員）	展示室	77人
2月28日	収蔵品展「富士山の絵画」展 フロアレクチャー	石上充代（当館上席学芸員）	展示室	3人
3月29日	収蔵品展「人を描く」展 フロアレクチャー	浦澤倫太郎（当館学芸員）	展示室	10人

■移動美術展の講座等

移動美術展会場にて作品を解説するもの。

開催日	演題・内容	講 師	場 所	参加者数
10月12日	移動美術展 フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）	モンミュゼ沼津 沼津市庄司美術館	33人
11月16日	移動美術展 フロアレクチャー	泰井良（当館上席学芸員）	菊川市歴史街道館	20人

■出張美術講座

美術館学芸員が学校に出向き、ゲストティーチャーとして授業に参加したり、教師とチームを組んで授業を行ったり、教員向けの研修会講師を行うなどした。年間15回、受講した生徒の数は801人。

対外活動

館員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

■講演会

村上敬：「トリメガ研究所トークショー：美少女って何？」〔工藤健志氏（青森県立美術館）、川西由里氏（島根県立石見美術館）との鼎談〕
【青森県立美術館】7月13日
「美少女展の仕掛け人、トリメガ研究所と考える 地方美術館の運営と展覧会企画」
〔工藤健志氏（青森県立美術館）、川西由里氏（島根県立石見美術館）との鼎談〕
【青山ブックセンター本店】10月18日
「Think of Fashion 特別編 美少女 × ファッション「美少女の美術史」展から考える」〔工藤健志氏（青森県立美術館）、川西由里氏（島根県立石見美術館）、小澤京子氏（表象文化論）、菊田琢也氏（文化社会学）、柴田英里氏（現代美術作家、文筆家）とのシンポジウム〕
【coromoza fashion laboratory】11月3日
「トリメガ研究所座談会 美少女の美術史、ここだけの話。」〔工藤健志氏（青森県立美術館）、川西由里氏（島根県立石見美術館）との鼎談〕
【島根県立石見美術館】12月13日

泰井良：「和田英作と近代の富士山」
【裾野市生涯学習センター】2月19日

新田建史：シンポジウム「多摩地域の博物館・資料館・美術館における防災と地域連携」パネラー
【国文学研究資料館】10月30日（木）
「伊豆市美術館建設準備委員」
2月19日（木）
「静岡県博物館協会防災DIG」講師
【上原近代美術館、上原仏教美術館】、
2月28日（土）

■講座等

泉万里：「『日月山水図屏風』の基層」（京都国立博物館土曜講座）
【京都国立博物館】3月21日

三谷理華：「宝塚レヴューは静岡発！？一白井鐵造とレヴュー『パリゼット』」（京友会卓話）
【ホテルアソシア】2月14日

川谷承子：「劇場・美術館トーク演習（美術分野）」（ア-

トマネジメント力育成事業）
【静岡大学】9月1日
「石田徹也展－ノート、夢のしるし－関連イベント クロストークpart.2」
【砺波市美術館】9月28日
神谷洋介：出張美術講座
【焼津市和田中学校】5月8日
【高校美術工芸教育研究会】5月23日
【富士市立富士南中学】7月4日
【牧之原市立萩間小学校】7月23日
【中央特別支援学校病院内おおぞら学級】
9月25日
【日本航空高校伊豆函南校】9月26日
【日本航空高校静岡校】10月2日
【日本航空高校沼津校】10月9日
【静岡市立安東中学】11月21日
【静岡大学教育学部附属浜松小学校】
11月27日
【富士市立富士川第二中学】12月5日
【静岡大学教育学部】1月30日
【富士宮市立上野中学校】2月4日
【静岡大学教育学部】2月9日
【静岡市立服織中学校】2月13日
【沼津市立沢田小学校】2月27日
出張粘土教室
【藤枝特別支援学校】1月17日
鑑賞教育のための指導者研修
【国立近代美術館・国立新美術館】
8月4日、5日
アートカードに関する聞き取り調査
【愛知県美術館・三重県立美術館】
8月7日
夏の工作体験
【清水ドリームプラザ】8月19日 子どもたちの文化芸術鑑賞推進事業説明会
【県浜松総合庁舎】9月3日
【県東部総合庁舎】9月8日
【県庁別館】9月11日
浦澤倫太郎：出張美術講座
【焼津市立和田中学校】5月8日
【富士市立富士南中学】7月4日
【熱海市立和田中学校】12月3日
【静岡市立清水第四中学校】12月8日
【富士宮市立上野中学校】2月4日

■美術館友の会事業への協力

南美幸： 友の会旅行「名古屋市美術館と名古屋ボストン名古屋美術館を訪ねる」同行 3月4日
浦澤倫太郎：友の会旅行「新緑の箱根散策 岡田美術館＆ラリック美術館」同行 5月28日

■静岡県博物館協会

当館は同協会の事務局を務め、協会加盟館の協力のもとに以下の事業を行った。

1 役員会・総会の開催 5月20日（火）（県立美術館）

2 研修会・講習会の実施

(1) 第1回講習会「災害を識る。文化財を守る。」

日時：10月3日（金）13：30～16：00

会場：沼津市立図書館4階視聴覚ホール

参加者数：52名

内容：東日本大震災は甚大な人的、物的被害をもたらし、歴史史料や文化財にも大きな被害を与えた。発災から3年余りが経過し、静岡県が第4次被害想定を発表したこともあり、文化財レスキューの実態について、広く知ってもらうことを目的とした。

共催：富士・沼津・三島市博物館連絡協議会

講師：菅野正道氏（仙台市博物館市史編纂室）

：県危機政策課

：県教育委員会文化財保護課

(2) 第2回講習会 「展示作品の取り扱い」

日時：1月9日（金） 13：00～15：30

会場：浜松市美術館講座室

参加者数：55名

内容：ベテラン学芸員が定年により退職するなど、技術面での後継者の養成が困難な状況になってきたことを受け、展示作品の梱包作業という実習を行なった。実習には陶器、掛け軸、書、仏像（坐像、手部分）等を用いた。

講師：ヤマトロジスティクス株式会社

(3) 第3回講習会 「館園の広報—最新の動向を探る—」

日時：3月6日（金） 13：30～16：30

会場：静岡市美術館多目的室

参加者数：30名

内容：SNSの活用など、近年の広報媒体は多岐に亘る。この講習会では、広報について実例を紹介して頂きつつ留意すべき点やアイデアをお話し頂いた。

講師：沼澤秀夫氏（株式会社ウインダム専務取締役）

阿南一徳氏（株式会社主婦の友社法務課長、静岡県舞台芸術センター広報アドバイザー）

青木良平氏（静岡市美術館）

3 地域セミナーの開催

・富士市立博物館「富士山ネットワーク『富士山ぐるりんマップ』の改訂

開催日：7月～

・浜松市立賀茂真淵記念館「賀茂真淵記念館夏期講座」
開催日：7月5日（土）～7月30日（水）間の6日間

・磐田市旧見付学校附磐田文庫「むかしの授業体験」

開催日：7月25日（金）、8月8日（金）

・浜松市博物館「シンポジウム 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開」

開催日：1月25日（日）

4 静岡県博物館協会会報（No. 73、No. 74）の発行

5 静岡県博物館協会研究紀要 第38号の刊行

6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

7 東海地区博物館連絡協議会役員会及び総会への参加
日時：7月30日（水）

場所：山梨県立博物館

8 防災事業の実施

・防災事業に係るアンケート

・防災DIGの試験的な実施：2月28日（土）、上原近代美術館、上原仏教美術館）

・加盟館園目録等データバックアップ事業：3月～

9 広報及び情報交換

隨時各館園の情報の交換を行い、連絡協調を図った。

10 事業推進グループによる事業の推進

・事業推進グループ会合 4回開催

6月24日（火）、10月3日（金）、1月9日（金）、3月6日（金）

■その他

泉万里： ふじのくに芸術祭2014美術部門審査員

ふじのくに子ども芸術大学実行委員

静岡県舞台芸術センター評議員

富士市立博物館所蔵品調査・報告

京都市文化財保護審議会委員

家具・道具・室内史学会運営委員

三谷理華：ジャポニスム学会学芸員勉強会代表幹事

新田建史：伊豆市美術館建設準備委員

泰井良：一般財団法人地域創造公立美術館活性化事業企画検討委員

全国美術館会議地域美術研究部会幹事

三重県総合博物館（みえむ）評価部会副部会長

川谷承子：静岡大学 アートマネジメント力育成事業への協力（「アートマネジメント実習B（美術分野）」講師 10月～2月、「めぐるりアート静岡」の企画、実施・演習授業の講師

「キッズアートプロジェクトしづおか」への協力（「発見はっけん！キッズアート！～こども・コラボ・みゅーじあむ～」貸出作品の展示指導。【静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る】3月6日、【沼津商工会議所】3月20日）

神谷洋介：防火ポスター審査会（【県庁別館】9月12日）
海上保安庁図画コンクール（【清水港湾合同庁舎】9月30日）

ロゴデザイン審査（【グランシップ】2月20日）

浦澤倫太郎：「キッズアートプロジェクトしづおか」への協力

美術館ボランティア・広報センター

■美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985（昭和60）年から募集と研修を始め、1986（昭和61）年4月の開館と同時に活動を開始した。以来、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。2009（平成21）年には組織改革と再募集を行い、「静岡県立美術館年報平成21年度」p.82～84を参照)、2010（平成22）年4月からは、3年の任期制を導入した上で新体制により再始動した。

今年度は改革後の第2期2年目にあたり、105名の方に活動いただいた。

・活動目的、方針

美術館ボランティアは、美術館の日々の活動を支え、来館者と美術館、地域と美術館を結ぶ架け橋として活動する。そのために、次の3つの活動方針を定めている。

- (1) 来館者サービス充実
- (2) 美術館運営支援
- (3) 地域連携推進

・活動内容、グループ

(1) 全ボランティア共通の業務

当館ボランティアは、それぞれの地域、家庭、職場などにおいて当館の情報を提供し、宣伝することに務める。美術館の宣伝活動（口コミ）の一翼を担っていたらしくともに、美術館と地域とを結びつける役割を果たす。のために、企画展ごとにその内容を知るためのボランティア研修を行った。

(2) 各グループの活動

以下の6つのグループに分かれて活動した。ご案内グループのみ、他との兼任可としている。

①ご案内グループ 43名

図書閲覧室の受付を中心とする来館者対応が主な活動。閲覧室において利用者の請求に応じて閉架図書の出納を行うと共に、美術館の案内業務を行う。

②展示室グループ

A 学校班 17名

学校等の団体観覧の際、館内誘導や展示室での子どもたちの話し相手などを行う。子どもたちと一緒に展示室をまわり、一緒に観覧することで、子どもたちの見る力を引き出す。

B ギャラリーツアー班 11名

展示室において一般来館者と対話しながら作品を鑑賞

する。解説形式は当館学芸員の行う様々な講座があるので、それとは異なり、ボランティアと来館者が会話することによって鑑賞を深めていく形式を探る。

③タッチツアーグループ 11名

目の不自由な方が彫刻を触って鑑賞するプログラム「タッチ・ツアー」のガイド役を行う。身障者対応や彫刻鑑賞についての研修を積み、「タッチ・ツアー」の申込みがあった場合に、収集して活動する。

④実技室グループ 12名

実技室で行われる様々なイベントの補助を行う。実技室のイベントは、様々な工作のワークショップなど多種多様であり、その画材や材料などの準備と片付けや、イベント終了後の清掃作業等、労務が多い。ボランティアのマンパワーがたいへん有益となっている。

⑤資料整理グループ 18名

美術にまつわる資料整理に関する活動を行う。全国の美術館、博物館などから送付されるポスター・チラシ、また作家からの個展のダイレクトメールなど、貴重な美術情報を整理、掲示、閲覧し、一般来館者へ情報提供を行う。その後は分類、保管し、将来的にはデータベース化を行うことにより貴重なアーカイブを形成することを目指している。人手のいる作業であり、ボランティアの力が大いに発揮されている。

⑥地域連携・草薙ツアーグループ 9名

“地域と美術館を結ぶ”ことを目的として、様々な活動を自ら企画立案、実施する。美術館周辺地域散策「草薙のんびりツアー」や、美術館前庭にある「杉山彦三郎記念茶畠」の手入れの補助を行う。またその茶葉を活用して、お茶摘みイベントや、来館者への呈茶サービスなども行う。

・規約、ルールなど

館が定めた「設置要綱」「活動要綱」「活動基本ルール」に基づいて活動している。報酬、旅費などの支給はない。ただしボランティア保険については美術館が負担している。ボランティアの自己研修と広報活動のために、展覧会は無料で観覧することができる。また企画展ごとに休館日を利用してボランティアを対象とする内覧会を実施している。

・組織

グループごとに担当職員を割り当て、職員がボランティアを監督、協働しつつ活動している。ボランティア自身による自主的な組織化は今のところ行っておらず、ボランティア会長や代表などは置いていない。

・活動頻度

基本的に一人が月2回以上活動することとし（応募基準）、実際はグループごとに頻度や時間を定めている。

・募集、登録、活動期間

より多くの方が美術館ボランティアに参加できるようになるため、原則として3年ごとに美術館ボランティアの募集を行う。ただし、美術館ボランティア募集に係る人数、期間、活動内容、資格その他の基準は、そのつど美術館が定め、募集要項に記載する。

活動期間 平成25年4月～平成28年3月（3年間）

■広報センター

平成13年度に発足した広報センターは、平成18年度から「地域センター」と改称し活動を行ってきたが、平成21年度にボランティアの組織改革が行われたことに伴い、センター制度についても見直しを行った。その結果、従来の「地域センター」を平成21年度末に一旦解散し、「口コミによる広報活動」をセンターの主たる役割と位置づけ、平成22年度から名称を「広報センター」とし、新たに募集を行った。（平成26年度末時点「広報センター」登録者数70名）

広報センターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター、チラシ、割引券及び当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

また、同センターは、広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくことを目的に、当館ボランティア向けに行っている展覧会内覧会に参加できることとしている。

なお、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」の提出を義務付けている。

1)「広報センター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報等が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる

- ・広報センター証の発行を受ける
- 2)「広報センター」の活動内容
- ・展覧会やイベントの情報をポスター、チラシ、口コミ等で地域や職場に広める
 - ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

友の会活動

■ 諸会議

・理事会・評議員会

- 5月17日（土） 静岡県立美術館 講座室
(1) 役員選任等について
(2) 平成25年度事業報告、決算報告
(3) 平成26年度事業計画、予算案

・事業委員会

静岡県立美術館 会議室 12回開催

・会報委員会

静岡県立美術館 会議室 17回開催

- (3) 第85号 (12月15日発行) アトリエ訪問 画家・
杉山侃子氏

・情報の提供

- (1) 美術館ニュース「アマリリス」郵送 (年4回)
(2) 各種催事の情報提供
(3) 美術館内掲示板の有効活用
①入会勧誘ポスター掲示や入会申込用紙設置
②講座や旅行の実施前後に、募集要項・参加者のス
ナップ写真・作品などを掲示、PR。
③友の会だより「プロムナード」の掲示

■ 実技講座

・実技講座 「器と身近な果物を描こう」

7月27日（日） 8月3日（日） 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 田宮話子氏 (日本画家 常葉大学造形学部准教授)

参加人数 7月27日 11名／8月3日 11名

・実技講座「パステルで人物を描きましょう」

2月21日（土） 2月22日（日） 2日間

静岡県立美術館 実技室

講師 小林順子氏 (現代パステル協会委員)

参加人数 2月21日 21名／2月22日 20名

■ キッズアートプロジェクトしづおか支援

- ・静岡県内の小学生を対象に配布する「ミュージアムパ
スポート」の作製や事業活動へ協賛。

■ その他の事業

・会員勧誘キャンペーン

佐伯祐三とパリーポスターのある街角－

4月27日、5月10日～11日 計3日間実施

新規入会会員 一般：8 シニア：3 学生：1 (計12名)

■ 講演会（イベント）等の開催

・「にがおえ広場」

11月1日（土） 11月2日（日） 11月3日（月祝）

3日間

静岡県立美術館正面

にがお絵人数 約200人 色紙枚数 120枚

県立大学、静岡大学、常葉大学から似顔絵が描ける学
生 延べ18名が参加

■ 親睦旅行

・「新緑の箱根散策 岡田美術館＆ラリック美術館」日 帰り旅行

5月28日（水）

参加人数 44名 浦澤倫太郎 学芸課 学芸員同行

・「名古屋市美術館と名古屋ボストン美術館を訪ねる」 日帰り旅行

3月4日（水）

参加人数 33名 南 美幸 学芸課 上席学芸員同行

■ 友の会美術館支援事業

・各種実技支援事業

■ 情報資料の作成と提供

・友の会だより「プロムナード」発行 (各1000部)

- (1) 第83号 (4月15日発行) アトリエ訪問 版画
家・陶芸家・林和一氏
(2) 第84号 (7月15日発行) アトリエ訪問 水彩
画家・青島紀三雄氏

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年 5月25日
改正 平成14年 6月16日
改正 平成20年 2月27日
改正 平成24年 2月28日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)と称する。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館に置く。

(目的)

第3条 本会は、以下を目的として活動する。

- (1) 静岡県立美術館が実施する各種事業への参加を通じて芸術・文化に親しみ、理解を深めながら生活の質を高める。
- (2) 本会が実施する各種事業への参加を通じて会員相互の理解と親睦を深め、地域の芸術・文化振興に貢献する。
- (3) 静岡県立美術館が実施する各種事業において地域社会との架け橋の役割を担い、地域をパートナーとする経営を標榜する県立美術館との協働を行う。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を実施する。

- (1) 展覧会鑑賞プログラム
- (2) 各種講演会・講座・見学会・コンサート・映画会等の開催・後援
- (3) 会員への各種情報提供
- (4) 会員相互交流のためのプログラム
- (5) 静岡県立美術館との事業協働
- (6) 地域住民・団体等との情報交換・事業協働等
- (7) その他必要な事業

(財務)

第5条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。

- (1) 会費
- (2) 事業に伴う収入
- (3) その他の収入

(会員の種類及び特典)

第6条 本会の会員は、特別会員、一般会員、学生会員・シニア会員、及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、特別会員、一般会員のほか、シニア会員を選択することができる。
- (2) 学生（高校生・専門学校生・大学生）は、学生会員とする。
- (4) 会員資格の有効期限中における会員種別の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第7条 会員とは、本会の目的に賛同し、所定の入会手続きを行って会費を納入した者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年間とする。ただし、会員から退会の申し出が無い限り更に1年間延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第8条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は、理由の如何を問わず返還しないものとする。

2 各種講座、見学会等に際しては、参加者は必要に応じて別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第9条 会員は、住所、氏名、電話番号、会費引き落とし用口座等の届出事項に変更があった場合は、速やかに事務局に報告し、所定の手続きを行うこととする。

(会員証)

第10条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

2 会員は、会員証を第三者に譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第11条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、速やかに事務局にとどけるものとする。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第12条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項の規定により退会する場合は、会員資格有効期限の2ヶ月前までに事務局へ申し出ることとする。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第14条 本会の事業計画及び収支予算は、会長が作成し、その事業年度の開始前に理事会の承認を得なければならない。

2 会長は、前項の事業計画又は収支計画を変更しようとするときは、理事会の承認を得なければならない。ただし、軽微な変更については、この限りではない。

(事業報告及び収支決算)

第15条 本会の事業報告、収支決算は、会長が作成し、監事の監査を経て、その事業年度終了後2ヶ月以内に理事会の承認を得なければならない。

(役員)

第16条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 1人

- (3) 理事（会長及び副会長を含む）10人以内
 - (4) 評議員 15人以内
 - (5) 監事 2人
- 2 理事及び監事は、評議員会において選任する。
- 3 会長及び副会長は、理事の互選により定める。
- 4 評議員は、理事会において選任する。
- 5 理事、評議員及び監事は、相互に兼ねることができない。

（役員の職務）

- 第17条 会長は、本会を代表し、事業を統括する。
- 2 副会長は、会長を補佐して事業を掌理し、会長に事故あるときはその職務を代理し、会長が欠けたときはその職務を行う。
 - 3 理事は、理事会を構成し、事業の執行を行う。
 - 4 評議員は、評議員会を構成する。
 - 5 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

（役員の任期）

- 第18条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（専門委員会）

- 第19条 必要に応じ、本会の事業に関する具体的な企画等の検討を目的とした専門委員会を置く。
- 2 専門委員会は、理事及び会員によって構成される。

（事務局）

- 第20条 本会に事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
 - 3 事務局長は、理事の中から会長が任免する。
 - 4 事務局に事務職員を置く。

（顧問）

- 第21条 本会に顧問を置くことができる。
- 2 顧問は、理事会の議決を経て、会長が委嘱する。
 - 3 顧問は、本会の事業について助言を行うとともに、理事会に出席して意見を述べることができる。
 - 4 顧問の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会議）

- 第22条 本会の会議は、理事会及び評議員会とする。
- 第23条 理事会は、会長、副会長その他の理事をもって構成する。
- 2 評議員会は、評議員をもって構成する。

（会議の権能）

- 第24条 理事会は、この会則に別に定めるものほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。
- 2 評議員会は、この会則に別に定めるものほか、会長の諮問に応じて必要な事項を審議するとともに、必要に応じて本会に関する重要事項に関し、会長に建議することができる。
 - 3 理事会において第14条、第15条、第32条及び第33条に規定する事項を議決する場合には、あらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

（会議の開催）

第25条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 理事の4分の1以上または、監事から開催の請求があったとき。
- 2 評議員会は、次に掲げる場合に開催する。
- (1) 会長が必要と認めたとき。
 - (2) 評議員の4分の1以上から開催の請求があったとき。

（会議の定足数）

第26条 会議は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開会することができない。

（会議の議長）

第27条 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

- 2 評議員会の議長は、その評議員会において出席した評議員のうちから選任する。

（会議の議決）

第28条 会議の議決は、会議に出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（書面の決議等）

第29条 会議に出席できない理事、または評議員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決することができる。この場合において、前2条及び次条第1項第3号規定の適用については、出席した者とみなす。

第30条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時及び場所
 - (2) 構成員の現在数
 - (3) 会議に出席した理事または評議員氏名
 - (4) 議決事項
 - (5) 議決の経過の概要及びその結果
 - (6) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長のほか、会議に出席した構成員のうちから、当該会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印しなければならない。

（賛助会員）

第31条 この会の目的に賛同するものは、賛助会員になることができる。

2 賛助会費その他賛助会員について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

（会則の変更）

第32条 この会の会則は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得なければ、変更することができない。

（解散）

第33条 この会は、理事会において理事の4分の3以上の同意を得たときに解散する。

2 解散のときに残存する残余財産は、理事会の議決によりその使途を定めるものとする。

（雑則）

第34条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関する必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

附 則

この会則は、昭和61年5月25日より効力を生ずる。

附 則

この変更は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

1 この変更は、平成20年2月27日から施行する。

2 この変更後の役員は、第16条第2項、第3項及び4項の規定にかかわらず、変更前の役員が選任されるものとする。ただし、その任期は、第18条の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。

附 則

この変更は、平成24年2月28日から施行する。

別表1 (第6条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類	一般会員	シニア会員	特別会員	学生会員
1 県立美術館主催の企画展招待券		5枚	5枚	5枚	2枚
2 会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)	○	
3 会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○	○	○ (同伴4名まで)	○	
4 友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリリス」(年3回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○	○	
5 研修旅行(美術館巡り)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)	○	
6 会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲料料金が会員本人のみ1割引	○	○	○	○	
7 会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○	○	
8 県立美術館主催の企画展オープニングセレモニーご招待			○ (同伴1名まで)		

(注) ○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第8条関係) 年会費

会員区分	年会費
一般会員	(1名) 5,000円
シニア会員(70才以上)	(1名) 2,500円
学生(高校生・専門学校生・大学生)	(1名) 1,000円
特別会員	(1口) 10,000円
賛助会員	申し出のあった額

めぐるアート静岡 ミシラヌ〔マチ | ワタシ〕に、会いに行く。

会期：平成27年2月3日（火）～2月22日（日）

* 静岡県立美術館は3月1日（日）まで

主催：静岡大学、静岡県立美術館

協力：静岡市美術館、サークルナートホール、オルタナティブスペース・スノドカフェ、Gallery PSYS、ギャラリーとりこ、金座ボタニカ

企画：白井嘉尚氏（静岡大学教授）

川谷承子（当館学芸員）

堀切正人氏（常葉大学准教授）

柚木康裕氏（オルタナティブスペース・スノドカフェ代表）

会場 | 出展作家：

静岡県立美術館エントランスホール | 石上和弘氏

静岡県立美術館名品コーナー・ロダン館 | 鈴木康広氏

GALLERY UDONOS | タク・ヨンファン氏

Gallery PSYS | 渡辺依理氏

サークルナートホール | 鈴木貴博氏

ギャラリーとりこ | 斎藤彰英氏

金座ボタニカ | 乾久子氏氏

事務局：一ノ宮由美氏（静岡大学）

美術コース受講生：17名

助成：平成26年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」「地方総合大学からの文化力発信プロジェクト」
－アートマネジメント人材育成による地域の文化芸術活性化に向けて－

■概要

本展は、静岡大学が平成25年度秋より新しく開講した「アートマネジメント力育成事業」の一環として企画された、静岡ゆかりの現代作家を紹介する展覧会である。静岡大学と県立美術館、および近隣の文化機関とが連携して行っており、開催は25年度に続き2回目となる。「静岡から芸術を発信する場の創出」、「地域の文化芸術力活性化」を目的として、本年は、「ミシラヌ〔マチ | ワタシ〕に、会いに行く。」をキャッチフレーズに、7名の作家を6会場で紹介した。また、本展は、地域の文化施設に勤務する職員、学校教員、市民、学生を対象にした、アートマネジメントの研修プログラムに組み込まれており、展覧会開催までの各段階を全7回の実習として受講生と共有した。

当館では、エントランスホールと、玄関前の池の淵に、石上和弘氏による彫刻作品を展示した。富士山を模った彫刻《裾野を歩く、山腹に寝転がる》は、上に登って、素材の風合いや、形を、体で感じながら鑑賞する事ができる作品で、会期中、子供から大人まで好評を博し、美術館に活気をもたらした。また、名品コーナーとロダン館では、アイデアの面白さが際立つ鈴木康広氏の作品を展示した。ロダン館での《空気の人》の展示では、重厚なブロンズのロダン彫刻と、軽快なビニール素材の彫刻との対比が際立ち、鑑賞者の身体感覚をゆさぶるような効果を發揮した。



▲チラシ

■関連事業

・アーティストトーク

- 2月3日（火）13：00～13：45 石上和弘氏
／当館エントランスホール
14：00～15：15 鈴木康広氏
／当館エントランスホール、ロダン館
16：00～16：50 鈴木貴博氏
／サールナートホール
17：50～18：30 渡辺依理氏
／Gallery PSYS
- 2月14日（土）13：00～13：50 斎藤彰英氏
／ギャラリーとりこ
14：30～15：20 乾久子氏
／金座ボタニカ
- 2月22日（日）16：00～17：30 タク・ヨンファン
(映像)、丸山研二郎氏(音楽)
／GALLERY UDONOS



■記録集

- 仕 様：A4 33ページ
編 集：白井嘉尚、平野雅彦（静岡大学）
印 刷：山田写真製版所
デザイン：大溝裕
発 行：国立大学法人 静岡大学
内 容：
ごあいさつ
展覧会趣旨 ミシラヌ〔マチ | ワタシ〕に、会いに行く。
作家紹介
会場と展示 作家プロフィールと作家コメント
アーティストトーク
実習記録「めぐるりアート静岡」は、場の創造力を開放する装置である。
広報・広告戦略とツール
来場者の声
受講者メッセージ
実習の成果と課題

【重点目標1】広報戦略を策定し、広報の質を高めます

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心とした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

■広報活動

- ・展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・広報サポートへの情報提供
(展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼)
- ・展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

■ホームページ

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で18年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）	6000
平成10年度（1998）	12,000
平成11年度（1999）	21,000
平成12年度（2000）	40,000
平成13年度（2001）	70,200
平成14年度（2002）	87,300
平成15年度（2003）	85,000
平成16年度（2004）	98,000
平成17年度（2005）	103,500
平成18年度（2006）	155,400
平成19年度（2007）	164,500
平成20年度（2008）	169,780
平成21年度（2009）	149,000
平成22年度（2010）	353,500
平成23年度（2011）	419,000
平成24年度（2012）	370,660
平成25年度（2013）	977,227
平成26年度（2014）	243,000
	累計
	18,000
	39,000
	79,000
	149,200
	236,500
	321,500
	419,500
	523,100
	678,500
	843,000
	1,012,780
	1,156,000
	1,509,500
	1,926,625
	2,297,285
	3,274,512
	3,517,512

アクセス数はインターネットの普及に伴い開設以来、年々増加してきたが、今年度は20万件台へと、大幅に減少した。情報発信のツールとしてホームページがより一層その重要度を増してきていることは明らかであるが、

昨年度なぜアクセス件数が大幅に減少したかについては、多角的な分析が必要である。いずれにせよ、今後も引き続き、魅力あるページ作りが必須である。

従来からの課題であった若年層の開拓に向けたSNSの導入について、今年度7月よりFacebookを新たに開始し、オンライン上の新たなコミュニケーションツールとして活用している。

以前より行っているアンケートについては以下のとおり継続実施した。

・ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。

なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5組10名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4判8ページ、オールカラー

第113(春)号 平成26年4月1日発行

- p. 1 表紙 石川欽一郎《駿河湾》／上席学芸員 村上敬
p. 2 TOPICS 退職にあたっての一言二言／前学芸部長兼学芸課長 小針由紀隆
p. 3 TOPICS 静岡県立美術館での二年間を振り返って／前上席学芸員 角田新
p. 4 EXHIBITION 「静岡第一テレビ開局35周年記念 大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリー・スターのある街角」／上席学芸員 三谷理華
p. 5 EXHIBITION 「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖展」／上席学芸員 南美幸
p. 6-7 研究ノート 鈴木松年《日本武尊・素戔嗚尊屏風》—右隻主題の検討を中心に—／主任学芸員 石上充代
p. 7 本の窓 「セーラーとペッカシリーズ」1～5／主任学芸員 石上充代
p. 8 美術館問わず語り 手のひらで感じる色彩／前実技室エデュケーションスタッフ 藤岡美樹

第114(夏)号 平成26年6月28日発行

- p. 1 表紙 斎藤智《Untitled C》／上席学芸員 川谷承子
p. 2 TOPICS 美術館学芸部長という存在一人事交替の春に／館長 芳賀徹
p. 3 EXHIBITION 「アニマルワールド—美術のなかのどうぶつたち」／主任学芸員 福士雄也
p. 4-5 平成25年度 新収蔵品・寄贈作品の紹介／主任学芸員 福士雄也、上席学芸員 村上敬、上席学芸員 川谷承子
p. 6 本の窓『芸術新潮 特別レポート ルーブル美術館と子供たち』主査 神谷洋介
p. 6-7 研究ノート 館蔵品紹介《都鄙図屏風》をめぐって／学芸員 浦澤倫太郎
p. 8 美術館問わず語り 絵の扉は静かに開く／学芸部長 泉万里



第113(春)号



第114(夏)号

第115(秋)号 平成26年10月1日発行

- p. 1 表紙 カミュー・クローデル《波》／上席学芸員 南美幸
p. 2 TOPICS 「ロダン館」の遠い遠い由来／館長 芳賀徹
p. 3 TOPICS ロダン館二十周年に寄せて／元当館学芸課長 現広島県立美術館館長 越智裕二郎
p. 4 EXHIBITION 「美少女の美術史」／上席学芸員 村上敬
p. 5 EXHIBITION 「静岡県立美術館コレクション展 風景解剖学—古今東西、風景画のしくみ」／学芸員 浦澤倫太郎
p. 6-7 研究ノート 二見彰一と日本の戦後現代版画について(抄)／上席学芸員 新田建史
p. 7 本の窓 福原義春著『美』／上席学芸員 泰井良
p. 8 美術館問わず語り ロダン館のキャットウォーク／中央監視室 副責任者 上川稔

第116(冬)号 平成27年1月2日発行

- p. 1 表紙 石田徹也《めばえ》／上席学芸員 川谷承子
p. 2 TOPICS さらにも明るく賑やかな美術館へ／館長 芳賀徹
p. 3 TOPICS 聖地草薙についてのいくつかの思い出／静岡県立美術館第三者評価委員会委員長・東京大学大学院教授(文化資源学)木下直之
p. 4 EXHIBITION 「石田徹也展—ノート、夢のしるし」／上席学芸員 川谷承子
p. 5 EXHIBITION 「篠山紀信 写真力 THE PEOPLE by KISHIN」／上席学芸員 泰井良
p. 6-7 研究ノート 黒田清輝《富士之図(六点)》について(平成25年度新収蔵品)／上席学芸員 泰井良
p. 7 本の窓 『現代アートの本当の学び方』／学芸課臨時職員 松浦文香
p. 8 美術館問わず語り 特別な場所／京都国立博物館研究員 福士雄也



第115(秋)号



第116(冬)号

新たな広報チャンネルの開拓

- ・佐伯祐三とパリ展プレ企画イベントとして、静岡日仏協会と共に開催で、トークセッションを行った。50名程度の定員が一杯になるなど盛況であった。
- ・下岡蓮杖展において、下田市出身である「下岡蓮杖」を取り上げた下田商工会議所が立ち上げた観光PR「蓮じいプロジェクト」と連携し、当館にて蓮じいプロジェクト関連商品を販売するブースを設置するなど相互にPRの協力体制をとった。
- ・アニマルワールド展において、日本平動物園と連携し、①日本平動物園との共通チケットの販売②飼育員と学芸員のトークショー③『樹花鳥獸図屏風』のレプリカを日本平動物園に展示④ペンギンを「伊藤若冲」にちなんで「若冲」と命名など様々な企画・広報を実施した。同じくフレンドシップ協定施設である日本平ホテルとは図録・フロアレクチャー付宿泊プランを展開するほか、ロビーに『樹花鳥獸図屏風』のレプリカを展示した。
また、JR東海ツアーズの個人向け旅行商品50+（フィフティプラス）にはじめて参加し、83人の利用があった。
- ・美少女の美術史展において、ソフトドリンク無料サービスの「レディースデイ」や前売券購入特典プレゼント、展示作品から選出する「美少女コンテスト」、ポスターの販売など、新たな企画を試みた。
- ・風景解剖学展において、小学生向けのクイズ冊子「たんけん！ひみつの風景」を制作し、小学校の団体観覧や親子等に配布した。初もうで企画として、「おしるこ」の無料サービスや「おみくじ」を実施し、来館者に好評であった。
- ・石田徹也展において、作家の出身地である焼津市内の全小中高校生にチラシを配布し地元出身の偉大な作家の企画展をPRした。また、代表作「飛べなくなった人」の形をしたしおりを作成し、県内書店等に配布した。
- ・静岡県立美術館のフェイスブックを新たに開設し、展覧会情報等を投稿した。既存の広報に加え、静岡県立美術館を身近に感じてもらうような旬で楽しい情報を発信し、口コミ機能を利用した広報を新たに展開した。
- ・JRで企画した6美術館を巡回する「アート&トレイン」に参加。団体料金を適用した観覧券とポストカードのプレゼントなどを実施し、598人の利用者があった。
- ・草薙商店会と「つながるくさなぎ実行委員会」が共催する「つながるくさなぎフェス」に夏フェス、冬フェスと計2回ブースを出展し、実技教室を実施した。
- ・ロダン館20周年記念事業（ロダンウィーク）において、

草薙商店会を中心とした「草薙マルシェ実行委員会」が、館正面玄関前のモニュメント広場で雑貨&グルメを提供する「マルシェ」を開催。また、美術館友の会の協力を得て「にがお絵広場」も同時に行い、全体で約3,300人の集客ができた。

・静岡市スポーツ振興課が主催する「ベースボールクリスマス2014 IN静岡」（草薙球場）にて、ブースを出展し、来場者にフレンドシップ施設を一体の地域としてPRした。

【重点目標3】ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

ロダン館展示・イベント

県立美術館 ロダン館20周年記念事業

■ 趣旨

平成29年度にロダン没後100年を迎えるにあたり、ロダン作品32体を擁し、国内唯一の常設展示を行う当館では、近代彫刻史に加え、彫刻史以外の観点やロダンと他の美術家とのかかわりなど様々な視点を組み合わせ、彫刻家を再考し、偉大な彫刻家ロダンの姿をより豊かに浮き彫

りにするとともに、ロダン館を活性化するキックオフ事業として、地域や大学等と連携した20周年記念事業を開催した。

■ 20周年事業の概要

- (1) 日程 平成26年10月30日（木）～11月3日（月）
ロダンウィーク
- (2) 場所 静岡県立美術館内

■ 実績

	事業名	日時・会場	実績	備考
1	20周年記念式典	10月30日（木）13：00～13：30・ロダン館「地獄の門」前	招待客40人	主催者、来賓者等の挨拶。「考える人」の3Dミニチュア紹介
2	記念講演会	10月30日（木）14：00～15：30「国際的芸術家としてのロダン」講師：シュヴィヨ館長・講堂	166人	ロダンの代表的な時代の表現及び国際性について講演。
3	アフタートーク	10月30日（木）15：40～16：40「ロダンとその時代」・講堂	134人	知事、シュヴィヨ館長、馬渕明子国立西洋美術館長、芳賀徹静岡県立美術館長によるロダンの談議。
4	記念国際シンポジウム	10月31日（金）13：00～17：15「オーギュスト・ロダン1840-1917—複合的視点で捉える」・講堂	105人	シュヴィヨ館長、パネリスト5名により近代彫刻の巨人であるロダンを多角的に発信。
5	ギャラリーツアー	11月1日（土）11：00～11：30当館ボランティアによる作品案内	20人	対話形式による作品案内。
6	ロダン賞コンサート	11月1日（土）14：30～16：30・ロダン館「地獄の門」前	242人	AOI第18回「静岡の名手たち」ロダン賞受賞者による演奏。
7	ピアノコンサート	11月2日（日）13：30～15：00「ロダンに捧ぐ。新曲、7つのピアノ作品の午後」・ロダン館「地獄の門」前	約200人	静岡大学准教授、学生によるピアノ演奏。
8	ダンス公演	11月2日（日）15：30～16：20「その日、ダンサーの肉体はロダンによって彫刻される」・ロダン館「地獄の門」前	約200人	素我螺部（すかるべ：ダンス集団）による、ロダン作品をイメージしたダンス公演。
9	家族でロダン館ななふしげ	11月2日（日）、3日（月祝）10：30～11：30・ロダン館	9家族26人	ロダン作品のクイズを解きながら、ロダン館を家族で廻る。
10	丘の上の「ロダンマルシェ」	11月3日（月祝）10：30～16：00・正面玄関前広場	約3,300人	草薙駅を中心に17店舗出店。草薙マルシェ実行委員会によるイベント。グルメ＆雑貨市
11	ギャラリートーク	11月3日（日）13：30～15：00・ロダン館	20人	静岡大学学生によるロダン作品の解説。
12	にがおえ広場	11月1日（土）～3日（月祝）・正面玄関前広場	約200人（120件）	「友の会」が主催し、来館者の似顔絵を描く。
13	ロダン館お茶会	10月30日（木）、11月2日（日）・正面玄関前広場	578人	ボランティア「草薙ツアーグループ」による緑茶のサービス。
計			5,231人	



ロダンウィークチラシ（オモテ）▲



ロダンウィークチラシ（ウラ）▲

1. 20周年記念式典

10月30日（木）13：00～13：30／ロダン館

ロダン館20周年記念式典は、約40名の招待客と一般観覧客の観覧のもと、ロダン館内「地獄の門」前のスペースを活用して、フランス国立ロダン美術館カトリーヌ・シュヴィヨ館長と川勝平太静岡県知事の臨席を得て開会した。

三重奏のミニコンサートにより莊厳な雰囲気の中、招待客をお迎えし、カトリーヌ・シュヴィヨ館長からのご挨拶をいただいた後、「考える人」の3Dミニチュアの紹介等を行った。

2. 記念講演会

「国際的芸術家としてのロダン」

10月30日（木）14：00～15：30／当館講堂

講師：フランス国立ロダン美術館館長 カトリーヌ・シュヴィヨ氏

卓越した迫真性ゆえに物議を醸した初期の作品（「青銅時代」）から、生涯にわたり制作を継続した「地獄の門」

に至るまでのロダンの彫刻の展開を紹介し、1900年のパリ万博でのロダン自身による意欲的な自作の展示が、ロダンの国際的名声を決定づけたことなどを指摘する。

ロダンはつねに実験的、冒險的な新しい試みを実践しつづけた。それに惹かれてロダンのもとを訪れた若い彫刻家たちも数多く、その結果、「ロダニズム」は国境を越えて、世界の彫刻界を風靡することになった。

彫刻界におけるロダンの強い影響力は1930年代に一時的に後退するが、第二次世界大戦後、モダニズムの先駆者としてロダンを再評価する機運が高まる。具体的には、ジャコメッティやデ・クーニングなどにロダンの影響を認めることができる。

多くの芸術家に、世代を超えてインスピレーションを与える続けるロダンを、「肥沃な葡萄畠」と呼んだ詩人ジャン・アルプの比喩は適切なものといえるだろう。

聴講者数166名

3. アフタートーク

「ロダンとその時代」

10月30日（木）15：40～16：40／当館講堂

登壇者： カトリーヌ・シュヴィヨ氏

馬渕明子氏（国立西洋美術館館長）

川勝平太（静岡県知事）

芳賀徹（当館館長）

司会 泉万里（当館学芸部長）

シュヴィヨ氏の講演をうけ、ロダンとドガ、クリムトとの間に影響関係を認めることができるのか、という質問で口火が切られた議論は、日本におけるロダンの熱狂的な受容の様相へと話題が展開していった。そして、異文化との接触と受容のあり方について西洋と日本の違いなども論じられた。

聴講者166名



記念講演会チラシ▲

4. 国際シンポジウム

「オーギュスト・ロダン（1840-1917）－複合的視点でとらえる－」

10月31日（金）13：00～17：15／当館講堂

基調講演：カトリーヌ・シュヴィヨ氏（フランス国立ロダン美術館館長・フランス近代彫刻史）

「ロダンと20世紀におけるまなざしの変遷」（逐次通訳付）
「第1部 ロダンと画家」

パネリスト：安藤智子氏（法政大学、國學院大学、一橋大学他非常勤講師・フランス近代美術史）

「ルグロにとってのロダン－芸術的共感とイギリスでの普及活動」

三谷理華（当館学芸課長・フランス近代美術史）

「ロダンとラファエル・コラン－ロダン美術館所蔵の関連一次資料にみる交友の諸相」

「第2部 ロダンと異国」

パネリスト：田中修二氏（大分大学教育福祉科学部准教授・日本近代美術史）

「近代日本のロダン受容の多様さ」

金井直氏（信州大学人文学部准教授・イタリア近代美術史）

「ロダン効果－アントニオ・カノーヴァの場合－」
コメンテーター：島本英明氏（ボーラ美術館学芸員・フランス近代美術史）

静岡県立美術館ロダン館開館20周年を記念するこのシンポジウムでは、基調講演講師にフランス国立ロダン美術館館長カトリーヌ・シュヴィヨ氏を迎え、パネリスト、コメンテーターとともに、近代彫刻の巨人であるロダンをさまざまな角度から切り出すことを試みた。

参加者：105名



国際シンポジウムチラシ▲

5. ギャラリーツアー

11月1日（土）11：00～11：30／ロダン館

ボランティアグループ・ギャラリーツアー班が通年で行っている対話型鑑賞ツアーを、ロダンウィークに合わせ、特別バージョンとして開催した。常設しているロダン作品の前で、ナビゲーターを務めるボランティアが待機し、来場するお客様とともに、作品鑑賞の助けとなるような会話を楽しんだ。

参加者：20名

6. ロダン賞コンサート

11月1日（土）14：30～16：30／ロダン館

出演者：斎藤樹里氏（ハープ）、守谷由香氏（ソプラノ）

静岡音楽館AOIが毎年おこなう「静岡の名手たち」オーディション合格者の中から、静岡県立美術館・ロダン館で演奏するにふさわしい演奏家に「ロダン賞」が贈られている。ロダン館を会場に、本年は第18回「ロダン賞」受賞者による演奏会を開催した。

聴講者：242名

平成26年度

ロダン賞コンサート

静岡音楽館AOIと静岡県立美術館とのコラボレーションによる

第18回「静岡の名手たち」オーディション ロダン賞受賞者コンサート

平成26年11月1日(土)
14:30～16:30(予定)

会場 静岡県立美術館ロダン館

*料金及び、収録品、ロダン賞観覧料（一般300円/大学生以下と70歳以上無料）が必要です。

出演者：斎藤樹里（ハープ）、守谷由香（ソプラノ）

... 第18回「静岡の名手たち」オーディション合格者、ロダン賞受賞者

佐藤文雄（ピアノ）

演奏曲目(予定)――

レ・パン・スタン:歌姫(キャンディーハーフ)より(遊歩地、きらじやかに)	ホルニエ:交響的小品	リ・シューラ・ラ・ウ:歌の歌 no.10 より(歌姫)(万葉集)	ほか
--------------------------------------	------------	----------------------------------	----

演奏者プロフィール

斎藤 樹里（ハープ）Juri SATO（Harp）
1984年、高崎生まれ。8歳よりハープを始める。第1回茨城県音楽コンクールハープ部門グランプリ受賞者。2010年、茨城県音楽院卒業。2011年、茨城県音楽院ハープ専攻科修了。2014年、茨城県音楽院ハープ専攻科修了。セザンヌの公演にハープで登場。第11回芦北市民音楽祭コンクール優秀賞受賞者。カデミーにてセザンヌの公演にハープで登場。第11回芦北市民音楽祭コンクール優秀賞受賞者。また、静岡音楽館AOIにてセザンヌの公演にハープで登場。これまでに高崎市子、木下茉莉、松井タヌ、福田洋子の各氏に師事。またモレッティ、日本ルマン、ノーマイケルズ、M-アーティス、M-ハーモンララ、S・ラッセルの各氏のマスタークラスに参加。静岡音楽院在籍中に、吉澤、東京藝術大学准教授学年卒学。

守谷 由香（ソプラノ）Yuka MURAKAMI（Soprano）
1984年、高崎生まれ。2010年よりハープを始める。オオブラフツォ、W・マッテウツィ、アンド烈・カミネスキの各氏に師事。外務省公使官日本文化委員会セイント・ジョンズ交換事業「日本文化委員会」にて、2014年、茨城県音楽院ハープ専攻科修了。セザンヌの公演にハープで登場。これまでに高崎市子、木下茉莉、松井タヌ、福田洋子の各氏に師事。またモレッティ、日本ルマン、ノーマイケルズ、M-アーティス、M-ハーモンララ、S・ラッセルの各氏のマスタークラスに参加。静岡音楽院在籍中に、吉澤、東京藝術大学准教授学年卒学。

※公演の開始時間は、事前にご連絡される場合があります。
※会場中の音響・照明・電気設備の使用は控除いたします。また、音響機器のスイッチは切れないでくださいようお願いします。
※ご連絡いただいている場合は、会場にて直接お問い合わせください。

♪トロダニ賞とヒカル
静岡音楽館AOIが1995年に開館してから毎年おこなっている「静岡の名手たち」オーディションは、静岡の音楽家たちの登壇的な存在。その会場から、静岡県立美術館・ロダン館で開催するふわわしい演奏会に「ロダン賞」が贈られます。

お問い合わせ先 静岡県立美術館

TEL:054-263-5755

ロダン賞コンサートチラシ▲

7. ピアノコンサート

「ロダンに捧ぐ。新曲、7つのピアノ作品の午後。Rodin inspires Composers ~音になった彫刻~」

11月2日（日）13：00開場 13：30開演（上演時間1時間15分）／ロダン館

作曲家：長谷川慶岳氏（静岡大学准教授）、ほか静岡大学生

演奏者：後藤友香理氏（静岡大学助教）、ほか静岡大学生
主催：国立大学法人静岡大学、静岡県立美術館

助成：平成26年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

静岡大学と連携した催しの一つ。平成26年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業の助成を受けた、静岡大学アートマネジメント力育成事業の一環として行われた。

静岡大学教育学部の音楽教育専修で、作曲を指導する長谷川慶岳氏と、長谷川氏の下で作曲を学ぶ学生が、ロダンの彫刻からインスピレーションを得た曲を新たに創作し、ロダン館の作品を前に、ピアノ演奏により披露した。ピアノ演奏は、同じく、静岡大学教育学部の音楽教育専修でピアノ演奏を指導する後藤友香理氏と学生が行った。学生が作曲した初々しい楽曲がロダン館に響き渡り、会場はフレッシュな空気に包まれ、ロダンウィークに華を添えた。

聴講者：200名

Rodin inspires Composers ~音になった彫刻~

ロダンの彫像からインスピレーションを得て音楽を創る。

この刺激的で試みに静岡大学で作曲を学ぶ6名の学生と教員が挑戦しました。

ロダンの伝説的作品に音楽はどこまで溶けているか？

音楽と美術のコラボレーション是非マイでご体験ください！

作曲者	曲名	ピアノ者
田中庸雷	生命への祈り	小林実子
越岡卓郎	地獄の門への前奏曲	鈴木佑
林本泰司	Fugit Amor	児玉恭子
加藤真弓子	L'errance—彷徨いへ～	小島歌織子
角甲有希子	Bacchanale	森角敦
柴山ひづみ	Le dos de la belle femme	笹原美子
長谷川慶岳	バラの髪飾りの少女	後藤友香理

2014年
11/2日 **参観無料 申込不要**
13時開場 13時30分開演 (上演時間約1時間)(分)

静岡県立美術館 ロダン館

第ロダン像の収蔵品の鑑賞料(一般300円、大学生以下70円以上無料)

当日券後録券へお越しください。

午前10時開場より販売いたします。(午前9時受付開始)、午後5時受付終了。

主催 国立大学法人静岡大学 開催 大学アートマネジメント力育成事業 協賛 静岡県立美術館

ピアノコンサートチラシ▲

8. ダンス公演

「その日、ダンサーの肉体はロダンによって彫刻される。SCULPT OUR SOUL」

11月2日（日）15：00開場 15：30開演（上演時間1時間）／ロダン館

出 演：素我螺部（藤井b泉氏、篠原未起子氏、宮原由紀夫氏）、原大介氏

主 催：国立大学法人静岡大学、静岡県立美術館

助 成：平成26年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

静岡大学と連携した催しの一つ。平成26年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業の助成を受けた、静岡大学アートマネジメント力育成事業の一環として行われた。関西を拠点に活動する、藤井b泉、篠原未起子、宮原由紀夫によるグループ素我螺部（スカラベ）によるダンス公演。静岡出身のギタリスト原大介による、情熱的な生演奏が鳴り響く中、ロダン《地獄の門》をバックに、ロダン彫刻と呼応する身体表現が繰り広げられた。

聴講者：200名



その日、
ダンサーの肉体は
ロダンによって
彫刻される。

SCULPT OUR SOUL

彼を彫刻に彫り立てたものは
私たちを舞臺に何かわせるものは
一休何なのか。

空間にされた後のエリマーで寝むしのもの
踊り出されては消えてゆく第一幕の出来れば
美となるものか。

ロダンをセッションをするつもりで聞きたいと思います。
楽しい後を過ごしていらして下さい。

基義根

基義根

2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

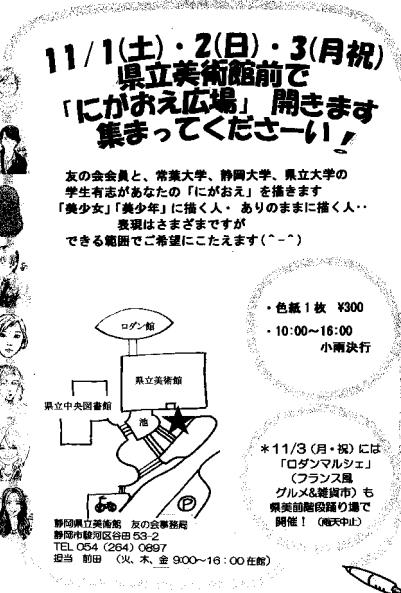
基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15時30分開演(上演時間約1時間)
静岡県立美術館 ロダン館

基義根 2014年11月2日(日)15時開場 15



丘の上の「ロダンマルシェ」チラシ▲



にがおえ広場チラシ▲

11. 静岡大学学生によるギャラリートーク

11月3日（月・祝）13:30～15:00／ロダン館

解説：若山文哉「カレーの市民」

平野晴香「カレーの市民」

樫田那美紀「永遠の休息の精」

宝田幸弘「花子」

静岡大学「比較言語文化各論Ⅰ」の授業として、大学生がロダンについての見識を深め、その成果として、ギャラリートークを行った。

参加者：20名



静岡大学学生によるギャラリートーク▲

12. にがおえ広場

11月1日（土）～3日（月・祝）／正面玄関前

静岡県立美術館友の会会員と、常葉大学、静岡大学、県立大学の学生有志が「にがおえ」を描いた。

参加者：約200名

13. ボランティアによる20周年記念お茶会

10月30日（木）12:00～13:45／正面玄関前

11月2日（日）12:00～14:00／正面玄関前

ボランティア・草薙ツアーグループによるロダン館20周年記念茶会を、上記のとおり2度実施した。初回は記念式典にあわせて開催し、列席者及び一般来館者を対象とした。2回目はロダンウィーク中の日曜に開催、大勢の来館者にお茶をふるまい好評を得た。

いずれの回も美術館プロムナードにある杉山彦三郎記念茶畠の茶葉を利用した。

参加者：1日目175名、2日目403名



お茶会チラシ▲

【運営基本方針D】常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

【重点目標1】館内施設を充実させ、満足度を高めます

施設利用状況（年度別）

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数
61	93,918	8,005	10,000		
62	95,635	9,911	10,000		
63	112,528	10,346	14,714		
元	98,806	12,474	11,937		
2	101,477	11,432	8,274		
3	91,342	13,755	8,545		
4	109,287	14,442	9,499		
5	95,903	10,927	9,308		
6	108,004	12,060	9,159		
7	73,254	10,717	7,015		
8	109,076	9,487	8,621		
9	87,436	10,615	6,486	4,257	
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299
17	69,357	11,762	4,700	4,904	289
18	81,657	10,700	5,090	8,891	499
19	70,217	8,199	5,580	5,253	365
20	75,238	11,804	5,070	6,189	319
21	37,253	5,155	3,716	3,677	183
22	58,211	7,275	3,902	4,504	344
23	53,147	10,535	2,444	3,033	238
24	43,157	9,475	1,916	1,689	182
25	48,483	8,763	2,146	1,908	188
26	41,201	8,646	823	1,539	186
合計	2,256,962	314,538	185,936	135,223	4,596

26 年 度 月 別 内 訳	4	2,060	1,067	183	56	15
	5	3,041	840	266	90	14
	6	2,043	448	126	60	20
	7	3,318	720	104	112	16
	8	5,956	705	144	225	17
	9	4,907	980	0	141	26
	10	3,176	641	0	109	14
	11	7,592	665	0	246	23
	12	1,800	566	0	112	3
	1	1,505	15	0	43	5
	2	4,177	1,182	0	159	18
	3	1,626	817	0	186	15

県民ギャラリー利用状況

No.	使用開始	使用終了	日数	区分	入場料	展覧会等の名称	主催者名	入場者数(人)
1	4/1(火)	4/6(日)	6	A B	無	14 現代書作家展しづおか	毎日新聞静岡支局	872
2	4/8(火)	4/13(日)	6	B	無	刺繍展	矢野亮子	660
3	4/15(火)	4/20(日)	6	B	無	第26回 パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	528
4	5/6(火)	5/11(日)	5	AB	無	第41回 二科会静岡支部展絵画部	二科会静岡県支部	994
5	5/14(水)	5/25(日)	11	AB	無	第51回 静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,047
6	6/10(火)	6/15(日)	6	AB	無	第41回 二科会静岡支部展写真部	二科会静岡県支部	504
7	6/18(水)	6/22(日)	5	AB	無	第11回 アトリエ・ニケ子ども造形・デザイン・絵画教室 展覧会	大森恵	843
8	6/24(火)	6/29(日)	6	AB	無	第32回一基書展	一基会	696
9	7/2(木)	7/13(日)	11	AB	無	第79回 静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,369
10	7/17(木)	7/27(日)	11	AB	無	第42回 静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,705
11	7/30(水)	8/10(日)	12	AB	無	日本現代工芸美術展	(一社)現代工芸美術家協会 神静会	1,511
12	8/12(火)	8/17(日)	6	B	無	シェタイナー学校・芸術展	ルドルフ・シェタイナーシューレ富士 International	605
13	8/19(火)	8/24(日)	6	AB	無	静岡県写真愛好者芸術展	会長 沖田完治	1,295
14	8/26(火)	8/31(日)	6	AB	無	第64回静岡県水彩画協会展	会長 森下 正夫	2,789
15	9/2(火)	9/7(日)	6	AB	無	三軌会静岡支部展覧会	三軌会静岡支部	1,684
16	9/9(火)	9/15(月・祝)	7	A	無	仏師金丸悦朗展	金丸 邦子	1,260
17	9/17(水)	9/21(日)	5	AB	無	第40回 静岡県フレミッシュ織展	朝原 智子	1,027
18	9/23(火)	9/28(日)	6	A	無	第2回 杉浦カメラ店ユーザー写真展	杉浦 立芳	869
19	9/3(火)	10/5(日)	6	B	無	第27回パソコンアート協会展示会	パソコンアート協会	450
20	10/7(火)	10/12(月・祝)	7	AB	無	第37回静岡県日本画連盟展	大橋 武司	686
21	10/15(水)	10/19(日)	5	AB	無	第30回記念展「千世の会書展」	千世の会	855
22	10/21(火)	10/26(日)	6	AB	無	第45回静岡独立書展	静岡県独立書人団	587
23	10/28(火)	11/3(月・祝)	7	AB	無	第32回夏休み読書感想画コンクール	静岡新聞社	3,037
24	11/5(水)	11/9(日)	5	AB	無	地域外交課モンゴルノゴビ県交流3周年富士山絵画展(1週間)	静岡・モンゴル親善協会	587
25	11/12(水)	11/16(日)	6	AB	無	高文連美術工芸展(中部展)	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	1,686
26	11/18(火)	11/23(日)	6	AB	無	高文連美術工芸展(県展)	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	1,533
27	11/26(水)	11/30(日)	5	AB	無	白日会静岡県支部展	白日会	1,414
28	12/5(金)	12/9(火)	4	AB	無	第18回すこやか長寿祭美術展(洋画部門)	(財)しづおか健康長寿財団	1,243
29	12/11(木)	12/14(日)	4	AB	無	第18回すこやか長寿祭美術展(日本画・書・彫刻・工芸・写真部門)	(財)しづおか健康長寿財団	557
30	12/11(木)	12/21(日)	5	AB	無	ふじのくに芸術祭2014 学生アートフェスティバル	静岡県	1,942
31	1/2(火)	2/1(日)	8	AB	無	静岡県工芸美術展	静岡県工芸美術家協会	2,039
32	2/3(火)	2/8(日)	6	AB	無	第36回 ジュニア県展	静岡新聞社	900
33	2/10(火)	2/15(日)	6	AB	無	第27回特別支援学校高等部合同作品展	静岡県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	885
34	2/17(火)	3/1(日)	13	AB	無	第5回秀景ふるさと富士写真展	静岡県	458
35	3/24(火)	3/29(日)	6	AB	無	2015現代書作家展しづおか	毎日新聞静岡支局	1,084
合 計								41,201

アクセス環境の向上

利用交通機関について、平成26年度のアンケート集計結果によると、「自家用車」が61.5%と最も高く、次いで「JR」18.6%、「路線バス」10.8%の順になっている。

アクセス環境の満足度については、自家用車利用者の中で満足と回答した方の比率は84.2%、公共交通機関利用者の中で満足と回答した方の比率は74.6%であった。過去5年間の状況を見ると、概ね2～3割の方が交通アクセスに満足していない、という結果になっている。

自家用車利用者のアクセスについては、敷地内に無料の駐車場があるものの、収容台数が約400台と限られているために、週末などに来館者が集中してしまうと、近くの駐車場から順次満車になり、駐車できるまでに時間がかかるという問題がある。このことがアクセスに満足できない要因になっていると思われる。来館者の多い企画展の土、日、休日には隣接する県立大学や県埋蔵文化財センターの職員駐車場を借用し、美術館来館者用に充てるなど、自家用車利用者の利便性の向上に努めたい。

公共交通機関の利用者については、JRの最寄り駅である草薙駅、または静鉄の最寄り駅である県立美術館前駅から、なだらかな上り坂を上ることになるので、歩いて来館するのはかなりの運動量になり、アクセスに満足してもらえない主要な要因であると思われる。お客様からアクセスについて電話等で照会があった際には、路線バスを利用してもらえば最寄り駅から所要時間3分～6分、運賃100円で美術館の入口近くまで乗って來ることができることを案内しているが、平成25年度から日曜、祝日が20分間隔から30分間隔で運転するようになったため、今後はバス会社との調整が必要である。

また、美術館案内表示等周辺環境整備についても、美術館中長期計画に基づき計画的に整備していく予定である。

平成26年度主要記事

4月1日	収蔵品展「新収蔵品展」(～5月25日)	新曲、7つのピアノ作品の午後。」
4日	企画展「佐伯祐三とパリ」開幕(～5月25日)	ロダン館ダンス公演「その日、ダンサーの
26日	佐伯祐三特別講演会「佐伯祐三と1920年代のパリ」 熊田司氏(和歌山県立近代美術館館長)	肉体はロダンによって彫刻される。」
27日	佐伯祐三フロアレクチャー(4月27日、5月11日)	家族でロダン館ななしげ(11月2日、3日)
5月5日	まつりロビーコンサート「佐伯祐三が愛したパリの音楽」 カオリアコーディオン氏(アコーディオン奏者)	ロダンマルシェ
10日	佐伯祐三美術講座「1920年代、パリの諸相－エコール・ド・パリ、アール・デコ、宝塚少女歌劇」 三谷理華(当館学芸員)	ロダン館ギャラリートーク
26日	第1回美術館協議会	菊川市移動美術展(～11月24日)
6月10日	企画展「下岡蓮杖」開幕(～7月21日)	収蔵品展「風景解剖学－空」(～1月4日)
	収蔵品展「静岡ゆかりの日本洋画」(～7月21日)	企画展「風景解剖学」開幕(～1月4日)
11日	第三者評価委員会	風景解剖学フロアレクチャー(12月6日、13日、1月2日、3日)
28日	下岡蓮杖特別講演会「浅草の変人奇人、下岡蓮杖のこと」 木下直之氏(東京大学教授)	風景解剖学特別講演会「風景と美術と解剖学」布施英利氏(東京藝術大学美術学部准教授)
29日	美術講座「下岡蓮杖の写真と技術」 三井圭司氏(東京都写真美術館学芸員)	親子で楽しむ風景画の魅力
7月3日	研究活動評価委員会	ロダン館照明のLED化工事(～1月23日)
5日	下岡蓮杖フロアレクチャー(7月5日、12日)	風景解剖学企画「美術館に初もうで」(1月2日～4日)
6日	下岡蓮杖展「渡辺鳳代賀(箏・三絃)ミニ・コンサート 邦楽で楽しむ明治から昭和の日本」	企画展「石田徹也」開幕(～3月25日)
23日	収蔵品展「水辺のアート」(～9月7日)	収蔵品展「富士山の絵画」(～3月1日)
29日	企画展「アニマルワールド」開幕(～9月7日)	石田徹也展美術講座「石田徹也のノート類について」 堀切正人氏(常葉美術館館長)
8月3日	アニマルワールドフロアレクチャー(8月3日、9日、17日)	第2回美術館協議会
5日	夏休み子どもワークシップ「ドット若冲」(8月5日～8日)	石田徹也展トークイベント「石田徹也の発想の源をさぐる」 平林勇氏(映像作家)
24日	特別トークショー「どうぶつ絵画の不都合な真実」 柿島安博氏(日本平動物園飼育担当課長)、福士雄也(当館学芸員)	石田徹也展美術講座「石田徹也の時代」川谷承子(当館学芸員)
9月9日	収蔵品展「西洋の絵画」(～11月16日)	収蔵品展「人を描く」(～3月31日)
20日	企画展「美少女の美術史」(～11月16日)	石田徹也展親子ギャラリーツアー
	美少女の美術史「トリメガ研究所」トークショー 川西由里氏(島根県立石見美術館)、工藤健志氏(青森県立美術館)、村上敬(当館)	創作週間(通算44日)
10月4日	沼津市移動美術展(～10月26日)	実技講座(通算11日)
12日	美少女の美術史フロアレクチャー(10月12日、26日)	ロダン館デッサン会(通算22日)
30日	ロダンウィーク(10月30日～11月3日)	ちょっと体験(通算24日)
	ロダン館20周年記念式典	わくわくアトリエ(通算8日)
	記念講演会「国際的芸術家としてのロダン」カトリーヌ・シュヴィヨ氏(フランス国立ロダン美術館館長)	粘土開放日(通算12日、36回)
31日	記念国際シンポジウム「オーギュスト・ロダン(1840-1917)-複合的視点でとらえる」	絵の具開放日(通算7日、14回)
11月1日	ロダン賞コンサート	美術館教室(通算49日)
	ロダン館ギャラリーツアー	
	友の会主催「似顔絵広場」(11月1日～3日)	
2日	ロダン館ピアノコンサート「ロダンに捧ぐ。」	

大阪新美術館コレクション 佐伯祐三とパリ ポスターのある街角

・所蔵先表記が無いものは、すべて大阪新美術館建設準備室所蔵。

4月4日（金）—5月25日（日）

No.	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	材質・技法	所蔵
1章						
1	佐伯祐三	戸山ヶ原風景	1920年(大正9)	50.5×60.5	油彩、カンヴァス	
2	佐伯祐三	大谷セイ像	1920年(大正9)頃	21.0×16.0	インク、紙	
3	佐伯祐三	帆船	1920年(大正9)頃	23.4×33.0	油彩、板	
4	佐伯祐三	目白自宅附近	1922年(大正11)頃	37.0×52.0	油彩、カンヴァス	
5	佐伯祐三	河内打上附近	1923年(大正12)	24.5×33.7	油彩、板	
6	佐伯祐三	河内燈油村附近	1923年(大正12)	24.4×33.6	油彩、板	
7	佐伯祐三	彌智子像	1923年(大正12)	45.0×45.2	油彩、カンヴァス	
8	佐伯祐三	パリ遠望	1924年(大正13)	55.3×72.7	油彩、カンヴァス	
9	佐伯祐三	立てる自画像	1924年(大正13)	80.5×54.8	油彩、カンヴァス	
10	佐伯祐三	風景	1924年(大正13)頃	50.5×60.5	油彩、カンヴァス	
11	佐伯祐三	裸婦	1924年(大正13)	60.8×73.0	油彩、カンヴァス	
12	佐伯祐三	村の教会堂	1925年(大正14)	45.5×61.0	油彩、カンヴァス	
13	佐伯祐三	パリ15区街	1925年(大正14)	54.0×65.2	油彩、カンヴァス	
14	佐伯祐三	パリ歩道スケッチ	1925年(大正14)	33.6×24.3	油彩、カンヴァス	
15	佐伯祐三	壁	1925年(大正14)	73.1×60.8	油彩、カンヴァス	
16	佐伯祐三	パリの街角(家具付きホテル)	1925年(大正14)頃	65.1×81.1	油彩、カンヴァス	
17	佐伯祐三	洗濯屋(オ・プティ・ソミュール)	1925年(大正14)	73.0×60.4	油彩、カンヴァス	
18	佐伯祐三	酒場(オ・カーヴ・ブルー)	1925年(大正14)	72.2×60.1	油彩、カンヴァス	
19	佐伯祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925年(大正14)	71.7×59.4	油彩、カンヴァス	
20	佐伯祐三	夜のノートルダム(マント=ラージョリ)	1925年(大正14)	80.5×54.5	油彩、カンヴァス	
21	佐伯祐三	運送屋(カミオン)	1925年(大正14)	60.2×72.1	油彩、カンヴァス	
22	佐伯祐三	ヴォージラールの家	1925年(大正14)	65.0×80.5	油彩、カンヴァス	
23	佐伯祐三	子供の顔	1924年(大正13)頃	41.0×31.6	油彩、カンヴァス	
24	佐伯祐三	人形	1925年(大正14)頃	41.2×32.2	油彩、カンヴァス	
25	佐伯祐三	テレピン油のある静物	1925年(大正14)頃	54.0×65.0	油彩、カンヴァス	
26	佐伯祐三	絵具箱	1925-26年(大正14-大正15・昭和元)頃	45.8×53.8	油彩、カンヴァス	
27	佐伯祐三	動くポーズ	1925年(大正14)	33.2×22.3	鉛筆、紙	
28	佐伯祐三	サン・フランチェスコ聖堂	1926年(大正15)	24.5×32.0	水彩、紙	
29	佐伯祐三	下落合風景	1926年(大正15・昭和元)頃	60.4×72.8	油彩、カンヴァス	
30	佐伯祐三	下落合風景	1926年(大正15・昭和元)頃	60.9×73.0	油彩、カンヴァス	学校法人甲南学園甲南小学校 (大阪新美術館建設準備室寄託)
31	佐伯祐三	汽船	1926年(大正15・昭和元)頃	38.0×45.5	油彩、カンヴァス	

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	所蔵
32	佐伯祐三	蟹	1926年（大正15・昭和元）頃	31.8×41.0	油彩、カンヴァス	個人蔵（大阪新美術館建設準備室寄託）

2章

59	里見勝藏	平原の村（エルヴィル）	1924年（大正13）頃	33.6×46.3	油彩、カンヴァス	
60	里見勝藏	雪景	1924-25年（大正13-14）頃	33.4×44.5	油彩、カンヴァス	
61	モーリス・ド・ヴラマ ンク	雪の風景	1911年	54.0×65.0	油彩、カンヴァス	
62	モーリス・ド・ヴラマ ンク	雪の村	1930年頃	65.5×81.0	油彩、カンヴァス	
63	モーリス・ユトリロ	グロレ-の教会	1909年頃	53.6×73.4	油彩、ボード	
64	モーリス・ユトリロ	ドルドーニュのモンセック 城	1931年	49.5×65.5	グワッシュ、紙	
65	荻須高徳	礼拝堂	1928年（昭和3）頃	23.0×33.0	油彩、板	
66	荻須高徳	エドガール・キネ街	1928-30年（昭和3-5） 頃	60.0×73.0	油彩、カンヴァス	
67	荻須高徳	ムフタール街	1932年（昭和7）	60.5×73.5	油彩、カンヴァス	
68	大橋了介	モランの教会	1928年（昭和3）	60.2×73.2	油彩、カンヴァス	
69	大橋了介	市場	1928年（昭和3）	60.3×73.2	油彩、カンヴァス	
70	大橋了介	白い家	1929年（昭和4）	60.0×73.0	油彩、カンヴァス	
71	大橋了介	巴里の道	1930年（昭和5）	60.0×73.0	油彩、カンヴァス	
72	大橋了介	広告のある古い家	1929-33年（昭和4-8） 頃	60.0×73.2	油彩、カルトン	
73	大橋了介	カデ・ドゥ・ガスコーニュ	1929-33年（昭和4-8） 頃	60.3×73.2	油彩、カンヴァス	
74	大橋了介	サン・セヴェラン教会	1929-33年（昭和4-8） 頃	60.3×73.2	油彩、カンヴァス	
75	横手貞美	ローズリー別荘 ヴェトウ イユ	1929年（昭和4）	60.0×73.0	油彩、カンヴァス	
76	佐野繁次郎	女	1932年（昭和7）	116.7×90.9	油彩、カンヴァス	

3章

【前期展示】4月4日（金）～4月20日（日）
【後期展示】4月22日（火）～5月25日（日）

77	アンドレ・ロート（タ イボグラフィ：イリヤモンパルナスの仮装舞踏会 ・ズダネヴィッチ）	【前期】 1922年	137.2×98.2	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
78	マリー・ローランサンパリの夜会	【前期】 1924年	78.8×58.4	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
79	シュザンヌ・ヴァラド芸術家友好援助会（AAAA） ン 舞踏会	【後期】 1927年	121.1×78.4	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
80	ジャン・デュバ アーノルド・コンスタブル (百貨店)	【前期】 1928年	120.4×78.6	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
81	里見宗次 コート・ダジュール	【前期】 1935年頃	98.8×61.9	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
82	里見宗次 KLMオランダ航空	【後期】 1933年	99.2×61.8	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
83	藤田嗣治 サロン・デュ・フラン	【前期】 1926年	160.1×120.1	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
84	藤田嗣治 芸術家友好援助会（AAAA） 舞踏会	【後期】 1926年	120.3×78.3	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
85	シャルル・ルーポ 1925年パリ現代装飾・産業 美術万国博覧会	【前期】 1925年	59.8×40.7	リトグラフ	サントリーポスター コレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）

No.	作家名	作品名	展示時期	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	所蔵
86	ロベール・ボンフィス	1925年パリ現代装飾・産業美術万国博覧会	【後期】	1925年	61.0×39.0	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
87	シャルル・ルーポ	トワイニング（紅茶）	【後期】	1930年	160.2×120.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
88	ジャン・カルリュ	1937年パリ万国博覧会	【前期】	1937年	160.3×118.4	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
89	ロジェ・ブロデール	マルセイユ	【前期】	1929年	100.4×63.0	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
90	ロジェ・ブロデール	ヴィシー	【後期】	1928年	100.0×62.4	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
91	キース・ヴァン・ドン ゲン	サロン・ドートンヌ	【後期】	1929年	159.9×119.6	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
92	シャルル・ジェスマール	ミスタンゲット	【前期】	1926年	120.0×78.0	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
93	A. M. カッサンドル	北方急行	【前期】	1927年	105.3×74.7	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
94	A. M. カッサンドル	北極星号	【後期】	1927年	105.9×74.7	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
95	モーリス・デュフレー ヌ	オペレッタ「絹物売場」	【後期】	1930年	119.0×77.4	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
96	ポール・コラン	モン・サヴォン（石鹼）	【前期】	1928年	158.9×118.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
97	ポール・コラン	サン・ラファエル（キナ酒）	【後期】	1920年代	157.0×114.9	グアッシュ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
98	ポール・コラン	演劇「マヤ」	【後期】	1928年	157.0×117.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
99	マックス・ポンティ	ラジオラ	【前期】	1929年	156.2×115.9	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
100	レオネット・カッピエッロ	ラジオラ SFER-20	【後期】	1925年	78.8×59.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
101	シャルル・キフェール	モーリス・シュヴァリエ	【前期】	1925年	134.3×107.1	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
102	ジャン・コクトー	バレエ・リュス	【前期】	1911年	93.2×59.9	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
103	ジャン・コクトー	バレエ・リュス	【後期】	1911年	93.1×60.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
104	ジョルジュ・バルビエ	クロチルド・サカラフとアレクサンドル・サカラフ	【前期】	1921年	120.2×78.6	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）
105	ジョルジュ・バルビエ	エリヨネル	【後期】	1917年	128.7×93.2	リトグラフ	サントリー・ポスターコレクション（大阪新美術館建設準備室寄託）

4章

33	佐伯祐三	オプセルヴァトワール附近	1927年（昭和2）	54.3×65.3	油彩、カンヴァス	
34	佐伯祐三	カフェ・タバ	1927年（昭和2）	54.5×65.1	油彩、カンヴァス	個人蔵（大阪新美術館建設準備室寄託）
35	佐伯祐三	街角の広告	1927年（昭和2）	80.3×65.2	油彩、カンヴァス	
36	佐伯祐三	広告（アン・ジュノ）	1927年（昭和2）	65.2×81.1	油彩、カンヴァス	

No.	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	材質・技法	所蔵
37	佐伯祐三	レストラン（オテル・デュ・マルシェ）	1927年（昭和2）	54.5×65.4	油彩、カンヴァス	
38	佐伯祐三	場末の街	1927年（昭和2）	60.3×73.0	油彩、カンヴァス	
39	佐伯祐三	寺院	1927年（昭和2）	60.3×73.0	油彩、カンヴァス	
40	佐伯祐三	靴屋	1927年（昭和2）	60.6×73.2	油彩、カンヴァス	
41	佐伯祐三	共同便所	1928年（昭和3）	72.4×59.8	油彩、カンヴァス	
42	佐伯祐三	工場	1928年（昭和3）	60.0×91.0	油彩、カンヴァス	
43	佐伯祐三	モランの寺	1928年（昭和3）	59.8×72.0	油彩、カンヴァス	
44	佐伯祐三	モランの寺	1928年（昭和3）	60.3×73.0	油彩、カンヴァス	
45	佐伯祐三	モランの寺	1928年（昭和3）	37.2×44.5	油彩、カンヴァス	
46	佐伯祐三	モランの寺	1928年（昭和3）	50.2×61.3	油彩、カンヴァス	
47	佐伯祐三	街はずれの寺	1928年（昭和3）	60.3×72.1	油彩、カンヴァス	
48	佐伯祐三	納屋	1928年（昭和3）	60.2×73.2	油彩、カンヴァス	
49	佐伯祐三	村の風景	1928年（昭和3）	50.4×61.3	油彩、カンヴァス	
50	佐伯祐三	村と丘	1928年（昭和3）	60.8×73.0	油彩、カンヴァス	
51	佐伯祐三	村と丘	1928年（昭和3）	58.1×71.7	油彩、カンヴァス	
52	佐伯祐三	モラン風景	1928年（昭和3）	59.6×91.8	油彩、カンヴァス	
53	佐伯祐三	カフェ・レストラン	1928年（昭和3）	59.9×73.0	油彩、カンヴァス	
54	佐伯祐三	煉瓦焼	1928年（昭和3）	60.2×73.1	油彩、カンヴァス	
55	佐伯祐三	郵便配達夫（半身）	1928年（昭和3）	65.0×54.5	油彩、カンヴァス	
56	佐伯祐三	郵便配達夫	1928年（昭和3）	80.8×65.0	油彩、カンヴァス	
57	佐伯祐三	ロシアの少女	1928年（昭和3）	65.3×53.5	油彩、カンヴァス	
58	佐伯祐三	黄色いレストラン	1928年（昭和3）	73.0×60.8	油彩、カンヴァス	

【資料】

No.	資料名	制作年	寸法 (cm)
資料1	写真 佐伯祐哲葬儀	1920年09月	10.7×14.9
資料2	写真 佐伯祐哲葬儀	1920年09月	10.3×15.1
資料3	佐伯祐三ライフマスク	1921年頃	26.0×15.0×10.0
資料4	写真 日本郵船香取丸にて	1923年	本体10.8×15.5 台紙11.3×16.0
資料5	更紗（佐伯祐三遺品）		64.0×53.0
資料6	絵葉書 兄・佐伯祐正宛	1923年12月1日付	8.7×13.7
資料7	絵葉書 兄・佐伯祐正宛	1924年2月16日付	9.0×13.9
資料8	絵葉書 兄・佐伯祐正宛	1925年賀状	8.8×13.7
資料9	ポスター 一九三〇年協会第一回洋画展覧会	1926年	74.0×52.5
資料10	中河与一著『恐ろしき私』	函・表紙装丁：佐伯祐三 1927年6月	函19.7×13.7×2.8 本19.0×13.7×2.6

No.	資料名	制作年	寸法(cm)
資料11	手紙 妻・佐伯米子宛	1927年7月21日付	18.0×139.5
資料12	銀座画廊ニュース No.2 佐伯祐三回顧展号	1935年10月	30.5×22.7
資料13	ポスター 銀座三共ギャラリー主催 佐伯祐三回顧展	1935年	76.5×52.5
資料14	ポスター 山本發次郎氏所蔵 佐伯祐三遺作展覧会	1937年	74.5×34.5
資料15	山本發次郎氏所蔵 佐伯祐三遺作展覧会目録	1937年	18.5×12.5
資料16	山本發次郎氏蔵 佐伯祐三画集	1937年	40.0×30.0×3.8

没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖

6月10日（火）～7月21日（月・祝）

*会期中、展示替えあり。半期のみ展示する作品は、その会期に○を付した。

印のない作品は全会期出品。

前期： 6月10日（火）～6月29日（月）

後期： 7月1日（火）～7月21日（月・祝）

凡例

1. 歴史的仮名遣いは、適宜現代語に改めた。
2. 作品名または資料名のうち、（ ）があるものは、題名不詳のため適宜名称を与えた。
3. 制作年不詳の作品は、できる限りこの期間を推定し、末尾に「頃」を加えた。
4. 制作年（和暦）は、旧暦を漢数字、新暦をアラビア数字で表記した。明治改元年は新元号で記載した。
5. 書籍や逐次刊行物のサイズは割愛した。
6. 出品番号のない作品は、当館の寄託品その他。

No.	展示期間 前 後	図書 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
1		39	臼井秀三郎	下岡蓮杖像	明治初年	アンブロタイプ	80×70	板部家蔵
2	○	39	臼井秀三郎	美津像	慶応年間～明治初年頃	鶴卵紙	92×58	板部家蔵
3		128	下岡蓮杖	父桜田与惣右衛門の像	明治三十五年	陶製	190×220×1 95	横浜開港資料館
4		40-41	下岡蓮杖	弘化三年閏五月米国軍艦 二隻浦賀来航	制作年不詳	紙本着彩	374×797	横浜市中央図書館
			狩野勝川院雅信	伊豆浦黒船来港図（参考 出品）	嘉永七年	紙本墨画淡彩	327×567	個人蔵（当館寄託）
5		7	狩野董川中信	加藤清正像	弘化三年	紙本着彩	598×367	東京藝術大学大 学美術館
			狩野董川中信	雨竹風竹図（参考出品）	制作年不詳	絹本墨画	各986×381	個人蔵
6		42	下岡蓮杖	阿蘭陀風俗図	文久三年頃	絹本着彩	335×329	東京藝術大学大 学美術館
7			制作者不詳	夫婦像	天保十一年～安政 六年頃	ダゲレオタイプ	96×75	東京都写真美術館
8		14	下岡蓮杖	木村政信像	文久二年	アンブロタイプ	81×69	東京都写真美術館
9		43	下岡蓮杖	赤井重遠像	文久三年	アンブロタイプ	82×71	日本カメラ博物館/ 森田コレクション
10		43	下岡蓮杖	吉田庸徳像	慶応四年	アンブロタイプ	85×65	行田市郷土博物館
11			制作者不詳	吉田庸徳像	慶応四年	アンブロタイプ	80×66	行田市郷土博物館
12		44	下岡蓮杖	長谷部友次郎像	明治二年	アンブロタイプ	62×50	長谷部安蔵
13		45	下岡蓮杖	渡辺健之助元英像	明治初年	アンブロタイプ	89×66	沼津市明治史料館
14		16	下岡蓮杖	下岡蓮杖の納品袋	明治初年	-	150×120	沼津市明治史料館
15	○	50	下岡蓮杖	（正装した僧侶と二人の 侍僧）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙	56×91	トム・バー・ネッ ト蔵
16	○	78	下岡蓮杖	（刺青の男）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	92×56	トム・バー・ネッ ト蔵
17	○	78	下岡蓮杖	（相撲取り 相生松五郎）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	86×58	トム・バー・ネッ ト蔵
18	○	78	下岡蓮杖	（三河万歳）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	89×57	トム・バー・ネッ ト蔵
19	○	78	下岡蓮杖	（侍と従者）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	92×58	トム・バー・ネッ ト蔵
20	○	79	下岡蓮杖	（正装した僧侶）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	92×58	トム・バー・ネッ ト蔵
21	○	79	下岡蓮杖	（妊婦）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	90×58	トム・バー・ネッ ト蔵
22	○	79	下岡蓮杖	（唄の稽古）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	78×56	トム・バー・ネッ ト蔵
23	○	79	下岡蓮杖	（二人の役者と娘）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	92×58	トム・バー・ネッ ト蔵
24	○	80	下岡蓮杖	（侍の集合写真）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	59×90	トム・バー・ネッ ト蔵
25	○	80	下岡蓮杖	（家族と従者）	文久三年～慶応三年 頃	鶴卵紙に手彩色	57×91	トム・バー・ネッ ト蔵

No.	展示期間	図書 前 後 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
26	○	80	下岡蓮杖	(役人)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	90×59	トム・バー・ネット ト蔵
27	○	80	下岡蓮杖	(演出された集合写真)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	92×56	トム・バー・ネット ト蔵
28	○	81	下岡蓮杖	(女性と太鼓で遊ぶ子供)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	58×83	トム・バー・ネット ト蔵
29	○	81	下岡蓮杖	(薬屋と子供)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	58×85	トム・バー・ネット ト蔵
30	○	81	下岡蓮杖	(商家の家族)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	58×83	トム・バー・ネット ト蔵
31	○	81	下岡蓮杖	(甲冑を着た武士と従者)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	59×91	トム・バー・ネット ト蔵
32	○	82	下岡蓮杖	(脱穀)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	57×90	トム・バー・ネット ト蔵
33	○	82	下岡蓮杖	(キセルを燻らす二人)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	58×92	トム・バー・ネット ト蔵
34	○	82	下岡蓮杖	(窪田泉太郎【鎮章】と側近)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	58×89	トム・バー・ネット ト蔵
35	○	83	下岡蓮杖	(鎌倉大仏)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	91×58	トム・バー・ネット ト蔵
36	○	83	下岡蓮杖	(客ともめる駕籠かき)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	91×58	トム・バー・ネット ト蔵
37	○	83	下岡蓮杖	(鋸を引く大工)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	92×58	トム・バー・ネット ト蔵
38	○	83	下岡蓮杖	(傘を差す二人)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙に手彩色	92×57	トム・バー・ネット ト蔵
39	○	48	下岡蓮杖	(傘を差す少女)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
40	○	48	下岡蓮杖	(人力車)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
41	○	49	下岡蓮杖	(庭先で桶を担ぐ少年)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
42	○		下岡蓮杖	(孤児たち)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
43	○	50	下岡蓮杖	(読経する二人の僧侶)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
44	○		下岡蓮杖	(三人の武士)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
45	○	51	下岡蓮杖	(闇で囲碁を打つ男女)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
46	○		下岡蓮杖	(井戸端での米磨ぎ)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
47	○	48	下岡蓮杖	(旅の親子)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
48	○	49	下岡蓮杖	(馬子と客)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
49	○	49	下岡蓮杖	(蓑傘姿で鍔を担いだ農夫)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
50	○		下岡蓮杖	(村人たち)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
51	○	49	下岡蓮杖	(臼で脱穀)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
52	○	50	下岡蓮杖	(二人の按摩)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
53	○		下岡蓮杖	(正装した僧侶と二人の侍僧)	文久三年—慶応三年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
54	○		下岡蓮杖	(礼服姿の武士)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
55	○	51	下岡蓮杖	(行水)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
56	○	53	下岡蓮杖	(武士の子と母)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
57	○	53	下岡蓮杖	(夏姿の女性と子供)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
58	○	54	下岡蓮杖	(孫と祖母)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
59	○	54	下岡蓮杖	(孫を抱く佐藤泰然)	文久三年—明治9年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館

No.	展示期間 前 後	図書 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦） 年頃	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
60	○	55	下岡蓮杖	(手を繋ぐ二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
61	○	55	下岡蓮杖	(立ち姿の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
62	○	56	下岡蓮杖	傘を持つ女	明治初期	鶴卵紙	85×55	横浜美術館
63	○	56	下岡蓮杖	(傘を手にした女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
65	○		下岡蓮杖	(旅支度の二人の僧侶)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
66	○		下岡蓮杖	(旅人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
67	○	58	下岡蓮杖	(琴と三昧線)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
68	○	58	下岡蓮杖	(宴)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
69	○	59	下岡蓮杖	(琴と唄の稽古)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
70	○		下岡蓮杖	(三昧線の稽古)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
71	○	59	下岡蓮杖	(三昧線と唄の稽古)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
72	○	60	下岡蓮杖	(帳場)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
73	○	60	下岡蓮杖	(甘酒売り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
74	○	62	下岡蓮杖	(声色使い)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
75	○	62	下岡蓮杖	(飛脚)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
76	○	63	下岡蓮杖	(子守の少女)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
77	○	63	下岡蓮杖	(文を書く女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
78	○	64	下岡蓮杖	(甲冑姿の侍大将)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
79	○	64	下岡蓮杖	(頭巾を被った村上次久 の像)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
80	○	65	下岡蓮杖	(腰掛ける二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
81	○	65	下岡蓮杖	(人形を抱く女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
82	○		下岡蓮杖	(舞踊)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
83	○		下岡蓮杖	(横向きの女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
84	○		下岡蓮杖	(手紙を書く女)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
85	○		下岡蓮杖	(生け花)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
86	○	66	下岡蓮杖	(唄の稽古)	文久三年－慶応三 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
87	○	66	下岡蓮杖	(二人の僧侶)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
88	○	67	下岡蓮杖	三人の少年	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×56	横浜美術館
89	○	67	下岡蓮杖	(獅子舞の一団)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
90	○	68	下岡蓮杖	(関取と太刀持ち)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
91	○	97	下岡蓮杖	(徳川家康の肖像画)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
92	○	52	下岡蓮杖	(梅の枝を活ける女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
93	○	54	下岡蓮杖	(テーブル脇の二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
94	○	54	下岡蓮杖	(台所支度の二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館

No.	展示期間 前 後	図書 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦） 年頃	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
95	○	55	下岡蓮杖	(椅子の脇に立つ女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
96	○	55	下岡蓮杖	(職人の扮装をした女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
97	○	56	下岡蓮杖	(足駄履きで傘を持つ女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
98	○	56	下岡蓮杖	(傘を差して花を持つ女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
99	○	58	下岡蓮杖	(琴と三昧線)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
100	○	58	下岡蓮杖	(反物の品定め)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
101	○	59	下岡蓮杖	(琴を前にした武士の奥方)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
102	○		下岡蓮杖	(囲碁に興じる二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
103	○	59	下岡蓮杖	(三昧線と唄の稽古)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
104	○	60	下岡蓮杖	(三人の女性像)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
105	○		下岡蓮杖	(大旦那と二人の女中さん)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
106	○	60	下岡蓮杖	(生糸の値引きをする商人たち)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
107	○	61	下岡蓮杖	(傘張り職人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
108	○		下岡蓮杖	(ねじり鉢巻きで六尺棒をもつ人足)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
109	○		下岡蓮杖	(旅文度の男)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
110	○	62	下岡蓮杖	(大福帳で算盤の練習をする丁稚)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
111	○	63	下岡蓮杖	琴を弾く女	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	88×56	横浜美術館
112	○		下岡蓮杖	(二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
113	○		下岡蓮杖	(文を書く女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
114	○		下岡蓮杖	(武士と奥方)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
115	○		下岡蓮杖	(老夫婦)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
116	○		下岡蓮杖	(華道)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
117	○		下岡蓮杖	(お茶)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
118	○	64	下岡蓮杖	(陣笠を被った武士)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
119	○	64	下岡蓮杖	(鉄兜の武将)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
120	○		下岡蓮杖	(侍像)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
121	○	65	下岡蓮杖	(二人の女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
122	○	65	下岡蓮杖	(三昧線を立てる女性)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
123	○	66	下岡蓮杖	(蕎麦を食べる五人の女性たちと外国人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
124	○	66	下岡蓮杖	(侍の家族)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
125	○	67	下岡蓮杖	(四人の武士)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
126	○	67	下岡蓮杖	(家族)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
127	○	68	下岡蓮杖	(相撲〈相生、兜山、式守錦大夫〉)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
128	○	97	下岡蓮杖	(徳川家康の肖像画)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館

No.	展示期間	図書 前 後	作家名 掲載頁	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
129	○	71	下岡蓮杖	(浦賀港)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
130	○	71	下岡蓮杖	(漁師がいる海辺)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
131	○		下岡蓮杖	(木立に覆われた小さな 橋がある風景)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
132	○		下岡蓮杖	(山中のせせらぎ)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
133	○	72	下岡蓮杖	(鶴岡八幡大塔)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
134	○	72	下岡蓮杖	(鎌倉の旅籠)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
135	○	73	下岡蓮杖	(鎌倉大仏)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
136	○	73	下岡蓮杖	(須走からの富士)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
137	○	74	下岡蓮杖	(横浜山手より外国人居 留地を望む)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
138	○	75	下岡蓮杖	(イギリスの海軍物置所)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
139	○	76	下岡蓮杖	(下田、門脇風景)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
140	○		下岡蓮杖	(街道往来)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
141	○		下岡蓮杖	(浅草寺五重塔)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
142	○	71	下岡蓮杖	(浦賀の民家)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
143	○	71	下岡蓮杖	水辺の家	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×87	横浜美術館
144	○		下岡蓮杖	(山中の溪流に架けられた橋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
145	○	72	下岡蓮杖	(藤沢片瀬竜口寺山門)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
146	○	72	下岡蓮杖	(鎌倉鶴岡八幡宮の鳥居)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
147	○	73	下岡蓮杖	(鎌倉大仏)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
148	○	73	下岡蓮杖	(富士山遠望)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
149	○	74	下岡蓮杖	(横浜近郊の風景)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
150	○	75	下岡蓮杖	(野毛の陸軍兵舎)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
151	○	76	下岡蓮杖	(下田、中村橋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	55×85	東京都写真美術館
152	○		下岡蓮杖	(屋敷の門)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
153	○		下岡蓮杖	(祭の山車)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙	85×55	東京都写真美術館
154	○	84	下岡蓮杖	(車井戸の二人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
155	○	84	下岡蓮杖	(菓子屋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
156	○	85	下岡蓮杖	(紙漉き)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
157	○	85	下岡蓮杖	(算盤売り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
158	○	86	下岡蓮杖	(羅宇屋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
159	○	84	下岡蓮杖	(岡引と罪人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
160	○	84	下岡蓮杖	(果物売り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
161	○	85	下岡蓮杖	(子供の花売り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
162	○	86	下岡蓮杖	(糸つむぎ)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館

No.	展示期間	図書 前 後 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
163	○	87	下岡蓮杖	(笊味噌漬壳り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
164	○	88	下岡蓮杖	(筍壳り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
165	○	88	下岡蓮杖	(傘張り)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
166	○	89	下岡蓮杖	(四人の旅支度の僧侶)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
167	○	89	下岡蓮杖	(二人の女性と子供)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
168	○	90	下岡蓮杖	(腰掛ける娘)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
169	○	91	下岡蓮杖	(易者)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
170	○	91	下岡蓮杖	(酒を酌み交わす三人の職人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
171	○	91	下岡蓮杖	(腰掛ける二人の僧侶)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
172	○	92	下岡蓮杖	(義太夫)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
173	○	94	下岡蓮杖	(豆腐屋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
174	○	94	下岡蓮杖	(火鉢を囲む家族)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
175	○	94	下岡蓮杖	(手習い)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
176	○	95	下岡蓮杖	(団欒)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
177	○		下岡蓮杖	(母と娘)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
178	○	96	下岡蓮杖	(袴を着けた武士)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
179	○	96	下岡蓮杖	(母と子)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
180	○	88	下岡蓮杖	(モッコを肩にした人足)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
181	○	88	下岡蓮杖	(魚屋)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
182	○	89	下岡蓮杖	(豆腐屋と客)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
183	○	89	下岡蓮杖	(二人の人足)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
184	○	90	下岡蓮杖	(商家の主と内儀と女中さん)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
185	○	91	下岡蓮杖	(帳場)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
186	○	92	下岡蓮杖	(帳場)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
187	○	93	下岡蓮杖	(腰掛ける武士)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
188	○	94	下岡蓮杖	(猿回し)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
189	○	95	下岡蓮杖	(手習い)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
190	○	95	下岡蓮杖	(手習い)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
191	○	95	下岡蓮杖	(読経)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
192	○		下岡蓮杖	(役者)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
193	○		下岡蓮杖	(桶の修理)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	55×85	東京都写真美術館
194	○	96	下岡蓮杖	(傘を差す職人)	文久三年－明治9 年頃	鶴卵紙に手彩色	85×55	東京都写真美術館
195	○	69	下岡蓮杖	人形遊びをする子どもたち G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初 年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
196	○	69	下岡蓮杖	囲碁を楽しむ母と子 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初 年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵

No.	展示期間	図書 前 後 掲載頁	作家名	作品名	制作年(和暦)	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
197	○	77	下岡蓮杖	店と看板 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
198	○		下岡蓮杖	手習い G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
199	○		下岡蓮杖	武家の駕籠 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
200	○		下岡蓮杖	井戸で水を汲む G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
201	○		下岡蓮杖	脱穀器 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
202	○		下岡蓮杖	神奈川の風景 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
203	○	69	下岡蓮杖	煙管と火箱と少女 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
204	○	77	下岡蓮杖	寺と石灯の前の風景 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
205	○		下岡蓮杖	日本の職人 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
206	○		下岡蓮杖	日本の漁夫 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
207	○		下岡蓮杖	井戸端の女性たち G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
208	○		下岡蓮杖	手動脱穀器 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
209	○		下岡蓮杖	祈念碑と靈園 G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
210	○		下岡蓮杖	下関(実際は下田) G.A.B.「日本」ステレオ写真	慶応二年－明治初年頃	鶴卵紙	71×150	個人蔵
211	○	57	下岡蓮杖	中島三郎助像 「旧幕臣 高橋家アルバム」より	幕末－明治初期頃	鶴卵紙	85×55	沼津市明治史料館
212	○		下岡蓮杖	半弓及び矢	明治二年	鶴卵紙	87×55	IZU PHOTO MUSEUM
213	○		下岡蓮杖	福田行誠上人	明治三年	鶴卵紙	82×55	IZU PHOTO MUSEUM
214	○		下岡蓮杖	茶屋の娘たち 『ザ・ファー・イースト』より	明治初年	明治九年十一月発行	82×82	東京都写真美術館
215	○	61	下岡蓮杖	道中姿の男	文久三年－明治9年頃	鶴卵紙	87×55	横浜開港資料館
216	○	70	下岡蓮杖	(養蚕・製糸) No.3蚕の養成のため、葉を細かく裁断し、籠にかけている様子。	文久三年－明治9年頃	鶴卵紙	51×71	横浜開港資料館
217	○	70	下岡蓮杖	(養蚕・製糸) No.5糸を紡ぐために、蚕を糸の上に置いている様子。	文久三年－明治9年頃	鶴卵紙	53×76	横浜開港資料館
218	○		下岡蓮杖	畑の女性たち 『ザ・ファー・イースト』より	明治初年	明治九年十一月発行	83×83	東京都写真美術館
219	46-47		下岡蓮杖	「下岡蓮杖・臼井秀三郎 アルバム」	明治初期頃	鶴卵紙	272×385×46	日本カメラ博物館
220	20		下岡蓮杖	下岡蓮杖 写真器材	-	-	345×218×243	下田開国博物館
221		【参考出品】		スチロ写真ビューワー	万延元年	-	195×105×158	東京都写真美術館
222	○		下岡蓮杖	徳川家康像	元治元年－明治初年	石版	243×204	個人蔵
223	○	97	下岡蓮杖	徳川家康像	元治元年－明治初年	石版	243×204	横浜開港資料館/前田正隆氏寄贈
224	102		高橋由一	下岡蓮杖斎肖像 「高橋由一・写生帖」より	明治9年頃	紙本着彩	268×190	東京藝術大学大学美術館
225	100-101		下岡蓮杖	伝下岡蓮杖 写真用室内所割	明治29年	油彩・カンバス	2380×2250	横浜美術館
226	○	103	下岡蓮杖	(キリスト昇天の図)	明治22年頃	絹本着彩	1106×358	横浜美術館
227	106-107		下岡蓮杖	山水図	明治35年	紙本墨筆	360×610	小川進コレクション
228	112-113		下岡蓮杖	四季花鳥図	明治37年	紙本墨筆	各228×248	小川進コレクション
229	114		下岡蓮杖	二階滝図	明治37年	紙本墨筆	515×308	小川進コレクション
230	121		下岡蓮杖	群馬図	明治44年	紙本墨筆	325×615	小川進コレクション

No.	展示期間 前 後	図書 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
231	108	下岡蓮杖		山水図	明治35年	紙本墨筆	1020×297	小川進コレクション
232	111	下岡蓮杖		寿老人	明治40年	紙本着彩	1100×468	日本大学藝術学部写真学科
233		下岡蓮杖		山水図	大正3年	紙本墨筆	550×320	油画茶屋
234	121	下岡蓮杖		馬図	大正元年	紙本墨筆	335×608	下田開国博物館
235	123	下岡蓮杖		達磨像	大正元年	紙本着彩	343×605	平野屋
236	104	下岡蓮杖		ゲッセマネに祈るキリスト	明治32年	絹本着彩	930×333	蓮杖写真記念館
237	105	下岡蓮杖		鐘馗図	明治33年	紙本墨筆	1025×418	小川進コレクション
238	105	下岡蓮杖		雪中古木図	明治33年	紙本墨筆	1025×418	小川進コレクション
239	108	下岡蓮杖		雄鶴図	明治35年	紙本着彩	1032×315	小川進コレクション
240	109	下岡蓮杖		雪中柳鷹図	明治36年	紙本墨筆	1065×362	小川進コレクション
241	109	下岡蓮杖		芙蓉峰	明治36年	紙本墨筆	1025×410	蓮杖写真記念館
242	111	下岡蓮杖		鶴図	明治42年	紙本着彩	672×208	下田開国博物館
243	110	下岡蓮杖		伝出山积迦図	明治36年	紙本墨筆	1068×423	小川進コレクション
244	110	下岡蓮杖		恵比寿と布袋	明治43年	絹本着彩	577×416	蓮杖写真記念館
245	114	下岡蓮杖		富士の図	明治42年	紙本着彩	395×532	IZU PHOTO MUSEUM
246	115	下岡蓮杖		雛図	明治41年	紙本着彩	270×325	小川進コレクション
247	116	下岡蓮杖		老松に鶯図	大正3年	紙本墨筆	1035×280	下田市教育委員会
248	116	下岡蓮杖		潮汲図	明治42年	紙本墨筆	1120×199	下田開国博物館
249	117	下岡蓮杖		獅子図	明治37年	紙本墨筆	990×410	下田市教育委員会
250	117	下岡蓮杖		虎図	明治37年	紙本墨筆	980×410	下田市教育委員会
251	118	下岡蓮杖		文殊菩薩像	明治42年	紙本墨筆	1055×390	小川進コレクション
252	118	下岡蓮杖		観世音菩薩	明治38年	紙本着彩	1305×532	下田市
253	119	下岡蓮杖		寿老人図	明治43年	紙本墨筆	1290×520	小川進コレクション
254	119	下岡蓮杖		山水図	明治44年	紙本墨筆	1040×341	小川進コレクション
255	122	下岡蓮杖		達磨図	明治44年	紙本墨筆	955×304	小川進コレクション
256	122	下岡蓮杖		達磨図	大正元年	絹本着彩	1230×517	小川進コレクション
257	126	下岡蓮杖		山水図	大正3年	紙本墨筆	1070×300	小川進コレクション
258	126	下岡蓮杖		周茂叔愛蓮図	大正3年	紙本墨筆	1010×282	小川進コレクション
259	29	下岡蓮杖		翁面写香合	明治32年	陶製	85×58×40	蓮杖写真記念館
260		下岡蓮杖		翁面写香合	明治32年	陶製	85×58×40	横浜開港資料館
261	123	下岡蓮杖		(達磨の火もらい)	制作年不詳	陶製	85×75×70	小川進コレクション
262	120	下岡蓮杖		奔馬の扇面	明治43年	紙本墨筆	225×400	横浜開港資料館
264	124- 125	下岡蓮杖		琴棋書画図屏風	大正元年	紙本着彩 四曲半 双	1220×2440	神奈川県立近代美術館
265	127	制作者不詳		下岡蓮杖像	明治後期	ゼラチンシルバープリント	557×445	東京都写真美術館

No.	展示期間 前 後	図書 掲載頁	作家名	作品名	制作年（和暦）	技法	サイズ (タテ×ヨコmm)	所蔵先
266	127	制作者不詳	下岡蓮杖像		明治44年頃	ゼラチンシルバープリント	252×183	東京都写真美術館
267	127	宮内幸太郎	第二回全国写真師大会記念撮影 最前列中央に蓮杖が座っている。		明治44年	オフセット印刷	205×278	東京都写真美術館
268		【参考出品】	センチュリーカメラ No.9	明治33年一大正15 年頃	カ メ ラ		460×150× 200	東京都写真美術館
269	128	馬堀喜孝	下岡蓮杖像	昭和28年	油彩・カンバス		1590×1100	下田市立図書館
270			『写真新報』第四十六号 ～四十八号	明治26年3月 - 5月	写真新報社		—	日本大学藝術学 部図書館
271			『歴史写真』第十一号	大正3年2月	歴史写真会		—	個人蔵
272			『写真百年祭記念帳』(石黒敬七旧蔵『アサ ヒグラフ臨時増刊 写真百年祭記念号』)	大正14年11月	朝日新聞社		—	油画茶屋
273			『アサヒグラフ臨時増刊 写真百年祭記念号』	大正14年11月	朝日新聞社		—	個人蔵
274	9		『アサヒグラフ臨時増刊 写真百年祭記念号』	大正14年11月	朝日新聞社		—	東京都写真美術館
275		桑田正三郎	『月乃鏡』	大正5年	桑田商会		—	東京都写真美術館
276		内田魯庵	『バクダン』	大正11年	株式会社春秋社		—	個人蔵
277		内田魯庵	『思い出す人々』	大正14年	株式会社春秋社		—	個人蔵
278		森斧水（編）	『黒船談叢』	大正14年	下田文化協会		—	英みどり蔵
279		黒船社（編）	『黒船画譜』	昭和10年	黒船社		—	小川進コレクショ ン
280		石黒敬七	『写真文化図譜』	昭和18年	十一組出版部		—	東京都写真美術館

アニマルワールド—美術のなかのどうぶつたち

7月29日（火）～9月7日（日）

[前期：7月29日～8月17日、後期：8月19日～9月7日]

No.	作者名	作品名	材質	形状	制作年	所蔵	展示期間
第1章 いきもの大集合—たのしいどうぶつ絵画の世界							
1	狩野探幽ほか狩野派 合作	牛馬図	絹本着色	2幅対	江戸時代 17世紀	個人蔵	
2	円山応挙	百兎図	絹本着色	1幅	天明4年 1784	個人蔵	
3	石田幽汀	群鶴図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代 18世紀	静岡県立美術館	
4	狩野栄信	百猿図	絹本着色	1幅	江戸時代 19世紀	静岡県立美術館	
5	長澤蘆雪	牡丹孔雀図	絹本着色	1幅	江戸時代 18世紀	静岡県立美術館	
6	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代 18世紀	静岡県立美術館	
7	長山孔寅	群鶴図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	江戸時代 18～19世紀	個人蔵	
8	若演	梅花群鶴図	絹本着色	1幅	江戸時代 18～19世紀	個人蔵	
9	源琦	四季花鳥図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代 18世紀	個人蔵	
10	呉春	水禽孔雀図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代 18～19世紀	個人蔵	
11	谷文晁	雪中枯木鶴図	絹本着色	1幅	江戸時代 18～19世紀	個人蔵	
12	岡本秋暉	群鳥図	絹本着色	1幅	江戸時代 19世紀	個人蔵	
13	岡本秋暉	孔雀図屏風	紙本着色	6曲1隻	江戸時代 19世紀	個人蔵	
14	建部綾足	海錯図	紙本着色	1幅	江戸時代 18世紀	静岡県立美術館	
15	鈴木其一	群禽図	絹本着色	2幅対	江戸時代 19世紀	個人蔵	
第2章 身近ないきものたち—くらしとのかかわり							
16		平治物語絵巻断簡（六波羅合戦巻）	紙本着色	1幅	鎌倉時代 13世紀	個人蔵	
17		平治物語絵巻断簡（六波羅合戦巻）	紙本着色	1幅	鎌倉時代 13世紀	個人蔵	後期
18	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度之懸 図屏風	紙本金地着色	6曲1隻	江戸時代 17世紀	静岡県立美術館	
19	久隅守景	騎馬武者図	紙本墨画淡彩	1幅	江戸時代 17世紀	個人蔵	
20	英一蝶	明星茶屋之図	紙本着色	1幅	江戸時代 17世紀	個人蔵	
21	司馬江漢	騎馬獵図	絹本着色	1幅	寛政3年 1791	個人蔵	
22	狩野栄信	牧童牛図	絹本墨画淡彩	2幅対	江戸時代 19世紀	個人蔵	
23	狩野永良	耕作図屏風	紙本着色	6曲1隻	江戸時代 18世紀	個人蔵	
24	渡辺省亭	十二ヶ月花鳥図	絹本着色	12幅	明治～大正 時代 19～20世紀	個人蔵	
25	田能村竹田	月下雁図	紙本墨画淡彩	1幅	天保2年 1831	個人蔵	
26	奥村土牛	八瀬の牛	絹本着色	1面	昭和14年 1939	個人蔵	
第3章 いきものを愛しむ—いのちへのまなざし							
27	雪村	小禽図	紙本墨画	1幅	室町時代 16世紀	個人蔵	
28	伊藤若冲	雛に双鶴図	紙本墨画	1幅	寛政6年 1794	個人蔵	
29	円山応挙	竹雀図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	天明5年 1785	静岡県立美術館	前期

No.	作者名	作品名	材質	形状	制作年	所蔵	展示期間
30	狩野養信	竹雀図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代	19世紀	静岡県立美術館 後期
31	円山応挙	海岸雁図	絹本着色淡彩	1幅	安永2年	1773	個人蔵
32	長澤蘆雪	藤花群虫図	絹本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
33	長澤蘆雪	人物花鳥図巻	紙本着色	1巻	江戸時代	18世紀	個人蔵
34	曾我蕭白	猿猴図	絹本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
35	狩野永良	親子犬図	絹本着色	1幅	江戸時代	18世紀	静岡県立美術館
36	森狙仙	親子猿図屏風	紙本着色	2曲1隻	江戸時代	19世紀	個人蔵
37	窪田雪鷹	駱駝図	紙本着色	1幅	文政6年	1823	個人蔵
38	酒井抱一	蚊画贊	絹本着色淡彩	1幅	江戸時代	19世紀	個人蔵
39	島田元旦	菖蒲水禽図	絹本着色	1幅	文政13年	1830	個人蔵
40	平福百穂	遊鯉	絹本着色淡彩	1幅	大正15年	1926	個人蔵
41	竹内栖鳳	疎柳寒雀	絹本着色淡彩	1幅	大正～昭和時代	20世紀	個人蔵

第4章 どうしてこのいきもの？—描かれるには意味がある

42	海北友松	人物花鳥図押絵貼屏風	紙本着色	6曲1双	桃山時代	17世紀	個人蔵
43	狩野周信	芙蓉狗子図	絹本着色	1幅	江戸時代	17～18世紀	個人蔵
44	伊藤若冲	狗子図	紙本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
45	白隠	猿猴捉月図	紙本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
46		涅槃図	絹本着色	1幅	南北朝時代	14世紀	個人蔵
47	伊藤若冲	白象群獸図	紙本着色	1面	江戸時代	18世紀	個人蔵
48	狩野山楽	源氏物語図屏風	紙本金地着色	6曲1双	江戸時代	17世紀	個人蔵
49	山口素絢	美人戯猫図	絹本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
50	土佐光起	山路図	絹本着色	1幅	江戸時代	17世紀	個人蔵
51	円山応挙	木賊兎図	絹本着色	1幅	天明6年	1786	静岡県立美術館
52	狩野常信	和漢流書手鑑	絹本着色ほか	2冊	江戸時代	18世紀	個人蔵
53	狩野惟信	徽宗筆水仙鶴図模本	紙本着色	1幅	享和3年	1803	個人蔵
54	藝愛	秋草鶴図	紙本着色	1幅	室町時代	16世紀	個人蔵
55	狩野探幽	探幽縮図（虎図）	紙本着色淡彩	1幅	寛文6年	1666	個人蔵
56	渡辺崋山	猛虎図	紙本着色淡彩	1幅	文化10年	1813	個人蔵
57	大岡春卜	墨花争奇図巻	紙本着色	2巻	宝暦7年	1757	個人蔵
58	伊藤若冲	河豚図	紙本着色	1幅	寛政5年贊	1793	個人蔵
59	伊藤若冲	蝦蟇河豚相撲図	紙本着色	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
60	葛蛇玉	蛇玉図	紙本着色	1幅	明和3年贊	1766	個人蔵

第5章 ハッピー・アニマルー吉祥画の世界

61	葛叔英（松田）	柘榴栗鼠図	紙本着色	1幅	元時代	14世紀	個人蔵
----	---------	-------	------	----	-----	------	-----

No.	作者名	作品名	材質	形状	制作年	所蔵	展示期間
62		唐子図	絹本着色	2幅対	明時代	16世紀	個人蔵
63		鶴頭小禽図	絹本着色	1幅	明時代	16世紀	個人蔵
64	長澤蘆雪	瀧に鶴亀図屏風	紙本着色	6曲1双	江戸時代	18世紀	個人蔵
65	長澤蘆雪	一笑図	紙本墨画淡彩	1幅	江戸時代	18世紀	個人蔵
66	椿椿山	海鶴蟠桃図	紙本墨画淡彩	1幅	嘉永6年	1853	静岡県立美術館
67	岸駒	孔雀図屏風	紙本墨画淡彩	6曲1双	江戸時代	18~19世紀	個人蔵
68	大久保一丘	高砂・花鳥図	絹本着色	3幅対	江戸時代	19世紀	個人蔵
69	狩野芳崖	寿老人図	紙本墨画淡彩	1幅	明治時代	19世紀	静岡県立美術館
70	下岡蓮杖	大黒天図	絹本着色	1幅	明治28年	1895	個人蔵
71	徳川慶喜	登竜門図	絹本着色	1幅	江戸~明治時代	19世紀	個人蔵

美少女の美術史～憧れと幻想に彩られた私たちの偶像～

9月26日（土）～11月16日（日）

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法（cm）	所蔵
□エントランス展示／楽園						
a	タカノ綾	精靈船に乗って	2014（平成26）年	塩化ビニル樹脂、ナイロン、ポリウレタン、ポリエチレン、軟質ウレタン	600.0×600.0 ×220.0	
b	タカノ綾	サフラン、セサミ、アーモンド、クローバー、マヌカ、バグス、光	2014（平成26）年	キャンヴァス、油彩	116.8×117.0	個人蔵
c	ob	こんどうまれてくるときは	2014（平成26）年	パネル・キャンヴァス、アクリル		
□第一部：「それは時と場合によります」——歴史社会学ふうに						
■プロローグ／「少女の一生」と女学生文化						
I-001	鎌木清方	少女出世双六	1908（明治41）年	『少女世界』第3巻第1号付録	78.4×52.8	兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）
I-002	榎原（池田）蕉園	少女遊戯すごろく	1910（明治43）年	『少女世界』第6巻第1号付録	77.8×54.5	兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）
I-003	本田庄田郎、吉岡千種、村田米四	少女通学すごろく	1919（大正8）年	『少女世界』第15巻第1号付録	53.6×78.8	兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）
I-004	須藤しげる	少女幸福双六	1930（昭和5）年	『少女俱楽部』第8巻第1号付録	54.8×79.6	兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）
I-005		柳橋扇面流遊女図屏風	17世紀（江戸時代初期）	紙本金地着色、六曲一隻屏風	108.6×343.0	島根県立石見美術館
I-006		遊楽美人図	17世紀（江戸時代初期）	紙本着色、双幅	各93.0×48.0	島根県立石見美術館
I-007	喜多川歌麿	糸屋小いとが相	1789～1801年（寛政期）	紙、木版	38.1×25.4	島根県立美術館
I-008	渓斎英泉	當世好物八契 芝居	1823（文政6）年頃	紙、木版	37.4×25.3	千葉市美術館
I-009	渓斎英泉	美人會中鏡 時世六佳撰（娘）	1826（文政9）年頃	紙、木版	37.4×25.3	千葉市美術館
I-010	松斎吟光	大日本束髪図解	1885（明治18）年頃	紙、木版、三枚続	36.0×72.5	青木コレクション（千葉市美術館寄託）
I-011	五代歌川国政	婦人束髪鬘附	1885（明治18）年	紙、木版	36.0×25.5	青木コレクション（千葉市美術館寄託）
I-012	山本昇雲	今すがた おどろき	1906（明治39）年	紙、木版	37.3×25.4	千葉市美術館
I-013	山本昇雲	今すがた ゆり園	1906（明治39）年	紙、木版	37.7×25.5	千葉市美術館
I-014	山本昇雲	今すがた すずしの顔	1907（明治40）年	紙、木版	36.8×25.5	千葉市美術館
I-015	山本昇雲	今すがた 花やしき	1909（明治42）年	紙、木版	37.2×25.5	千葉市美術館
I-016	岡村政子（推定）	愛犬と少女	1898（明治31）年	紙、石版（『時事新報』1月1日号付録）	39.6×27.8	郡山市立美術館
I-017	竹久夢二	『婦人グラフ』表紙（5点）	1920年代（大正末）	雑誌	各16.0×20.0	島根県立石見美術館
I-018	高畠華宵	光	1920～30年代（大正末～昭和初期）	紙、水彩・墨	24.8×18.0	弥生美術館
I-019	高畠華宵	清きたより	1920～30年代（大正末～昭和初期）	紙、水彩・墨	30.5×24.1	弥生美術館
I-020	高畠華宵	楽しいハイキング	1920～30年代（大正末～昭和初期）	便箋表紙絵	13.0×19.0	弥生美術館
I-021	高畠華宵	緑衣の少女	1920～30年代（大正末～昭和初期）	便箋表紙絵	13.0×19.0	弥生美術館
I-022	高畠華宵	胡蝶	1920～30年代（大正末～昭和初期）	便箋表紙絵	21.8×14.5	弥生美術館
I-023	高畠華宵	爽涼	1920～30年代（大正末～昭和初期）	便箋表紙絵	20.7×14.8	弥生美術館
I-024	高畠華宵、加藤まさを、深谷美保子	少女の友特製封筒	1920～30年代（大正末～昭和初期）	『少女の友』付録		兵庫県立歴史博物館所蔵（入江コレクション）

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
I-025	伊藤彦造	彦造画箋傑作集 第11集第26編 薔薇の行方	不詳	便箋表紙絵		兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-026	久保田清春	令女便箋 第10集 雨あがり	不詳	便箋表紙絵		兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-027	蕗谷虹児	風の音信	1926(大正15)年	紙、インク・墨	18.9×12.8	弥生美術館
I-028	蕗谷虹児	「月の中の顔」挿絵	不詳	紙、インク・墨		弥生美術館
I-029	蕗谷虹児	縫いとり	1926(大正15)年	『少女俱楽部』大正15年 5月号口絵	18.9×12.8	弥生美術館
I-030	松本かつぢ	小さいお姉さま	1920~30年代(大正末~昭和初期)	印刷物	19.5×24.2	弥生美術館
I-031	松本かつぢ	ひとり唄う	1920~30年代(大正末~昭和初期)	印刷物		弥生美術館
I-032	松本かつぢ	アベ・マリア	1930(昭和5)年	『少女画報』昭和5年7月 号口絵	17.4×11.7	弥生美術館
I-033	松本かつぢ	少女ユーモア小説 次女日記	1949(昭和24)年	書籍(由利聖子著、東和 社発行)	13.4×12.9	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-034	中原淳一	暁の聖歌	1937(昭和12)年	『少女の友』第30巻第4号 付録(吉屋信子著)	19.0×13.2	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-035	中原淳一	宝塚をとめ	1940(昭和15)年	宝塚少女歌劇生徒写真集 (宝塚少女歌劇団発行)	33.7×25.1	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-036	中原淳一	乙女の港	1947(昭和22)年	書籍(川端康成著、ヒマ ワリ社発行)	25.3×18.4	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-037	中原淳一	サフランの歌	1949(昭和24)年	書籍(松田瓊子著、ヒマ ワリ社発行)	12.2×13.0	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-038	中原淳一	七つの薔	1949(昭和24)年	書籍(松田瓊子著、ヒマ ワリ社発行)	12.4×13.0	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-039	中原淳一	思い出の虹	1949(昭和24)年	『ひまわり』6月号付録 (C.&M.Lamb著、橋爪常 子訳)	18.0×12.6	兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
I-040	高橋真琴	『デラックススマーガレット』 1973年夏の号表紙	1973(昭和48)年	紙、水彩	25.8×18.2	作家蔵
I-041	高橋真琴	フランス共和暦の少女 霧月	1995(平成7)年	紙、水彩	26.0×23.0	作家蔵
I-042	高橋真琴	クリスタル・ファンタジー	2002(平成14)年	紙、水彩	26.0×25.0	作家蔵

■大衆消費社会の「かわいい」文化

I-043	内藤ルネ	『ジュニアそれいゆ』第32号 表紙絵	1960(昭和35)年	紙、水彩	33.5×48.0	株式会社ルネ
I-044	内藤ルネ	少女とライオン	1973(昭和48)年	キャンバス、油彩	41.0×32.0	株式会社ルネ
I-045	内藤ルネ	かもめと少女	1975(昭和50)年	キャンバス、油彩	27.0×22.0	株式会社ルネ
I-046	内藤ルネ	少女Ⅲ	2003(平成15)年	紙、パステル	26.0×23.0	株式会社ルネ
I-047	内藤ルネ	『ジュニアそれいゆ』第34号 表紙絵	2003(平成15)年頃	紙、ジークレー	25.0×35.0	株式会社ルネ
I-048	内藤ルネ	『ジュニアそれいゆ』第35号 表紙絵	2003(平成15)年頃	紙、ジークレー	25.0×35.0	株式会社ルネ
I-049	内藤ルネ	歌のアルバム	1958(昭和33)年	『少女ブック』第8巻 第14号付録	21.0×10.0	株式会社ルネ
I-050	内藤ルネ	ジュニアのふくろ	1958(昭和33)年	『少女』第14巻第6号付録	36.0×19.0 ×6.0	株式会社ルネ
I-051	内藤ルネ	ひとみバッグ	1958(昭和33)年	『ひとみ』第1巻第2号 付録	37.0×19.5 ×9.0	株式会社ルネ
I-052	内藤ルネ	ルネ先生のびんせん	1958(昭和33)年	『少女ブック』第8巻 第6号付録	20.0×15.0	株式会社ルネ
I-053	内藤ルネ	ルネ先生手芸人形	1960(昭和35)年	『ひとみ』第3巻第5号 付録	17.0×25.0	株式会社ルネ

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵
I-054	内藤ルネ	壁掛けレターセット	1961（昭和36）年	『女学生の友』第12巻 第5号付録	24.0×18.0	株式会社ルネ
I-055	内藤ルネ	紙くず入れ	1961（昭和36）年	『少女』第17巻第5号付録	40.0×25.5	株式会社ルネ
I-056	内藤ルネ	クロンボとブローチ	1961（昭和36）年	『小学2年生』第17巻 第7号付録	26.5×10.5	株式会社ルネ
I-057	内藤ルネ	おしゃれバッグ	1962（昭和37）年	『少女クラブ』第40巻 第5号付録	31.0×14.0 ×7.0	株式会社ルネ
I-058	内藤ルネ	紙製お買物ぶくろ	1967（昭和42）年	『女学生の友』第13巻 第4号付録	31.0×14.0 ×7.0	株式会社ルネ
I-059	内藤ルネ	王子と少女（2点組）	不詳	印刷物	11.5×8.0	株式会社ルネ
I-060	内藤ルネ	春のチャーミングブック	不詳	印刷物	10.5×21.0	株式会社ルネ
I-061	内藤ルネ	ファミリアのアップリケ広告 ちらし	不詳	印刷物	20.0×28.5	株式会社ルネ
I-062	内藤ルネ	ルネ先生のびんせん	不詳	『少女クラブ』付録	17.0×17.0	株式会社ルネ
I-063	内藤ルネ	アルプスの少女ハイジ 人形	2001（平成13）年	布	32.0×18.0 ×5.0	株式会社ルネ
I-064	内藤ルネ	オードリィ・ヘップバーン 人形	2001（平成13）年	布	38.5×10.5 ×3.5	株式会社ルネ
I-065	内藤ルネ	インディアンの女の子 人形	2001（平成13）年頃	布	31.0×11.0 ×5.0	株式会社ルネ
I-066	内藤ルネ	まちぼうけルルちゃん 人形	2001（平成13）年頃	布	43.0×15.0× 7.0	株式会社ルネ
I-067		『ジュニアそれいゆ』9月号	1959（昭和34）年	雑誌	20.5×22× 1.5	株式会社ルネ
I-068		『ジュニアそれいゆ』10月号	1960（昭和35）年	雑誌	20.5×22× 1.5	株式会社ルネ
I-069		『ジュニアそれいゆ』4月号	1960（昭和35）年	雑誌	20.5×22× 1.5	株式会社ルネ
I-070		『私の部屋』第9号	1973（昭和48）年	雑誌	30×21×1	株式会社ルネ
I-071		『私の部屋』第17号	1975（昭和50）年	雑誌	30×21×1	株式会社ルネ
I-072	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	20.5×16.5	劇団未来劇場
I-073	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	17.5×13.0	劇団未来劇場
I-074	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	11.5×10.5	劇団未来劇場
I-075	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	15.5×8.0	劇団未来劇場
I-076	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	16.5×11.0	劇団未来劇場
I-077	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	19.5×14.5	劇団未来劇場
I-078	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	27.0×19.5	劇団未来劇場
I-079	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	19.5×14.0	劇団未来劇場
I-080	水森亜土	イラスト	不詳	紙、インク・水彩	25.5×19.5	劇団未来劇場
I-081	水森亜土	デュボア「亜土ミニミニセット」	不詳	ミクストメディア	17.0×13.5× 2.5	劇団未来劇場
I-082	水森亜土	水森亜土FANCY GIFT	不詳	ミクストメディア	18.0×20.0× 5.0	劇団未来劇場
I-083	水森亜土	人形	不詳	ソフトビニール	14.5×8.5× 7.0	劇団未来劇場
I-084	水森亜土	人形	不詳	陶器	13.0×8.5× 6.5	劇団未来劇場
I-085	水森亜土	TRIM-CAN	不詳	金属	22.5×10.0	劇団未来劇場
I-086		『少女フレンド』1974年5月号、 1975年4月号、1975年12月号	1974～75（昭和49 ～50）年	雑誌	各25.8×18.0	劇団未来劇場
I-087	里吉しげみ・ 小林亜星・ 水森亜土	パラコンペ！	1970年代（昭和40 ～50年代）	LPレコード	31.5×31.5	劇団未来劇場

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
I-088	陸奥A子	A子のファッションドールワード ローブ	1979(昭和54)年	『りぼん』昭和54年2月号付録	(ドール) 15.9×11.0、 (ワードローブ) 20.7×15.0	弥生美術館
I-089	陸奥A子	ラブリー・ピンナップ	1979(昭和54)年	『りぼん』昭和54年4月号付録		弥生美術館
I-090	陸奥A子	雛ちゃんピッグ・ノート	1980(昭和55)年	『りぼん』昭和55年5月号付録		弥生美術館
I-091	陸奥A子、ほか	アイビーマンが家 ルイラスト集	昭和40~50年代	『りぼん』付録		弥生美術館
I-092	田渕由美子	ドリーミィ・レターセット	1979(昭和54)年	『りぼん』昭和54年11月号付録	タトウ 18.1×25.1 便箋 17.0×12.3	弥生美術館
I-093	太刀掛秀子	花ぶらんこトランプ	1979(昭和54)年	『りぼん』昭和54年1月号付録	箱 7.8×5.3×0.9 トランプ 7.4×5.0	弥生美術館
I-094	いがらしゆみこ	「キャンディ・キャンディ」ノートブック	1975~84頃(昭和50年代)	『なかよし』付録		弥生美術館
I-095	いがらしゆみこ、ほか	『なかよし』オリジナル ポアイロンプリント	1979(昭和54)年	『なかよし』昭和54年4月号付録		弥生美術館
I-096	たかなししづえ	「おはよう！スパンク」したじき	1981(昭和56)年頃	『なかよし』付録		弥生美術館
I-097	あさぎり夕	「なな色マジック」紙箱	1987(昭和62年)	『なかよし』昭和62年3月号付録		弥生美術館
I-098	岡本光博	ST#88 Japanese Minimal Pain ting 8	1998~2014(平成10~24)年	キャンヴァス、シルクスクリーン	124.0×114.0	作家蔵
I-099	岡本光博	ST#98 Japanese Minimal Pain ting 13	1998~2014(平成10~24)年	キャンヴァス、シルクスクリーン	124.0×114.0	作家蔵

□第二部：「すがたかたちも大切だと思います」——観用少女（ときにいくばくかのあざとさや媚態を込めて）

■観用少女

II-001	長澤蘆雪	大原女	1793(寛政5)年頃	絹本着色	130.3×83.2	静岡県立美術館
II-002	岡本大更	京の町へ	1916(大正5)年	絹本着色	175.0×71.9	星野画廊
II-003	岡田幽明	鸚鵡	1910年代(大正前期)頃	絹本着色	157.7×70.3	星野画廊
II-004	島成園	上海にて	1925(大正)14年頃	絹本着色	40.0×51.2	大阪市立美術館
II-005	北野以悦	春	1931(昭和6)年頃	絹本着色	191.0×142.0	島根県立石見美術館
II-006	山川秀峰	序の舞	1932(昭和7)年	絹本着色	181.5×127.0	東京国立近代美術館
II-007	藤島武二	音楽六題(ヴァイオリン)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	8.5×8.5	ひろしま美術館
II-008	藤島武二	音楽六題(三味線)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	7.1×8.2	ひろしま美術館
II-009	藤島武二	音楽六題(鼓)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	8.9×8.1	ひろしま美術館
II-010	藤島武二	音楽六題(ピアノ)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	9.3×8.3	ひろしま美術館
II-011	藤島武二	音楽六題(琵琶)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	9.1×8.0	ひろしま美術館
II-012	藤島武二	音楽六題(笛)	1901~06(明治34~39)年頃	紙、水彩	9.3×8.0	ひろしま美術館
II-013	梶田半吉	王夫人	1904(明治37)年	紙、木版(『文芸俱楽部』10巻2号付録)	30.0×22.1	実践女子学園香雪記念資料館
II-014	金陵	龍上美人図	1890~1900年代(明治後期)	絹本着色	122.4×41.1	星野画廊
II-015	龍山	手習児	1920~30年代(大正末~昭和初期)	絹本着色	132.0×49.6	星野画廊
II-016	池田蕉園	小松引	20世紀初期(明治末~大正初期)	絹本着色	139.4×51.2	島根県立石見美術館
II-017	池田蕉園	さつき	20世紀初期(明治末~大正初期)	絹本着色	148.0×56.5	東京国立近代美術館

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
II-018	柳江	夏苑の少女	1910~20年代(大正時代頃)	絹本着色	123.3×56.3	星野画廊
II-019	橋本明治	七五三	1928(昭和3)年	絹本着色	145.0×86.0	島根県立美術館
II-020	高橋成薇	秋立つ(旧題・秋立つ女)	1928(昭和3)年	絹本着色	197.0×82.0	大阪新美術館建設準備室
II-021	島成園	若き婦人	1929(昭和4)年	絹本着色	150.0×41.5	大阪市立美術館
II-022	菊池契月	少女	1932(昭和7)年	絹本着色	118.5×145.5	京都市美術館
II-023	菊池契月	友禅の少女	1933(昭和8)年	絹本着色	152.0×88.0	京都市美術館
II-024	橋本明治	荘園	1934(昭和9)年	絹本着色	233.6×142.2	島根県立石見美術館
II-025	由里本景子	単衣のおとめ	1933(昭和8)年	絹本着色	168.0×112.8	京都市美術館
II-026	由里本景子	娘	1934(昭和9)年	絹本着色	176.0×115.0	京都国立近代美術館
II-027	玉城末一	籐椅子によれる少女	1934(昭和9)年	絹本着色	141.0×62.0	京都市美術館
II-028	鏑木清方	菊花節	1942(昭和17)年	絹本着色	130.0×58.0	京都国立近代美術館
II-029	北沢映月	娘	1935(昭和10)年	紙本着色、二曲一隻屏風	148.0×184.0	京都市美術館
II-030	橋本花乃	七夕	1930~31(昭和5~6)年頃	紙本着色、二曲一双屏風	各176.0×176.4	大阪新美術館建設準備室
II-031	榎本千花俊	口紅を描く	1935(昭和10)年	絹本着色	139.6×56.8	島根県立石見美術館
II-032	山川秀峰	美人図(足利銘仙ポスター原画)	1934(昭和9)年	絹本着色	86.5×61.0	足利市立美術館
II-033	中村大三郎	美人図(足利銘仙ポスター原画)	1935(昭和10)年	絹本着色	90.0×62.1	足利市立美術館
II-034	鏑木清方	ポスター「足利本銘仙」	1931(昭和6)年頃	ポスター	110.3×51.6	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.5377-5
II-035	長谷川昇	ポスター「足利本銘仙」	1934(昭和9)年	ポスター	93.1×61.7	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.5377-5
II-036	町田隆要	ポスター「いとう呉服店／東京上野／松坂屋」	1922(大正11)年	ポスター	106.3×74.7	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.2694-9
II-037	作者不詳	ポスター「銘酒東洋一、柴谷合名会社釀」	20世紀初頭(明治末~大正時代)	ポスター	93.1×63.5	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.3728
II-038	多田北鳥	ポスター「特製月桂冠瓶詰株式会社明治屋」	1929(昭和4)年	ポスター	93.5×62.0	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.5378-2
II-039	作者不詳	特製月桂冠瓶詰、絶対に防腐剤を含まず。株式会社明治屋	1930(昭和5)年頃	ポスター	93.8×63.3	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.3738
II-040	作者不詳	清涼飲料リボンシトロン	1930(昭和5)年頃	ポスター	101.7×66.3	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.3748
II-041	作者不詳(H.M.)	ポスター「高級ビールカスクエード。日英醸造株式会社」	1930(昭和5)年頃	ポスター	104.1×61.5	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.3749
II-042	作者不詳	ポスター「キリンビール」	1930(昭和5)年頃	ポスター	94.1×63.3	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.3729
II-043	高木保翠	ポスター「アサヒビール」	1930~31(昭和5~6)年頃	ポスター	92.4×61.5	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.5234-6
II-044	多田北鳥	ポスター「キリンビール、キリンレモン」	1932(昭和7)年	ポスター	92.8×61.7	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.5378-16
II-045	榎本千花俊	滑れ銀嶺歓喜を乗せて／鉄道省	1938(昭和13)年	ポスター	105.3×72.4	京都工芸繊維大学美術工芸資料館AN.2694-6
II-046	白瀧幾之助	編み物をする少女	1895(明治28)年	キャンヴァス、油彩	89.5×54.2	郡山市立美術館

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵
II-047	矢崎千代二	教鶴	1900 (明治33) 年	キャンヴァス、油彩	73.7×58.8	東京藝術大学 大学美術館
II-048	和田英作	少女新聞を読む	1897 (明治30) 年	キャンヴァス、油彩	54.8×84.5	東京藝術大学 大学美術館
II-049	中澤弘光	舞子	不詳	キャンヴァス、油彩	44.2×32.0	府中市美術館
II-050	湯浅一郎	巫女	1905 (明治38) 年	キャンヴァス、油彩	81.6×61.0	群馬県立近代美 術館
II-051	霜鳥之彦	少女（休憩）	1926 (大正15) 年	キャンヴァス、油彩	72.7×100.0	京都市美術館

■くねくね、すらり。

II-052	橋本明治	扇面古写経模写 (十一) (十二) (十三) (十五)	1927 (昭和2) 年	紙本着色	27.8×47.7	島根県立美術館
II-053	鈴木春信	秋の燭	1765～70 (明和2～7) 年	紙、木版	27.1×20.5	島根県立美術館
II-054	鈴木春信	六玉川 調布の玉川	1767 (明和4) 年頃	紙、木版	28.2×20.9	千葉市美術館
II-055	鳥文斎栄之	風俗略六芸 茶湯	1794 (寛政6) 年頃	紙、木版	36.8×24.6	千葉市美術館
II-056	竹久夢二	春のおくりもの	1928 (昭和3) 年	書籍 (木版)	19.2×14.0×3.0	うらわ美術館
II-057	竹久夢二	露台薄暮	1928 (昭和3) 年	書籍 (木版)	19.2×14.0×2.8	うらわ美術館
II-058	松本かつぢ	お山の一夏 板チョコ三人組	1936 (昭和11) 年	『少女の友』第29巻第8号 付録	17.4×12.2	兵庫県立歴史博 物館所蔵 (入江 コレクション)
II-059	松本かつぢ	長篇漫画物語り 「?のクローバー」	1934 (昭和9) 年	『少女の友』第27巻第4号 特別大付録	30.2×22.0	兵庫県立歴史博 物館所蔵 (入江 コレクション)
II-060	松本かつぢ	『少女の友』カット (5点)	1920～30年代 (大 正末～昭和初期)	紙、インク・墨	約12.0×13.0	弥生美術館
II-061	林静一	怨靈血染めの十字架 (発見の会、 1970年)	1970 (昭和45) 年	紙、シルクスクリーン	74.8×54.0	ポスター・ハリス カンパニー
II-062	長谷川利行	少女	1935 (昭和10) 年	キャンヴァス、油彩	53.2×41.2	群馬県立近代美 術館

■マニエリズムと異形

II-063	吾妻ひでお	ななこSOS ACT.5「ななこ初恋」 原画 (『ポップコーン』1980年12月号)	1980 (昭和55) 年	紙、インク	各36.1×25.6	作家蔵
II-064	高橋しん	『最終兵器彼女』2巻表紙イラスト	2000 (平成12) 年	デジタルデータ		高橋しん事務所
II-065	高橋しん	flower (『最終兵器彼女』7巻表紙 イラスト)	2001 (平成13) 年	デジタルデータ		高橋しん事務所
II-066	高橋しん	「最終兵器彼女」扉用イラスト (『ビッグコミックスピリット』2000年15号)	2000 (平成12) 年	デジタルデータ		市立別図書館
II-067	高橋しん	TVアニメ「最終兵器彼女」DVD Vol.1 スペシャル版全5巻収納ボック ス用イラスト	2002 (平成14) 年	デジタルデータ		市立別図書館
II-068	高橋しん	TVアニメ「最終兵器彼女」DVD スペシャルバリューボックス (東北新社) 用イラスト	2006 (平成18) 年	デジタルデータ		市立別図書館
II-069	高橋しん	実写版「最終兵器彼女」アルティメットエディション (初回限定生産) BOX (小学館東映ビデオ) 用イラスト	2006 (平成18) 年	デジタルデータ		市立別図書館
II-070	中村宏	遠足	1967 (昭和42) 年	キャンヴァス、油彩	80.5×116.5	板橋区立美術館
II-071	松山賢	いきものカード (クワガタ)	2007 (平成19) 年	キャンヴァス、油彩	145.5×145.5	個人蔵
II-072	唐仁原希	優しさにさようなら	2013 (平成25) 年	キャンヴァス、油彩	90.9×72.2	作家蔵
II-073	金子國義	EROTICIZM	1965～66 (昭和40～41) 年頃	板、油彩	40.7×31.8	個人蔵
II-074	四谷シモン	Portrait d'une petite fille	1982 (昭和57) 年	ミクストメディア	h:111.0	個人蔵

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
II-075	永島信也	Flowery	2010(平成22)年	黄楊、ウォルナット、岩 絵具	6.5×3.0× 1.8	個人蔵
II-076	永島信也	KING×QUEEN	2011(平成23)年	黄楊、サティーネ、岩絵 具	5.0×3.7× 3.0	個人蔵
II-077	永島信也	挾間の竜人	2011(平成23)年	黄楊、岩絵具	h:16.0	個人蔵
II-078	永島信也	闇に溶けゆく	2011(平成23)年	黄楊、ウォルナット、タ イガーアイ、岩絵具	5.5×2.5× 2.8	個人蔵
II-079	永島信也	深更の竜少女	2011(平成23)年	黒檀、金パール粉	5.2×4.0× 3.2	個人蔵
II-080	永島信也	鳳凰の抱擁	2012(平成24)年	黄楊、ガラス、岩絵具	6.3×5.6× 4.5	個人蔵
II-081	永島信也	源に生まれしもの	2013(平成25)年	鹿角、べっ甲	5.4×3.3× 2.5	個人蔵
II-082	永島信也	深海の夢路	2013(平成25)年	鹿角、琥珀、べっ甲、ヘ ゴ	6.5×2.8× 2.1	京都清宗根付館 蔵
II-083	永島信也	女神校生	2014(平成26)年	黄楊	5.7×4.0× 3.1	個人蔵
II-084	永島信也	日を招く宴の踊り子	2014(平成26)年	鹿角、岩絵具	h:6.4	個人蔵
II-085	永島信也	歌姫	2014(平成26)年	黄楊		個人蔵
II-086	BOME	MON-SIEUR BOME COLLEC TION 鬼娘	不詳	PVC/ABS、彩色	h:24.0	株式会社海洋堂
II-087	BOME	うさぎ1号	1993(平成5)年	レジン、彩色	h:20.0	株式会社海洋堂
II-088	BOME	MON-SIEUR BOME COLLEC TION まじかるカナン-カーマ イン(まじかるカナン)	2006(平成18)年	PVC/ABS、彩色	h:22.0	株式会社海洋堂
II-089	BOME	MON-SIEUR BOME COLLECTI ON AF かすみ KASUMI Whit e Ver. (DEAD OR ALIVE)	2006(平成18)年	PVC/ABS、彩色	h:21.0	株式会社海洋堂
II-090	BOME	MON-SIEUR BOME COLLEC TION タカヤノリコ (OVA トップをねらえ!)	2006(平成18)年	PVC/ABS、彩色	h:23.0	株式会社海洋堂
II-091	BOME	MON-SIEUR BOME COLLEC TION ノノバスター・マシン7号 (OVA トップをねらえ!?)	2007(平成19)年	PVC/ABS、彩色	h:22.0	株式会社海洋堂
II-092	BOME	MON-SIEUR BOME COLLEC TION ミスティー・メイ (おた くのビデオ)	2007(平成19)年	PVC/ABS、彩色	h:8.5	株式会社海洋堂
II-093	大嶋優木	『週間わたしのおにいちゃん』付 属フィギュア6点	2004(平成16)年	PVC、彩色		個人蔵
II-094	智恵理	1/6 式波・アスカ・ラングレー	2011(平成23)年	PVC、彩色	h:27.0	マックスファク トリー
II-095	智恵理	1/6 真希波・マリ・イラストリ アス	2011(平成23)年	PVC、彩色	h:27.0	マックスファク トリー
II-096	智恵理	1/10ペルダンディー with ホー リーベル (ああっ女神さまっ)	2013(平成25)年	PVC、彩色	h:35.5	マックスファク トリー
II-097	智恵理	1/7シェリル・ノーム (劇場版マ クロスF~イツワリノウタヒメ~)	2014(平成26)年	PVC、彩色	h:31.5	マックスファク トリー
II-098	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 001長門有希 制服ver. (涼宮ハルヒの憂鬱)	2008(平成20)年	PVC、彩色	h:15.0	マックスファク トリー
II-099	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 008泉こなた 冬服ver. (TVアニメ らき☆すた)	2008(平成20)年	PVC、彩色	h:13.0	マックスファク トリー
II-100	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 012柊つかさ 制服ver. (TVアニメ らき☆すた)	2008(平成20)年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファク トリー
II-101	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 057平沢唯 制服ver. (けいおん!)	2010(平成22)年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファク トリー
II-102	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 059琴吹紬 制服ver. (けいおん!)	2010(平成22)年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファク トリー
II-103	マックスファ クトリー・ 浅井真紀	Figma 063ラム (うる星やつら)	2010(平成22)年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファク トリー

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵
II-104	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 074宮藤芳佳（ストライクウィッচーズ）	2010（平成22）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
II-105	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 079真希波・マリ・イラストリアス 新型プラグスーツver.（エヴァンゲリヲン新劇場版：破）	2010（平成22）年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー
II-106	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 084式波・アスカ・ラングレー テストプラグスーツver.（エヴァンゲリヲン新劇場版：破）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:14.5	マックスファクトリー
II-107	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 091綾波レイ プラグスーツver.（エヴァンゲリヲン新劇場版：破）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー
II-108	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 099「高坂桐乃」（俺の妹がこんなに可愛いわけがない）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファクトリー
II-109	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 105八九寺真宵（化物語）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:12.0	マックスファクトリー
II-110	マックスファクトリー・浅井真紀	FigmaSP-020ミサカ（とある魔術の禁書目録）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファクトリー
II-111	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 123イカ娘（侵略！イカ娘）	2012（平成24）年	PVC、彩色	h:12.0	マックスファクトリー
II-112	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 169すーぱーそに子 虎パー カーver.（すーぱーそに子）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファクトリー
II-113	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 212秋山優花里（ガールズ&パンツァー）	2014（平成26）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
II-114	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 214島風（艦隊これくしょん -艦これ-）	2014（平成26）年	PVC、彩色	h:13.0	マックスファクトリー
II-115	マックスファクトリー・浅井真紀	figma 221武部沙織（ガールズ&パンツァー）	2014（平成26）年	PVC、彩色	h:12.0	マックスファクトリー
II-116	シャイニング ウィザード@ 沢近（マックスファクトリー）	1/7サムライ（刀子）（セブンス ドラゴン2020）	2012（平成24）年	PVC、彩色	h:26.5	マックスファクトリー
II-117	黒田真徳（マックスファクトリー）	1/7本間芽衣子（あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない）	2012（平成24）年	PVC、彩色	h:23.5	マックスファクトリー
II-118	桜文鳥	あかねちゃんとアヒルちゃん	2002（平成14）年	レジン、彩色	22.5×9.0×9.0	アートボックス
II-119	桜文鳥	ヴァルフォックス	2011（平成23）年	レジン、彩色	25.5×10.0×10.0	アートボックス
II-120	桜文鳥	メイ ver.1.1	2011（平成23）年	レジン、彩色	11.0×5.0×12.0	アートボックス
II-121	桜文鳥	リアルスケールヘッドA 1 (RSH-A 1)	2013～14（平成25～26）年	レジン、彩色	43.0×30.0×30.0	アートボックス
II-122	青島千穂	鶏っ子・希望ちゃん	2008（平成20）年	FRP、ラッカー	55.0×20.0×48.0	カイカイキキ
II-123	青島千穂	鶏っ子・説得ちゃん	2008（平成20）年	FRP、ラッcker	48.5×47.5×30.0	カイカイキキ
II-124	青島千穂	蓮の子	2010（平成22）年	FRP、ラッcker	29.5×50.0×47.0	カイカイキキ
II-125	青島千穂	蓮の子	2010（平成22）年	FRP、ラッcker	29.5×50.0×47.0	カイカイキキ
II-126	青島千穂	蓮の子	2010（平成22）年	FRP、ラッcker	29.5×50.0×47.0	カイカイキキ
□インターミッション／「いまの戦争が終ったころ、こんな、夢を持ったような古風のアンブレラが流行するだろう。」						
II-127	塚原重義（監督）	アニメーション《女生徒》	2014（平成26）年	映像	約14分	「美少女の美術史」展実行委員会
II-128	有明淑	有明淑の日記（レプリカ）	1938（昭和13）年			青森県近代文学館
II-129	塚原重義	《女生徒》イラスト	2014（平成25）年	デジタルデータ		
II-130	東京モノノケ	《女生徒》イラスト	2014（平成26）年	デジタルデータ		

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
II-131	宵町めめ	《女生徒》イラスト	2014(平成26)年			作家像
II-132	佐竹慎	《女生徒》のための少女図	2014(平成26)年	紙、水彩		作家像
II-133	六治郎 (辻村聰志)	1/35「昭和初期の女学生」	2014(平成26)年	レジン、彩色		アートボックス
II-134	蕗谷虹児	そして今年も逝く	1937(昭和12)年	『令女界』16巻12号	18.1×12.2	個人蔵
II-135	蕗谷虹児	星からの音信	1938(昭和13)年	『令女界』17巻11号	19.0×26.7	個人蔵
II-136	蕗谷虹児	お店の嬢さん	1938(昭和13)年	『令女界』17巻12号	18.2×12.1	個人蔵
II-137	蕗谷虹児	慰問品売り場にて	1938(昭和13)年	『少女俱楽部』16巻15号	16.7×12.8	個人蔵
II-138	塚本茂	千人針を縫う	1943(昭和18)年	キャンヴァス、油彩	117.0×90.0	群馬県立近代美術館
II-139	東郷青児	ナース像	1974(昭和49)年	キャンヴァス	100.0×72.8	日本赤十字社

□第三部：「心と口と行いといきざまもて」——少女美術における精神的なるもの

■混沌と躍動

III-001	丹羽阿樹子	遠矢	1935(昭和10)年	絹本着色	214.0×151.0	京都市美術館
III-002	菊池華秋	雪晴	1938(昭和13)年	絹本着色	189.8×202.2	島根県立石見美術館
III-003	O Jun	ハネルコ	2011(平成23)年	紙、顔料	171.0×120.0	個人蔵
III-004	Mr.	Goin To A Go-go!!	2014(平成26)年	キャンヴァス、アクリル	648.0×259.0	
III-005	松山賢	地図(ビーチボール)	2009(平成21)年	キャンヴァス、油彩・アクリル	91.0×72.7	作家蔵
III-006	松山賢	地図(ポロシャツ)	2009(平成21)年	キャンヴァス、油彩	91.0×60.6	作家蔵
III-007	村上隆	シックス♡プリンセス：戦闘態勢	2012(平成24)年	キャンヴァス、アクリル	214.0×270.0	
III-008	村上隆	シックス♡プリンセス：仲良し	2012(平成24)年	キャンヴァス、アクリル	275.0×214.8	
III-009		『Six♡Princess』OP・ED、予告編	2010(平成22)年	映像		カイカイキキ
III-010	村上隆	6♡Princess by Takashi Murakami for Shu Uemura	2013(平成25)年	映像	3分14秒	
III-011	村上隆	コスプレフォーマンスステージ「6 HP・起」あらすじアニメ	2014(平成26)年	映像	4分17秒	
III-012		《6 HP》抱き枕				個人蔵

■憂愁の国

III-013	竹久夢二	アデュー	1927(昭和2)年	『少女の友』第20巻第7号	16.0×23.0	弥生美術館
III-014	竹久夢二	白梅	1927(昭和2)年	『少女世界』昭和2年2月	16.5×12.0	弥生美術館
III-015	加藤まさを	《おそろい》	不詳	絵はがき1枚		藤枝市郷土博物館・文学館
III-016	加藤まさを	《そよかぜ》	不詳	絵はがき4枚組		藤枝市郷土博物館・文学館
III-017	加藤まさを	《花のこころ》第二集	不詳	絵はがき4枚組		藤枝市郷土博物館・文学館
III-018	加藤まさを	《花の精》第四集	不詳	絵はがき4枚組		藤枝市郷土博物館・文学館
III-019	加藤まさを	《花の精》第二集	不詳	絵はがき4枚組		藤枝市郷土博物館・文学館
III-020	加藤まさを	新版まさを叙情便箋49 青葉の頃 不詳		便箋		兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)
III-021	加藤まさを	花物語便箋第二集23 紅薔薇白薔薇 不詳		便箋		兵庫県立歴史博物館所蔵(入江コレクション)

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵
III-022	志村貴子	『青い花』単行本第7巻総扉原画	2012(平成24)年	紙、水彩	34.3×25.2	太田出版
III-023	志村貴子	『青い花』単行本第8巻表紙原画	2013(平成25)年	紙、水彩	41.0×31.0	太田出版
III-024	志村貴子	『青い花』単行本第1巻第6話扉原画	2006(平成18)年	紙、インク・マーカー	36.3×25.6	太田出版
III-025	志村貴子	『青い花』単行本第2巻第13話扉原画	2006(平成18)年	紙、インク・マーカー	36.3×25.6	太田出版
III-026	志村貴子	『青い花』最終話原画	2013(平成25)年	紙、インク・マーカー	各36.3×25.6	太田出版
III-027	島成園	祭のよそほい	1913(大正2)年	絹本着色	142.0×184.0	大阪新美術館建設準備室
III-028	三谷十糸子	春来る(春想)	1947(昭和22)年	紙本着色	192.0×66.5	京都市美術館
III-029	松村綾子	少女・金魚鉢	1937(昭和12)年	キャンヴァス、油彩	96.8×130.5	星野画廊
III-030	有島生馬	三姉妹	1940(昭和15)年	キャンヴァス、油彩	53.5×72.6	府中市美術館
III-031	熊澤未来子	侵食	2009(平成21)年	パネル、ジェッソ・鉛筆	227.3×324.0	高橋コレクション
III-032	工藤麻紀子	おおどろぼうの夜	2012(平成24)年	キャンヴァス、油彩	130.5×162.0	作家蔵
III-033	森口裕二	檸檬	2013(平成25)年	キャンヴァス、アクリル ガッシュ	60.0×32.5	個人蔵
III-034	唐仁原希	秘密は話さない方がいい。	2013(平成25)年	キャンヴァス、油彩	194.0×324.0	作家蔵
III-035	村山加奈恵	eternally of beauty	2013(平成25)年	インクジェットプリント	サイズ可変	作家蔵
III-036 ob		彼女のくちびるに紅をさし、失敗して笑った。	2013(平成25)年	キャンヴァス、アクリル	130.3×97.0	個人蔵

■魔法少女

III-037	手塚治虫	「リボンの騎士」『なかよし』1946年6月号付録表紙絵	1964(昭和39)年	紙、鉛筆・水彩	42.0×29.7	
III-038		『リボンの騎士』オープニング映像	1967(昭和42)年	映像		
III-039	赤塚不二夫	『ひみつのアッコちゃん』単行本(5点)				株式会社フジオ・プロダクション
III-040	赤塚不二夫	ひみつのアッコちゃん「かがみの国のおつかい」(『りぼん』1962年6月号原画)	1962(昭和37)年	紙、インク	25.0×17.0	株式会社フジオ・プロダクション
III-041	赤塚不二夫	ひみつのアッコちゃん「わたしのひみつをおしえるわ」(『りぼん』1963年3月号扉原画)	1963(昭和38)年	紙、インク・水彩(単行本化の際に着彩)	35.0×23.0	株式会社フジオ・プロダクション
III-042		『ひみつのアッコちゃん』オープニング映像	1969(昭和44)年	映像		東映アニメーション
III-043		ひみつのアッコちゃん「テクマクマヤコンコンパクト」	1969(昭和44)年	プラスチック	直径9.0	株式会社フジオ・プロダクション
III-044		『魔法のプリンセス ミンキーモモ』オープニング映像	1982(昭和57)年	映像		プロダクションリード(旧社名:葦プロダクション)
III-045	わたなべひろし、けいこ	『魔法のプリンセス ミンキーモモ』	1982(昭和57)年			プロダクションリード(旧社名:葦プロダクション)
III-046	わたなべひろし、けいこ	魔法のプリンセス ミンキーモモ(『マイアニメ』1985年7月号表紙)	1985(昭和60)年			プロダクションリード(旧社名:葦プロダクション)
III-047	わたなべひろし、けいこ	魔法のプリンセス ミンキーモモ(マジカルボックス PART 2 表紙)	1992(平成4)年			プロダクションリード(旧社名:葦プロダクション)
III-048	BOME	1/5ミンキーモモ	1992(平成4)年	レジン、彩色	h:23.0	株式会社海洋堂
III-049		『魔法の天使クリィミーマミ』オープニング、エンディング映像	1983(昭和58)年	映像		株式会社ぴえろ(旧社名:株式会社スタジオぴえろ)
III-050	高田明美	Make up(魔法の天使クリィミーマミ)	1984(昭和59)年	紙、カラーリンク・バス テル・色鉛筆	47.2×37.0	株式会社ぴえろ(旧社名:株式会社スタジオぴえろ)

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵
III-051	高田明美	フェザースターへの扉（魔法の天使クリィミーマミ）	1985（昭和60）年	紙、色鉛筆・パステル・修正ホワイト	42.0×54.5	株式会社びえろ (旧社名：株式会社スタジオびえろ)
III-052	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 110鹿目まどか（魔法少女まどか☆マギカ）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-053	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 118巴マミ（魔法少女まどか☆マギカ）	2012（平成24）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-054	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 165アルティメットまどか（魔法少女まどか☆マギカ）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-055	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 166巴マミ 制服ver.（魔法少女まどか☆マギカ）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-056	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 171美樹さやか 制服ver.（劇場版 魔法少女まどか☆マギカ）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-057	KEI	初音ミク 公式イメージ（3点）	2007（平成19）年	デジタルデータ	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-058	KEI	「MIKUEXPO」メインビジュアル	2014（平成26）年	デジタルデータ	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-059	MONQ	「初音ミク『マジカルミライ2014』」メインビジュアル	2014（平成26）年	デジタルデータ	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-060		初音ミク「マジカルミライ2013」イベント風景	2013（平成25）年	デジタルデータ	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-061	ZIR、ともよし おっさん、ナ ナミ、pprてん と、白熱灯、 魚月、有識、 吉田ドンドリ アン、yuma、 N人、七夕、猫 犬（きめら）、 U 35、星野キ ソラ、鳥越タ クミ	ピアプロ投稿初音ミクイラスト		デジタルデータ	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-062	制作：北田能士（株式会社冬寂）、協力：（株）ストラタシス・ジャバ ン、さくらイ ン、さくら 初音ミク ARぬり絵 プロジェクト ンターネット 株式会社、デ ジタルハリウッ ド大学大学院、 雪ミク2014衣 装原案：dera_fury	初音ミク ARぬり絵 プロジェクト ションマッピング	2014（平成26）年	ミクストメディア	サイズ可変	クリプトン・フューチャー・メディア株式会社
III-063	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 014初音ミク（キャラクター・ボーカル・シリーズ01 初音ミク）	2008（平成20）年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー
III-064	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 100初音ミク Append ver.（初音ミク・アpend）	2011（平成23）年	PVC、彩色	h:13.5	マックスファクトリー
III-065	マックスファクトリー・浅井真紀	Figma 200初音ミク2.0（キャラクター・ボーカル・シリーズ01 初音ミク）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:14.5	マックスファクトリー
III-066	マックスファクトリー・浅井真紀	FigmaEX-003初音ミク ライブステージver.（キャラクター・ボーカル・シリーズ01 初音ミク）	2009（平成21）年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー
III-067	マックスファクトリー・浅井真紀	FigmaEX-016雪ミク	2014（平成26）年	PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー
III-068	マックスファクトリー・浅井真紀	FigmaSP-036 bレーシングミク 2011 ver.（リターンズ レーシングミク）	2013（平成25）年	PVC、彩色	h:13.0	マックスファクトリー

No.	作家名	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵
III-069	マックスファクター・浅井真紀	FigmaSP-045レーシングミクver.)	2012 ver. (レーシングミクver.)	2012 2013 (平成25) 年 PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-070	マックスファクター・浅井真紀	FigmaSP-049レーシングミクver.)	2013 ver. (レーシングミクver.)	2013 2014 (平成26) 年 PVC、彩色	h:12.5	マックスファクトリー
III-071	マックスファクター・浅井真紀	FigmaSP-050初音ミク セーラー服ver.	2014 (平成26) 年 PVC、彩色	h:14.0	マックスファクトリー	
III-072	智恵理	1/7初音ミク Tony ver. (キャラクター・ボーカル・シリーズ01 初音ミク)	2011 (平成23) 年 PVC、彩色	h:21.0	マックスファクトリー	

■聖なる少女

III-073	牧野虎雄	庭の少女（中庭）	1921 (大正10) 年	キャンヴァス、油彩	94.8×111.0	東京都現代美術館
III-074	藤野一友	祈り	1957 (昭和32) 年	キャンヴァス、油彩	65.0×33.5	個人蔵
III-075	吉岡正人	呼ぶ声がする	1998 (平成10) 年	キャンヴァス、油彩・テンペラ	117.0×91.0	個人蔵
III-076	味戸ケイコ	透きとおる愛A	1989 (平成元) 年	紙、鉛筆・水彩	40.0×55.0	作家蔵
III-077	味戸ケイコ	透きとおる愛B	1989 (平成元) 年	紙、鉛筆・水彩	40.0×55.0	作家蔵
III-078	山本大貴	Hear no evil II	2013 (平成25) 年	パネル、油彩	41.0×31.8	個人蔵
III-079 ob		光が私をみつける	2014 (平成26) 年	キャンヴァス、アクリル・油彩	50.1×65.1	
III-080	高木正勝	Bloomy Girls	2005 (平成17) 年	映像	5分22秒	山本現代
III-081	高木正勝	girls	2003 (平成15) 年	映像	4分50秒	山本現代

■エピローグ／見つめる少女

III-082	椿貞雄	晴子像	1939 (昭和14) 年	キャンヴァス、油彩	40.8×31.8	府中市美術館
III-083	椿貞雄	朝子像	不詳	キャンヴァス、油彩	60.5×45.4	府中市美術館
III-084	吉井忠	少女（都市）	1941 (昭和16) 年	キャンヴァス、油彩	54.5×45.7	府中市美術館
III-085	丸尾末広	少女椿	2009 (平成21) 年	紙、インク・アクリル	34.5×24.0	スパンアートギャラリー
III-086	山本タカト	アリスの選択	2014 (平成26) 年	紙、アクリル	30.0×30.0	個人蔵
III-087	イヂチアキコ	I have everything	2012 (平成24) 年	パネル、岩絵具・箔	45.5×45.5	個人蔵
III-088	イヂチアキコ	真夜中/midnight	2014 (平成26) 年	パネル、岩絵具・箔	33.4×24.3	個人蔵
III-089	石黒賢一郎	真〇〇・マ〇・イ〇〇〇〇〇〇	2010～11 (平成22～23) 年	板、油彩	91.0×45.0	ホキ美術館
III-090	加藤美佳	カナリヤ	1999 (平成11) 年	キャンヴァス、油彩	194.0×194.0	東京都現代美術館寄託（個人蔵）
III-091	谷口真人	Untitled	2014 (平成26) 年	木製フレーム鏡、アクリルボードにアクリル絵具、グリースペンシル	204.0×124.0×45.0	個人蔵

風景解剖学－古今東西、風景画のしくみ－

前期展示：11月26日（水）～12月7日（日）
後期展示：12月9日（火）～1月4日（日）

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質	備考
プロローグ						
1	クロード・ロラン	1604/05?-1682	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1630年代後半	キャンヴァス、油彩	
2	谷文晁	1763-1840 (宝暦13-天保11)	連山春色図	1797	絹本着色	

人

人物 風景へのいざない						
3	福田半香	1804-1864 (文化1-元治1)	李白觀瀑図	1841	絹本着色	
4	浦上玉堂	1745-1820 (延享2-文政3)	抱琴訪隱図	1813頃	紙本墨画淡彩	
5	狩野永納	1631-1697 (寛永8-元禄10)	蘭亭曲水図屏風	17世紀後半	紙本金地着色	
6	ガスパール・デュゲ	1615-1675	サビーニの山羊飼	1669-71	キャンヴァス、油彩	
7	ポール・ゴーギャン	1848-1903	家畜番の少女	1889	キャンヴァス、油彩	
8	ラファエル・コラン	1850-1916	想い	1904	キャンヴァス、油彩	

大地

大地 見下ろすか、見渡すか						
9	関根伸夫	1942- (昭和17-)	1968位相一大地	1986	紙、シルクスクリーン	個人蔵
10	平山郁夫	1930-2009 (昭和5-平成21)	樓蘭遺跡全景	1989	紙本着色	
11	アールト・ファン・デル・ネール	1603-1677	森の風景	1645頃	キャンヴァス、油彩	
12	石川欽一郎	1871-1945 (明治4-昭和20)	神域より天の香具山を望む	1940頃	紙、水彩	
13	柏木俊一	1894-1971 (明治27-昭和46)	海と畠と森	1934	キャンヴァス、油彩	
14	須田国太郎	1891-1961 (明治24-昭和36)	筆石村	1938	キャンヴァス、油彩	
15	原在正	1778?-1810	富士山図巻	18世紀	紙本着色	個人蔵

山

山 時に主役、時に脇役						
16	リチャード・ウィルソン	1714-1782	リン・ナントルからスノードンを望む	1765-67頃	キャンヴァス、油彩	
17	吉田博	1876-1950 (明治9-昭和25)	上高地の春	1927	キャンヴァス、油彩	
18	ジョン・ロバート・カズンズ	1752-1797	ポルティーチからヴェスヴィオ山を望む	1782	紙、水彩・鉛筆	
19	サルヴァトール・ローザ	1615-1673	川のある山岳風景	1650年代後半	キャンヴァス、油彩	
20	陸儀少	1909-1993	雁蕩奇勝図	1984	紙本着色	
21	伝雲谷等顔	1547-1618 (天文16-元和4)	春夏山水図屏風 <重要文化財>	16世紀末-17世紀初	紙本金地着色	個人蔵
22	横井金谷	1797-1858 (寛政9-安政5)	大峰山図	19世紀前半	紙本淡彩	個人蔵

建築

建築 I 構成された風景の中で						
-----------------	--	--	--	--	--	--

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質	備考
23	池玉瀬	1727-1784 (享保12-天明4)	渓亭吟詩図	18世紀	紙本墨画着色	
24	徐霖	1462-1538 (天順6-嘉靖17)	樓閣山水図	16世紀前半	絹本着色	
25	マルコ・リッチ	1676-1730	神殿とゴシック教会のある廃墟の眺め	1725頃	紙、エッチング	
26	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	納骨堂	1742-1749頃	エッチング、紙	
27	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	『牢獄』第2版より《III》	1761	紙、エッチング、エ ングレーヴィング、 ドライポイント	
28	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	『牢獄』第2版より《V》	1761	紙、エッチング、エ ングレーヴィング、 ドライポイント	
29	ユベール・ロベール	1733-1808	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポツ ツオーロ	1761	板、油彩	
30	フランソワ・ブーシエ	1703-1770	石橋のある風景	1764?	キャンヴァス、油彩	
31	フランソワ・ブーシエ	1703-1770	水車のある風景	1764	キャンヴァス、油彩	

建築II 実景に基づく風景の中で

32	川俣正	1953- (昭和28-)	袋井駅前プロジェクト1988	1988	ベニヤ板、バルサ材、 アクリル絵の具、鉛 筆、紙、ビニール、 ゼラチン・シリヴァー プリントなど	
33	ポール・シニャック	1863-1935	サン=トロペ、グリモーの古城	1899	キャンヴァス、油彩	
34	五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)	浜離宮	不詳	キャンヴァス、油彩	
35	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	工部大学	1911	キャンヴァス、油彩	
36	山口源	1896-1976 (明治29-昭和51)	明治神宮	1945	紙、多色木版	
37	小泉癸巳男	1893-1945 (明治26-昭和20)	神宮外苑絵画館	1935	紙、木版	
38	平塚運一	1895-1997 (明治28-平成9)	ニコライ堂(東京震災跡風景)	1925	紙、木版	
39	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《日本橋》	1833頃	紙、木版、色摺	前期展示
40	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《鞠子》	1833頃	紙、木版、色摺	後期展示
41	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《岡崎》	1833頃	紙、木版、色摺	後期展示
42	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《京師 三条大橋》	1833頃	紙、木版、色摺	前期展示
43	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	『ローマの景観』より《ガイウ ス・ケスティウスのピラミッド とサン・パオロ門》	1747?-51	紙、エッチング	
44	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	『ローマの景観』より《コンス タンティヌス凱旋門とコロッセ ウム》	1747?-51	紙、エッチング	
45	青木達弥	1917-1981 (大正6-昭和56)	塔	1980	キャンヴァス、油彩	
46	長谷川潔	1891-1980 (明治24-昭和55)	南仏風景	1920年代-30 年代	キャンヴァス、油彩	
47	高畠達四郎	1895-1976 (明治28-昭和51)	漁師の家	1958	キャンヴァス、油彩	
48	鳥海青児	1902-1972 (明治35-昭和47)	壁の修理	1959頃	キャンヴァス、油彩	
49	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《神奈川》	1833頃	紙、木版、色摺	前期展示
50	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《吉田》	1833頃	紙、木版、色摺	前期展示
51	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《御油》	1833頃	紙、木版、色摺	後期展示
52	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』(保永堂版) より《鳴海》	1833頃	紙、木版、色摺	後期展示

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質	備考
道						
道Ⅰ 奥行としての道						
53	ジャン=バティスト=カミー ユ・コロー	1796-1875	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュ アール付近	1862	板、油彩	
54	ヨーハン=バルトールト・ ヨンキント	1819-1891	オンフルール近郊の街道	1866	キャンヴァス、油彩	
55	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	梨畠道	1924	キャンヴァス、油彩	
56	藤田嗣治	1886-1968	モンルージュ、パリ	1918	キャンヴァス、油彩	
道Ⅱ 経巡るものとしての道						
57	鈴木香峰	1804-1885 (文化1-明治18)	山水図	19世紀後半	紙本墨画淡彩	
58	浦上春琴	1779-1846 (安永8-弘化3)	競秀争流図	1830	絹本着色	
59	狩野典信(栄川)	1730-1790 (享保15-寛政2)	山水図	1762-80	絹本墨画金泥	
60	帆足杏雨	1810-1884 (文化7-明治17)	浅絳山水図	1841	絹本淡彩	
61	富岡鉄斎	1836-1924 (天保7-大正13)	蜀國桟道図	1905頃	絹本着色	
62	山本探川	1721-1780 (享保6-安永9)	宇津の山図	1755-69	紙本着色	
63	ジョヴァンニ・バッティ スタ・ピラネージ	1720-1778	イクノグラフィア (古代ローマ のカンプス・マルティウスのブ ラン)	1757-62	紙、エッチング	
道Ⅲ 場としての道						
64	不詳	—	都鄙図屏風	1629-52頃	紙本着色	
65	森一鳳	1798-1871 (寛政10-明治4)	氷室の節供図	19世紀後半	絹本淡彩	
66	石川欽一郎	1871-1945 (明治4-昭和20)	田舎の早春	1900-10 年代	紙、水彩	
67	ジャック・カラ	1592-1635	『ボヘミアン』より《出発》	1622頃	紙、エッチング	
68	ジャック・カラ	1592-1635	『ボヘミアン』より《先頭》	1622頃	紙、エッチング	
69	ジャック・カラ	1592-1635	『ボヘミアン』より《休息》	1622頃	紙、エッチング	
70	ジャック・カラ	1592-1635	『ボヘミアン』より《宴の準備 》	1622頃	紙、エッチング	
71	ジョヴァンニ・ドメニコ・ ティエボロ	1727-1804	『エジプトへの逃避』より《城 壁に沿って歩く聖家族》	1750-53頃	紙、エッチング	
72	ジョヴァンニ・ドメニコ・ ティエボロ	1727-1804	『エジプトへの逃避』より《ビ ラミッドのそばを通り過ぎる聖 家族》	1750-53頃	紙、エッチング	
73	ジョヴァンニ・ドメニコ・ ティエボロ	1727-1804	『エジプトへの逃避』より《頭 部が落ちた彫像のそばを通り過 ぎる聖家族》	1750-53頃	紙、エッチング	
74	ゼバリスト・ベーハム	1500-1550	『ヘラクレスの事績』より《ヘ ラクレスとヒュドラー》	1542-1548	紙、エングレーヴィ ング	
75	ゼバリスト・ベーハム	1500-1550	『ヘラクレスの事績』より《ヘ ラクレスとカクス》	1542-1548	紙、エングレーヴィ ング	
76	ゼバリスト・ベーハム	1500-1550	『ヘラクレスの事績』より《ヘ ラクレスとネッソス》	1542-1548	紙、エングレーヴィ ング	

水Ⅰ 動と静						
77	福井爽人	1937- (昭和12-)	水を運ぶ	1987	紙本着色	
78	アシル=エトナ・ミシャロ ン	1796-1822	廃墟となった墓を見つめる羊飼 い	1816	キャンヴァス、油彩	
79	パウル・ブリル	1554-1626	エルミニアと羊飼いのいる風景	1620頃	キャンヴァス、油彩	

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質	備考
80	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビドー	1758-1846	山の見える牧歌的風景	1790年代	キャンヴァス、油彩	
81	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	波	1913頃-27	キャンヴァス、油彩	
82	田中保	1886-1941	セーヌの宵	1920	キャンヴァス、油彩	
83	堂本元次	1923-2010 (大正12-平成22)	春 朝ぼらけ	1985頃	紙本着色	
84	堂本元次	1923-2010 (大正12-平成22)	秋 照り映える	1985頃	紙本着色	
85	松林桂月	1876-1963 (明治9-昭和38)	溪山幽趣	20世紀	紙本墨画	個人蔵
86	平福百穂	1877-1933 (明治10-昭和8)	清流行舟	20世紀	紙本墨画淡彩	個人蔵
87	長澤蘆雪	1754-1799 (宝暦4-寛政11)	赤壁図屏風	18世紀後半	紙本墨画淡彩	個人蔵
88	野呂介石	1747-1828 (延享4-文政11)	阿古瀑布図	18世紀末 -19世紀初	絹本淡彩	個人蔵

水II 李白の観る…

89	鈴木松年	1848-1918 (嘉永1-大正7)	李白觀瀑図屏風	1906	紙本着色	個人蔵
90	ジョアン・ミッケル	1926-	湖	1954	キャンヴァス、油彩	
91	モーリス・ルイス	1912-1962	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、アクリル	

水III 固体・液体・気体

92	小絲源太郎	1887-1978 (明治20-昭和53)	春雪	1953	キャンヴァス、油彩	
93	田村一男	1904-1997 (明治37-平成9)	北越大雪	1976	キャンヴァス、油彩	
94	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	大川端石原橋	1876	紙、木版、色摺	前期展示
95	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	上野東照宮積雪之図	1879	紙、木版、色摺	前期展示
96	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	御茶ノ水雪	1880	紙、木版、色摺	後期展示
97	小林清親	1847-1915 (弘化4-大正4)	柳原夜雨	1880	紙、木版、色摺	後期展示
98	狩野山雪	1590-1651 (天正18-慶安4)	春冬山水図	17世紀	紙本墨画	個人蔵
99	寺崎広業	1866-1919 (慶応2-大正8)	溪山春雨・湖山雪後	1912	絹本墨画淡彩	個人蔵
100	ジョゼフ・マロード・ワイリアム・ターナー	1775-1851	パッランツァ、マッジョーレ湖	1846-48頃	紙、水彩	
101	平井顯斎	1802-1856 (享和2-安政3)	山水図	1856	紙本墨画淡彩	
102	塩川文麟	1801-1877 (享和1-明治10)	琵琶湖八景図	1853	絹本墨画淡彩	
103	近藤浩一路	1884-1962 (明治17-昭和37)	東山粟田口	1925	紙本墨画	

水IV つなぐ、分ける

104	吉村孝敬	1769-1836 (明和6-天保7)	李白觀瀑・子猷訪戴図屏風（左隻のみ）	1828	紙本着色	
105	池大雅	1723-1776 (享保8-安永5)	龍山勝会・蘭亭曲水図 <重要文化財>	1763	紙本着色	
106	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』（隸書）より《川崎》	1849頃	紙、木版、色摺	前期展示
107	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』（隸書）より《見附》	1849頃	紙、木版、色摺	前期展示
108	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』（隸書）より《岡崎》	1849頃	紙、木版、色摺	後期展示
109	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	『東海道五拾三次』（隸書）より《宮》	1849頃	紙、木版、色摺	後期展示

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	材質	備考
水V 畏れる、憩う						
110	ジョン・マーティン	1789-1854	ミルトン作『失楽園』より《泉のほとりのイヴ》	1825-27	紙、メゾチント、エッチング	
111	ジョン・マーティン	1789-1854	ミルトン作『失楽園』より《天国—祝福の河》	1825-27	紙、メゾチント、エッティング	
112	ジョン・マーティン	1789-1854	ミルトン作『失楽園』より《乐园を追放されるアダムとイヴ》	1825-27	紙、メゾチント、エッティング	
113	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	1714-1789	嵐の海	1740頃	キャンヴァス、油彩	
114	アンゼルム・キーファー	1945-	極光	1978-88	写真、灰・焦げ跡のついた鉛、上塗りした鉄のフレーム	
115	中村岳陵	1890-1969 (明治23-昭和44)	婉膩水韻	1931	紙本着色	
116	二見彰一	1932 (昭和7)-	海のホルン	1986	紙、アクアチント	
117	二見彰一	1932 (昭和7)-	版画集『海から』より《海底の眠り》	1989	紙、アクアチント	
118	二見彰一	1932 (昭和7)-	版画集『海から』より《海の胎生》	1989	紙、アクアチント、ソフトグランドエッティング	
119	福岡道雄	1936- (昭和11-)	湯原湖で(2)	1978	黒色強化ポリエステル、木	
120	アドリアーン・ファン・オスター	1610-1685	釣り人たち	1647-53	紙、エッティング、ドライポイント	
121	島田元旦	1778-1840 (安永7-天保11)	秋江独釣図	1794	紙本墨画淡彩	個人蔵
122	中林竹洞、山本梅逸ほか	—	鴨水十五景詩画冊	19世紀	絹本墨画淡彩	個人蔵

石田徹也展 ーノート、夢のしるし

1月24日（土）～3月25日（水）

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法 (cm)	所蔵	備考
1章						
1	弱い者いじめは、やめよう！	1984年	ペン・水彩、紙	32.0×41.0		公募「人権マンガ・ポスター」最優秀賞
2	(だんごむし)	1994年頃	アクリルほか、紙・ウッドラックパネル	29.7×84.0	個人蔵	
3	L I F E	1994年頃	アクリルほか、紙・ウッドラックパネル	71.8×102.0	個人蔵	
4	駐車場のドラマ	1994年頃	アクリルほか、紙	36.7×47.8	個人蔵	
5	カフェブルーマウンテン	1994年頃	アクリル・ガッシュ、紙・パネル	74.5×50.0	個人蔵	
6	無題	1995年	アクリル、紙	85.8×60.5	個人蔵	
7	居酒屋発	1995年	アクリル、紙	51.0×78.5	静岡県立美術館蔵	第63回毎日広告デザイン賞優秀賞 (イラストレーション担当／企画、デザイン、コピー=平林勇)
8	ピアガーデン発	1995年	アクリル、紙	51.0×78.5	静岡県立美術館蔵	第63回毎日広告デザイン賞優秀賞 (イラストレーション担当／企画、デザイン、コピー=平林勇)
9	みのむしの睡眠	1995年	アクリル、紙	72.8×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展 「石田徹也展『漂う人』」出品
10	無題	1995年	アクリル、板	85.8×60.5	個人蔵	
11	大車輪	1995年	アクリル、板	103.0×72.8	個人蔵	
12	無題	1995年	アクリル、板	103.0×72.8	個人蔵	
13	S Lになった人	1995年	アクリル、紙	85.8×60.7	静岡県立美術館蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
14	無題	1995年	アクリル、板	103.0×72.8	個人蔵	
15	無題	1995年	アクリル、板	72.8×103.0	静岡県立美術館蔵	
16	だんご虫の睡眠	1995年	アクリル、板	72.8×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
17	無題	1995年	アクリル、板	72.8×103.0	個人蔵	
2章						
18	鯉の夢	1996年	アクリル、板	103.0×145.6	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
19	不安な夢	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
20	トイレへ逃げ込む人	1996年	アクリル、板	103.0×145.6	静岡県立美術館蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
21	使われなくなったビルの部長のイス	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
22	使われなくなったビルの社員のイス	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
23	兵士	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	静岡県立美術館蔵	
24	屋上へ逃げる人	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品
25	飛べなくなった人	1996年	アクリル、板	1030×1456	静岡県立美術館蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展「石田徹也展『漂う人』」出品

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵	備考
26	社長の傘の下	1996年	アクリル、板	103.0×145.6	静岡県立美術館蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展 「石田徹也展『漂う人』」出品
27	コンビニエンスストアの母子像	1996年	アクリル、板	145.6×103.0	個人蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展 「石田徹也展『漂う人』」出品
28	燃料補給のような食事	1996年	アクリル、板	145.6×206.0	静岡県立美術館蔵	第6回ひとつぼ展グランプリ受賞者個展 「石田徹也展『漂う人』」出品
29	引き出し	1996年	アクリル、キャンバス	59.4×42.0	静岡県立美術館蔵	
30	トヨタ自動車イプサム	1996年	アクリル、紙	59.4×84.1	個人蔵	第64回毎日広告デザイン賞奨励賞 (イラストレーション担当/企画、デザイン、コピー=平林勇)
31	無題	1997年頃	アクリル、キャンバス	59.4×42.0	個人蔵	
32	クラゲの夢	1997年	アクリル、板	103.0×145.6	静岡県立美術館蔵	
33	無題	1997年頃	アクリル、板	103.0×145.6	静岡県立美術館蔵	
34	無題	1997年頃	アクリル、板	182.0×91.0	個人蔵	「スーパーひとつぼ展」出品
35	ぐち	1997年 以降	アクリル、キャンバス	42.0×59.4	個人蔵	「第8回CLSヴィジュアルアート・コンペティション」審査員賞

3章

36	めばえ	1998年頃	アクリル、板	145.6×206.0	静岡県立美術館蔵	
37	説教	1999年	アクリル、板	51.5×72.8	個人蔵	
38	囚人	1999年	アクリル、板	36.4×51.5	個人蔵	
39	訪問者	1999年	アクリル・油彩、 キャンバス	45.5×53.0	個人蔵	
40	父性	1999年	アクリル、キャンバス	45.5×53.0	個人蔵	
41	市場	1999年	アクリル、板	206.0×145.6	静岡県立美術館蔵	
42	分解	1999年	アクリル、キャンバス	51.5×72.8	個人蔵	
43	起床	1999年	アクリル、キャンバス	72.8×51.5	個人蔵	
44	公共物	1999年	アクリル、キャンバス	45.5×53.0	個人蔵	
45	待機	1999年	アクリル、キャンバス	45.5×53.0	個人蔵	
46	彼方	1999年	アクリル、板	145.6×206.0	静岡県立美術館蔵	
47	無題	2000年頃	アクリル、キャンバス	194.0×162.0	静岡県立美術館蔵	
48	無題	2000年頃	アクリル、キャンバス	194.0×162.0	静岡県立美術館蔵	
49	搜索	2001年	アクリル、キャンバス	112.1×162.1	第一生命保険 株式会社蔵	「VOCA展2001 現代美術の 展望—新しい平面の作家たち—」 奨励賞
50	前線	2001年	アクリル、キャンバス	112.1×162.1	第一生命保険 株式会社蔵	「VOCA展2001 現代美術の 展望—新しい平面の作家たち—」 奨励賞

4章

51	無題	1998年頃	アクリル、板	51.5×36.4	個人蔵	『Number PLUS』 1998年12月号
52	無題	1999年頃	アクリル、板	36.4×51.5	個人蔵	『Number』 468号
53	無題	1999年頃	アクリル、板	36.4×51.5	個人蔵	『Number』 474号
54	無題	1999年頃	アクリル、キャンバス		個人蔵	『Number』 Special Issue号

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵	備考
55	無題	1999年頃	アクリル、カンヴァス	36.4×51.5	個人蔵	『Number』 478号
56	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	33.3×49.0	個人蔵	『Number』 494号
57	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	『Number』 490号
58	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	24.8×22.4	個人蔵	『Number』 502号
59	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	24.8×22.2	個人蔵	『Number』 506号
60	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	24.8×22.2	個人蔵	『Number』 510号
61	無題	2000年頃	アクリル、カンヴァス	24.8×22.3	個人蔵	『Number』 514号
62	無題	2001年頃	アクリル、カンヴァス	24.8×22.2	個人蔵	『Number』 518号
63	無題	2003年頃	アクリル、紙	23.0×20.0	個人蔵	『Number』 585号
64	無題	1998年頃	アクリル、板	51.5×36.4	個人蔵	大槻ケンヂ著『のほほん人間革命』(角川文庫)、1998年7月16日 表紙
65	無題	2001年頃	アクリル、紙・カンヴァス	48.0×36.0	個人蔵	大槻ケンヂ著『猫を背負って町を出る!』(角川文庫)、2001年7月25日 表紙
66	無題(絵皿)	1996年	磁器	19.3×19.3×1.8	個人蔵	「美味しい絵皿100 vs 100」展出品
67	無題(絵皿原画)	1996年	アクリル・インク、紙	30.2×23.2	個人蔵	「美味しい絵皿100 vs 100」展出品
68	無題(三角時計)	1998年	アクリル	26.0×30.0×3.0	個人蔵	「三角CLOCK」展出品
69	無題	1999年	はりこ、絵付け前の高崎だるま	33.5×22.0×21.0	個人蔵	「開運・銀座だるま祭」展出品
70	無題(腕時計)	2000年	腕時計	23.0×3.8×0.8	個人蔵	「Watch 2001」展出品
71	無題(腕時計原画)	2000年頃	アクリル、カンヴァス	18.3×18.0	個人蔵	「Watch 2001」展出品
72	無題(鳳)	2002年	アクリル、紙	50.0×44.0	個人蔵	「TAKO KITE」展出品
73	ジーンズ	2004年	プリント、布	110.0×49.0	個人蔵	「JEANS SHOP GINZA」展出品
74	ジーンズ原画	2004年頃	ペン・色鉛筆、紙	各27.0×12.0	個人蔵	「JEANS SHOP GINZA」展出品

5章

75	無題	2001年	アクリル、カンヴァス	45.5×53.0	静岡県立美術館蔵
76	無題	2001-03年頃	アクリル、カンヴァス	130.3×162.0	静岡県立美術館蔵
77	無題	2002年頃	アクリル、カンヴァス	38.0×45.5	個人蔵
78	無題	2002年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	27.3×22.0	個人蔵
79	無題	2002年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	27.3×27.3	個人蔵
80	無題	2002年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	27.3×22.0	個人蔵
81	無題	2002年頃	アクリル、カンヴァス	59.4×42.0	個人蔵
82	無題	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵
83	無題	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×116.7	個人蔵
84	無題	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×117.0	個人蔵
85	深海魚	2003年	アクリル・油彩、カンヴァス	60.6×91.0	個人蔵
108	リハビリ	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×38.0	個人蔵

No.	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵	備考
86	無題	2003年	アクリル・油彩、カンヴァス	72.7×60.6	個人蔵	
87	無題	2003年	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×72.7	個人蔵	
88	裏庭	2003年	アクリル、カンヴァス	27.5×22.0	個人蔵	6点組の内の1点(1/6)
89	裏庭	2003年	アクリル・油彩、カンヴァス	27.5×27.5	個人蔵	6点組の内の1点(3/6)
90	無題	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	27.3×27.3	個人蔵	6点組の内の1点(4/6)
91	無題	2003年	アクリル・油彩、カンヴァス	27.3×27.3	個人蔵	6点組の内の1点(5/6)
92	帰路	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×38.0	個人蔵	
93	無題	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
94	放牧	2003年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	53.0×45.5	個人蔵	
95	低層	2004年	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
96	草食竜	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	60.5×72.5	個人蔵	
97	僻地	2004年	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
98	不通	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×72.7	個人蔵	
99	満潮	2004年頃	油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
100	無題	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
101	触手	2004年	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
102	転移	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×91.0	個人蔵	
103	無題	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	145.5×194.0	静岡県立美術館蔵	
104	無題	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
105	無題	2004年頃	アクリル・油彩、カンヴァス	53.0×65.2	個人蔵	
106	再生	2004年	アクリル・油彩、カンヴァス	45.5×53.0	個人蔵	
107	無題	2005年	アクリル・油彩、カンヴァス	91.0×116.7	静岡県立美術館蔵	

資料

アイデア帖、 スケッチブック(全51冊)	個人蔵
カメラ	個人蔵
絵筆類(全19点)	個人蔵
パレット1	個人蔵
パレット2	個人蔵
タオル	個人蔵

収蔵品展

新収蔵品展

4月1日（火）～5月25日（日）

No.	作者名	作品名
1	黒田清輝	富士之図（1）
2	黒田清輝	富士之図（2）
3	黒田清輝	富士之図（3）
4	黒田清輝	富士之図（4）
5	黒田清輝	富士之図（5）
6	黒田清輝	富士之図（6）
7	岡鹿之助	献花
8	小林猪治郎	崖
9	小林猪治郎	雪渓
10	小林猪治郎	踏附けられた景物
11	小林猪治郎	峠
12	小林猪治郎	夜櫻
13	小林猪治郎	一獻淡味
14	小林猪治郎	山峡
15	小林猪治郎	入江（習作第六〇四）
16	小林猪治郎	静物
17	伝池大雅	林屋洞図
18	平山郁夫	秋天東寺五重塔
19	ダレン・アーモンド	Civil Dawn@Mt. Hiei. 7
20	ダレン・アーモンド	Civil Dawn@Mt. Hiei. 8

静岡ゆかりの日本洋画—近年の御寄贈品を中心に 6月10日（火）～7月21日（月祝）

1	栗山茂	いか
2	栗山茂	73-No.9
3	栗山茂	古代の賦－装
4	栗山茂	古代の賦－昔ばなし
5	栗山茂	古代の賦－家族
6	伊藤勉黄	上海の裏町
7	伊藤勉黄	窓
8	伊藤勉黄	新開地の女

9	伊藤勉黄	実のある話
10	伊藤勉黄	イシスとホルス
11	伊藤勉黄	風媒花
12	前田守一	personality
13	前田守一	not so black as he is painted
14	前田守一	はごろも橋
15	前田守一	明治はるあき－停車場にて
16	前田守一	窓辺の手－そして木馬たち－
17	前田守一	海からの便り－青い渚
18	前田守一	天網
19	山口源	能役者
20	山口源	同棲
21	山口源	効能
22	山口源	振舞
23	徳川慶喜	風景
24	川村清雄	巨岩海浜図
25	川村清雄	風景
26	川村清雄	水辺
27	栗原忠二	セントボール
28	栗原忠二	ロンドン郊外
29	栗原忠二	武藏野
30	曾宮一念	種子静物
31	曾宮一念	芝浦埋立地
32	曾宮一念	工部大学
33	曾宮一念	自画像
34	島戸繁	びわ湖の舟
35	島戸繁	静かな漁港
36	島戸繁	社頭残雪
37	島戸繁	ステンドグラスと椅子
38	青木達弥	石の花
39	青木達弥	塔

40	青木達弥	城跡
41	青木達弥	薄
42	小栗哲郎	裏のみかん山

名品コーナー

左	五姓田義松	富士 ▲
中央	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
右	斎藤智	UntitledC

水辺のアート

7月23日（水）～9月7日（日）

1	徳岡神泉	雨
2	須田国太郎	筆石村
3	ジョゼフ・コスース	タイトルド、雨
4	高山辰雄	水の頃
5	下保昭	湖山暁雲
6	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
7	児島善三郎	箱根
8	ジョアン・ミッケル	湖
9	福岡道雄	湯原湖で（2）
10	清水登之	セーヌ河畔
11	原勝郎	セーヌ河畔
12	秋野不矩	ガンガー（ガンジス河）
13	佐々木秀子	渓流
14	金山平三	千曲川（信濃路の春）
15	柏木俊一	海と畑と森
16	平塚運一	伊豆梅林
17	山本森之助	海岸
18	武内鶴之助	伊豆福浦海岸
19	川村清雄	波
20	アンゼルム・キーファー	極光
21	児島虎次郎	酒津の庭（水蓮）
22	大久保婦久子	潤
23	柳澤紀子	水邊の庭I' 01
24	草間彌生	水上の螢

名品コーナー

左	和田英作	日本平望嶽台▲◇
中	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
右	北井一夫	「鳥獣戯画」より ▲アユ、◇
	北井一夫	「鳥獣戯画」より ▲トノサマガエル、◇
	北井一夫	「鳥獣戯画」より ▲スズメ、◇
	北井一夫	「お天気」より ▲ナメクジ、◇

西洋の絵画—画材とともに		
9月9日（火）～11月16日（日）		
1	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナボリ近郊ポツォーロ
2	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
3	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ディアナと水浴するニンフのいる古典的風景
4	ジャン・ヴィクトル＝ベルタン	ナルキッソスのいる古典的風景
5	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
6	ピエール＝エティエンヌ＝テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家
7	パウル・クレー	ホールC. エントラנסR 2
8	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
9	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
10	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
11	ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
12	サルヴァトール・ローザ	川のある山岳風景
13	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列
14	フランソワ・ブーシエ	石橋のある風景
15	フランソワ・ブーシエ	水車のある風景
16	クロード・ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
17	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビードー	山の見える牧歌的風景
18	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの渓流
19	カミーユ・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
20	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
21	ハイム・スチーン	カーニュ風景
22	ジャック・ド・ゲインII世	『四大元素』より《土（地）》
23	ジャック・ド・ゲインII世	『四大元素』より《水》
24	ジャック・ド・ゲインII世	『四大元素』より《空気（風）》
25	ジャック・ド・ゲインII世	『四大元素』より《火》

ジョン・マーティン	ミルトン作『失楽園』より《光明の創造》
27 ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』より《空を飛ぶメフィストフェレス》
28 トマス・ゲインズバラ	水を飲む馬のいる森の風景
29 サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑
30 ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーファンの大樹
31 川村清雄	静物写生

風景解剖学一空

11月18日（火）～2015年1月4日（日）

1 歌川広重	墨田川春景図
2 ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没
3 鈴木慶則	非在のタブロー－空
4 下村觀山・横山大観	日・月蓬萊山図
5 浅井忠	雲
6 曾宮一念	毛無連峯
7 高畠達四郎	伊豆下田港
8 ジョアン・ミロ	シウラナの教会
9 カミュー・ピサロ	ライ麦畑、グラット＝コックの丘、ポントワーズ
10 ヤーコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
11 ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
12 中村岳陵	爽秋
13 五姓田芳柳（二代）	新潟 信濃川
14 石川欽一郎	銚子港（利根川付近）
15 中村岳陵	礫
16 三岸好太郎	海◇
17 栗原忠二	洋上落日
18 山本森之助	海岸
19 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／由井
20 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／袋井
21 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／大磯
22 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／浜松
23 ジョン・マーティン	『失楽園』より 天国の門に達するサタン
24 ジョン・マーティン	『失楽園』より 楽園を警備する天使
25 シャルル＝フランソワ・ドービニー	『アトリエ舟で行く』より 宿屋さがし
26 シャルル＝フランソワ・ドービニー	『40のガラス版画』より 夜の効果

27 レンブラント・ファン・レイン	三本の木
28 歌川広重	『東海道五拾三次（保永堂版）』／蒲原 夜之雪
29 歌川広重	『東海道五拾三次（保永堂版）』／沼津 黄昏図
30 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／鞠子
31 歌川広重	『東海道五拾三次（隸書）』／箱根
32 小林清親	浅草田甫太郎稻荷
33 小林清親	浅草寺年乃市
34 小林清親	東京小梅曳船夜図
35 小林清親	池の端花火

名品コーナー

左 チャールズ・ワーグマン	富士遠望図▲
中 ハイム・スーチン	カーニュ風景
右 菅井汲	Masse Noire

富士山の日記念展示 富士山の絵画

1月24日（土）～3月1日（日）

1 作者不詳	三保松原・巖島図屏風
2 作者不詳	東海道図屏風◇
3 狩野探幽	東海道地取図卷◇
4 狩野派	伊豆三津長浜より富嶽を望む図
5 中山高陽	八州勝地図◇
6 大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
7 宋紫石	富嶽図◇
8 司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図
9 山口素絢	富嶽図
10 狩野常信	富士三保松原図◇
11 狩野永岳	富士三保松原図
12 木村武山	羽衣
13 五姓田義松	富士
14 和田英作	日本平望嶽台◇
15 和田英作	写生帖（三保の富士）
16 和田英作	写生帖（三保の富士）
17 和田英作	写生帖（天女）

ロダン館開館20周年関連展示 一人を描く
3月3日(火)～3月31日(火)

1	不詳	都鄙図屏風
2	海北友松	禪宗祖師・散聖図(左隻)
3	不詳	日蓮上人像(重要文化財) ◇
4	橋本閑雪	摘瓜図
5	谷文晁	回道士図◇
6	狩野元信	三酸図(三幅対のうち中幅) ◇
7	英一蝶	琴高仙人図
8	奥村土牛	搖籃◇
9	伝土佐行秀	歌仙図
10	横山華山	小児手鞠図
11	橋本雅邦	三井寺
12	伊東深水	朝◇
13	伊東深水	都鳥◇
14	藤原永平	尾張浜主影像
15	吉川靈華	浣紗溪◇
16	狩野山楽	雲門体露金風図◇
17	伊藤若冲	寒山拾得図◇
18	秋野不矩	たむろするクーリー
19	野島青茲	宵

名品コーナー

左	ジョルジュ・ビゴー	富士(沼津江浦) ▲
中	ギュスター・クールベ	ピュイ・ノワールの渓流
右	難波田龍起	ミクロの世界

※ ▲は富士山の絵画
◇は個人蔵または当館寄託品

移動美術展

静岡県立美術館移動美術展「日本人の油彩画」

No.	作者	作品名	制作年	材質	寸法(cm)
1	平木政次	富士	1897(明治30)年	キャンヴァス、油彩	44.0×67.0
2	黒田清輝	富士之図(1)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
3	黒田清輝	富士之図(2)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
4	黒田清輝	富士之図(3)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
5	黒田清輝	富士之図(4)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
6	黒田清輝	富士之図(5)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
7	黒田清輝	富士之図(6)	1898(明治31)年	板、油彩	25.0×33.0
8	五姓田義松	富士	1905(明治38)年	キャンヴァス、油彩	46.8×101.5
9	鹿子木孟郎	紀州勝浦	1910(明治43)年	キャンヴァス、油彩	59.0×74.8
10	小出栄重	静物	1917(大正6)年	キャンヴァス、油彩	78.4×90.8
11	和田英作	富士	1918(大正7)年	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2
12	都鳥英喜	モンティニーの秋	1920(大正9)年	キャンヴァス、油彩	80.2×115.2
13	清水登之	セーヌ河畔	1924(大正13)年	キャンヴァス、油彩	65.0×53.8
14	児島虎次郎	酒津の庭(水蓮)	1924-28(大正13-昭和3)年頃	キャンヴァス、油彩	81.0×65.0
15	柏木俊一	道	1912-25(大正時代)年	キャンヴァス、油彩	37.5×45.5
16	川村清雄	風景	1920年代頃(大正末から昭和初)	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3
17	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	1927(昭和2)年	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0
18	佐分真	雪のグリュンデルワルド	1927(昭和2)年	キャンヴァス、油彩	37.5×45.2
19	原勝郎	風景	1930(昭和5)年	キャンヴァス、油彩	73.0×92.0
20	川口軌外	白い花	1932(昭和7)年	キャンヴァス、油彩	91.0×73.0
21	鳥海青児	張家口	1939(昭和14)年	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0
22	野口謙蔵	虹の風景	1941(昭和16)年	キャンヴァス、油彩	50.3×60.7
23	北川民次	風景	1944(昭和19)年	キャンヴァス、油彩	72.8×60.8
24	金山平三	千曲川(信濃路の春)	1956-64(昭和31-39)年	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0
25	香月泰男	冬畠	1965(昭和40)年	キャンヴァス、油彩、方解石、墨	90.9×60.6
26	曾宮一念	スペインの野	1968(昭和43)年	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号
平成3年3月19日条例第2号
平成4年3月25日条例第14号
平成8年3月28日条例第11号
平成11年3月19日条例第16号
平成13年7月24日条例第45号
平成15年3月12日条例第2号
平成17年7月15日条例第49号
平成22年3月26日条例第23号
平成24年3月23日条例第1号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もつて県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不適当と認めるとき。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。

（一部改正〔平成3年条例2号〕）

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。
(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。
(協議会の委員の任命の基準)

第13条の2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

（追加〔平成24年条例第1号〕）

(協議会の委員)

第14条 委員の定数は、15人以内とする。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
 3 委員は、再任されることがある。

(一部改正〔平成24年条例1号〕)

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

(一部改正〔平成3年条例2号・17年49号〕)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則（平成元年3月29日条例第43号）

- この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成3年3月19日条例第2号）

- この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則（平成4年3月25日条例第14号）

- この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成8年3月28日条例第11号）

- この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成11年3月19日条例第16号）

- この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成13年7月24日条例第45号）

この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成15年3月12日条例第2号）

この条例は、平成15年4月1日より施行する。

附 則（平成17年7月15日条例第49号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成22年3月26日条例第23号）

この条例は、平成22年4月1日から施行する。

(一部改正〔平成24年3月23日条例1号〕)

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

(一部改正〔平成22年条例第23号〕)

(1) 常設展示

利 用 区 分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であつて、中学校及、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
 2 団体とは、20人以上をいう。
 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事がその都度定める額

別表第2（第5条関係）

利 用 区 分	特別観覧料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3（第9条関係）

(一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号・26年29号〕)

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分	使 用 料	
	10時から17時30分まで	17時30分以降
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,050円
	県民ギャラリーB	12,850円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,350円
	県民ギャラリーB	8,550円

(2) 講堂

使 用 料	午 前	午 后	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで	
7,650円	13,800円	21,450円	

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

平成20年3月31日規則第19号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

（1）開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

（2）休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

（一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕）

（観覧手続）

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

（特別観覧手続）

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（県民ギャラリー等の使用手続）

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（使用の制限）

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

（1）館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

（2）館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

（3）その他館長の指示等に違反した者

（譲渡等の禁止）

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。

（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終ったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

（観覧料等の減免）

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

（1）身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

（2）前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

（3）70歳以上の者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

（4）70歳以上の者が企画展示を観覧する場合 観覧料（団体で利用する場合の観覧料が定められている場合であって当該観覧料の適用を受けるときは当該観覧料をいい、観覧料が2以上定められている場合にあっては一般の観覧料（小学校就学の始期に達するまでの者並びに小学校、中学校、高等学校及び大学の在学者並びにこれらに準ずる者に適用される観覧料以外の観覧料をいう。）をいう。）の2分の1の額（当該額に100円未満の端数があるときは、これを100円に切り上げた額）

（5）幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものと含む。）

として常設展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(6) 幼稚園、小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動（これらに準ずるものも含む。）として企画展示を観覧する幼児、児童、生徒等を引率する者が企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(7) その他館長が特別の理由があると認める場合
館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第4号までに規定する者が常設展示若しくは企画展示を観覧するとき、又は前項第7号に該当する場合であって館長がその必要がないと認めるときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

（一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号・20年19号〕）

（観覧料等の還付）

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

1 この規則は、平成12年4月1日から施行する。

2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下

「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。

3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。

附 則（平成13年7月24日規則第59号）

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則（平成20年3月31日規則第19号）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

特別観覧承認申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称	作者名	点数			
特別観覧の目的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年　月　日	年　月　日	時から	時まで	
内訳	模写	点	日	円	合計
	模造	点	日	円	
	撮影	点	回	円	
	熟覧	点	日	円	
	原板使用	点	回	円	
備考					

様式第3号（第10条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号〕）

観覧料等減免申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 法人にあっては、その
主たる事務所の所在地
氏名 法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名 印

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料	
申請の理由				
日　　時	年　月　日（　　）	時　　分から	年　月　日（　　）	時　　分まで
観　　覧　　人　　員	人			
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人			
責任者氏名				
責任者電話番号				
観　　覧　　料　　等	円			
減　免　申　請　額	円			

様式第2号（第5条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号・12年17号〕）

県民ギャラリー等使用承認申請書

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 法人にあっては、その
主たる事務所の所在地
氏名 法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演等の名称				
展覧会、講演等の内容				
使　用　区　分	県民ギャラリー（A・B）　講堂			
使　用　期　間	年　月　日（　　）	時　　分から	年　月　日（　　）	時　　分まで
日間				
入場料等の徴収の有無	有・無	円		
主　催　者　名				
連絡責任者及び電話				
後　援　者　名				

(注) 展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第4号（第11条関係）
 （用紙 日本工業規格A4縦型）
 （一部改正〔平成6年規則5号〕）

特別観覧料　還付申請書
使　用　料

年　月　日

静岡県立美術館長 様

住所 法人にあっては、その
主たる事務所の所在地
氏名 法人にあっては、その
名称及び代表者の氏名 印

次のとおり特別観覧料の還付を受けたいので、申請します。
使　用　料

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号		
還付を受けようとする理由		
還付を受けようとする金額	円	

(静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について)

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第10条の表中「その他館長が特別な理由があると認めるとき。」は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別な理由があると認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

(目的)

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則(平成3年静岡県規則第24号)第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

(利用範囲)

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

(使用期間)

第3条 使用期間は、原則として1週間(月曜日13時～翌週月曜日12時30分)を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

(申込期間)

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申込とする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申込期間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には、搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館職員は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めたときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成21年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館(以下「美術館」という。)の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員(以下「委員」という。)を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

(1) 美術品の選定に関すること。

(2) その他美術に関する専門的事項に関するこ

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要のあるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることがある。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が召集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年12月23日条例第38号）第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

附 則

この要綱は、平成20年12月17日から施行する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職務)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に会長及び副会長を置く。

4 会長には生活・文化部長、副会長には、文化振興総室長をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が召集する。

(専門委員会)

第4条 委員会に、専門委員会を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるも

のとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この要綱は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

別表

文化・観光部長 部長代理(理事) 文化学術局長 文化政策課長 美術館副館長
--

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

- (1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。
- (2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。
- (2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。
- (3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

- (1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。
- (2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関するこ
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関するこ
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関するこ
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関するこ

	館長	副館長	学芸部長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	1人	8人	9人	19人
非常勤	1人				3人	4人
臨時技術員					1人	1人

■美術館協議会

鈴木壽美子	静岡県文化協会長
北條博厚	県立美術館友の会会長
松永広雄	静岡市立長田北小学校校長
大塚清美	静岡県子ども読書アドバイザー
立田洋司	静岡県立大学特任教授
坂本雅子	東海大学短期大学部教授
日比野秀男	常葉学園大学造形学部特任教授
岡野晃子	ベルナールビュフェ美術館副館長
今井利昭	静岡県観光協会「しづおかツーリズムコーディネーター」チーフ
石川たか子	㈱丸伸代表取締役社長
北村敏廣	㈱静岡新聞社代表取締役専務
本保晃	NHK静岡放送局長
石塚正孝	グランシップ館長

■専門委員

木村重圭	前甲南女子大学教授
河野元昭	京都美術工芸大学学長
坂本満	お茶の水女子大学名誉教授 金沢美術工芸大学客員教授

潮江宏三	京都市美術館館長
建畠哲	京都市立芸術大学学長
山梨絵美子	埼玉県立近代美術館館長
	東京文化財研究所企画情報部副部長

■資料評価委員

伊藤秀治	静岡県文化・観光部長
西田郁夫	静岡県文化・観光部部長代理
後藤淳	静岡県文化・観光部文化学術局長
小泉祐一郎	静岡県文化政策課長
坂田芳乃	静岡県立美術館副館長

■職員

館長	芳賀徹
副館長	坂田芳乃
学芸部長	泉万里
総務課長	田中雅代
総務班長	松下喜宗
主査	横畠朋之
主任	阿形高紘
主事	青木優美
管理班長	青木彰彦
主査	石川芳弘
主査	中村美穂
学芸課長	三谷理華
上席学芸員	南美幸
上席学芸員	新田建史
上席学芸員	村上敬
上席学芸員	泰井良
上席学芸員	川谷承子
上席学芸員	石上充代
主任学芸員	福士雄也
主査	神谷洋介
学芸員	浦澤倫太郎

■非常勤嘱託員

非常勤嘱託員	北村咲美
	半田直生
	中村美穂子
臨時技術員	松浦文香

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項目	金額
美術館観覧料	29,665
共催展収入	6,320
県民ギャラリー等使用料	6,030
財産売払・貸付・運用収入	12,347
助成金等	4,817
その他	3,553
計	62,732

■歳出決算

単位：千円

項目	金額
人件費	183,295
管理費	261,747
運営費	(48,380)
施設管理費	(213,367)
事業費	88,086
企画展事業費	(58,452)
常設展事業費	(7,206)
資料・普及事業費	(22,428)
館蔵品取得費	16,457
施設整備費	36,352
基金積立	3,764
計	589,701

建築・設備概要

■建築概要

区分	本館	口ダノ館
所在地	静岡市駿河区谷田53番2号	同左
敷地面積	県文化センター内(約130,000m ²)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積: 6,624.07m ² 延床面積: 9,238.51m ²	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)、2階建 建築面積: 2,391.25m ² 延床面積: 3,024.36m ²
仕上	外壁: 湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根: 緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床: 花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット、長尺塩化ビニールシート貼、フローリング 壁: 安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁: 花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、タイル打込P C板、吹付タイル 屋根: カラーステンレス葺、トップライト(アルミ、複層ガラス) 床: タイルカーペット 壁: 大理石、インド砂岩、クロス貼 天井: 石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区分	本館	口ダノ館
電気設備	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 300 KVA、3φ 400 KVAモールド型 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力300 KVA 3φ3 W 6,600 V 太陽光発電設備 10 KW×2台 蓄電池設備 キューピクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱電設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料(ビデオ)、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ(180 W)、ITV監視装置、地図式表示版	受変電設備 受電電圧6,600 V 60 Hz 変圧器1φ 280 KVA、3φ 350 KVA 契約電力700 KW 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800 rpm出力200 KVA 3φ3 W 220 V 蓄電池設備 屋外キューピクル式直流電源装置 弱電設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同左
空気調和設備	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(150 USRT、40 USRT)、温水焚吸収冷温水機(30 USRT)、空気熱源回収型スクリュー式ヒートポンプ冷凍機(150 USRT)、プレート式熱交換機(396,300 Kcal/h) 蓄熱層 冷温水槽550m ³ ・55m ³ 、ソーラー用20m ³ ソーラーパネル 平板型672枚 空気調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(80 USRT)2基、蒸気ボイラー(250 Kg/h)2基、空冷チラーユニット(3.77 USRT)プレート式熱交換機(86,000 Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5 m ³ 冷水クッションタンク 0.75 m ³
衛生設備	排煙機 ロビー系統他3系統3台 給水設備 受水槽30m ³ (二槽式)、高架水槽12m ³ (二槽式) 排水設備 公共下水道に放流 消火設備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓	空気調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換機(3台)
昇降機設備	身障者用 油圧式11人乗750 kg 荷物用 油圧式3,000 kg	排煙機 メイン展示室他2系統4台 給水設備 空調用自動給水装置受水槽 5 m ³ 排水設備 公共下水道に放流 消火設備 展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓 身障者用 油圧式23人乗1,500 kg

■建設工事費

区分	本館	ロダン館
建築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外構	397,162	—
プロムナード	173,300	—
周辺環境整備	—	268,509
合計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

・本館

実技室（114m²）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、月1回程度開催の創作週間と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

レストラン（80席 198m²）・カフェ（39席 92.3m²）

レストラン「エスタ」及びカフェ（ロダン）は、日本平ホテルが運営している。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、2階ロビー内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777m²）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるよう

になっている。

県民ギャラリー（2室 490m²）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305m²）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71m²）

美術に関する講座を行う。常設展では展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（15.21m²）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 日曜、祝日

10：30～15：30（2時間限度）

授乳室 開館日全て

10：00～17：30（夜間開館日は20時まで）

・ロダン館

ロダンフロア（1,461m²）

高さ20m天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアはあらゆる角度から鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1（98m²）、展示室2（149m²）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの両側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の鋳造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（CD-ROM）検索システムが設置されている。ま

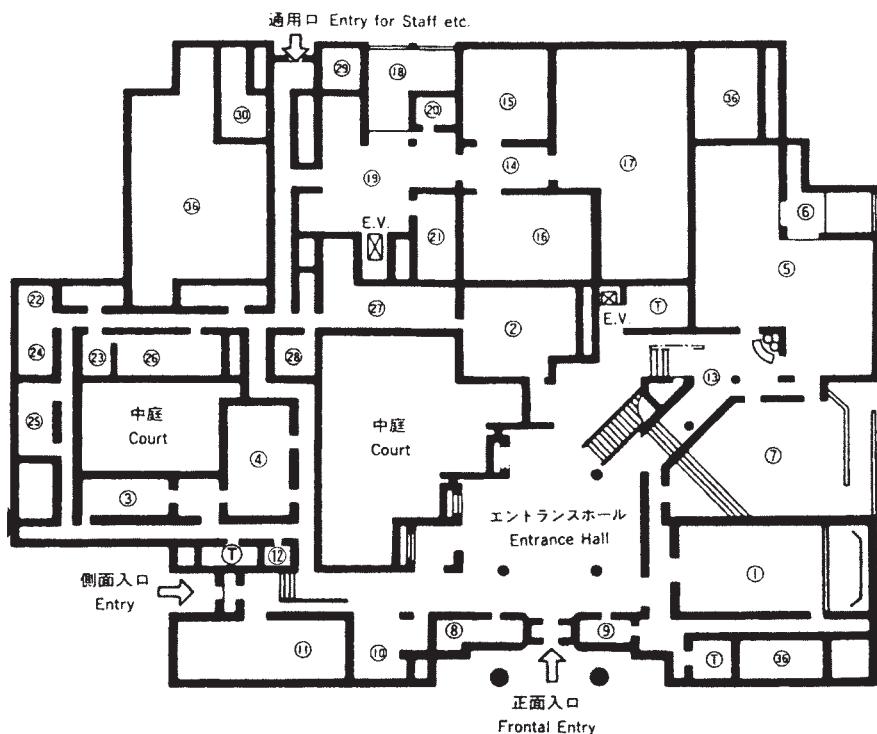
た、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー (276m²)

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図
・本館

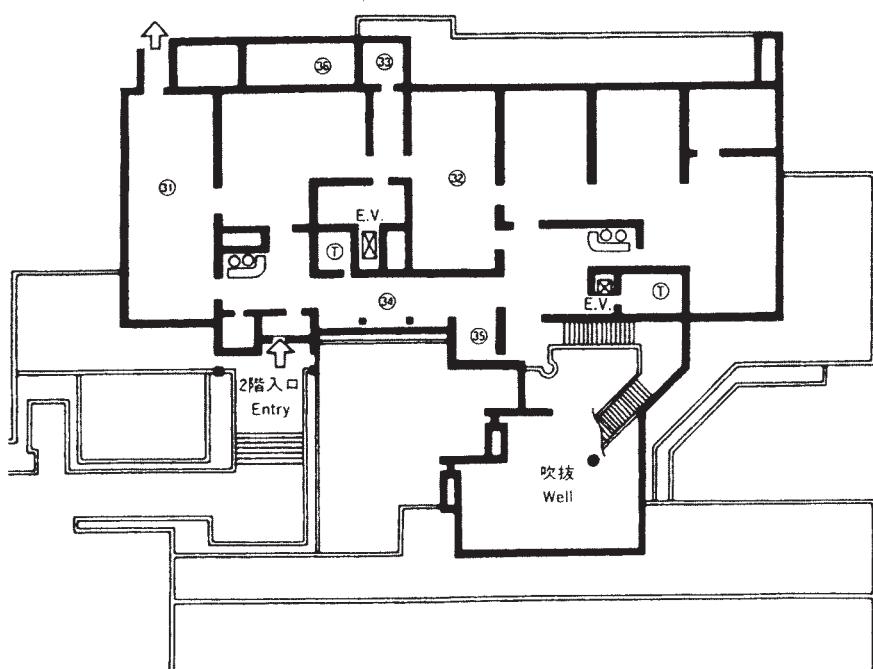
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ カフェ Cafe

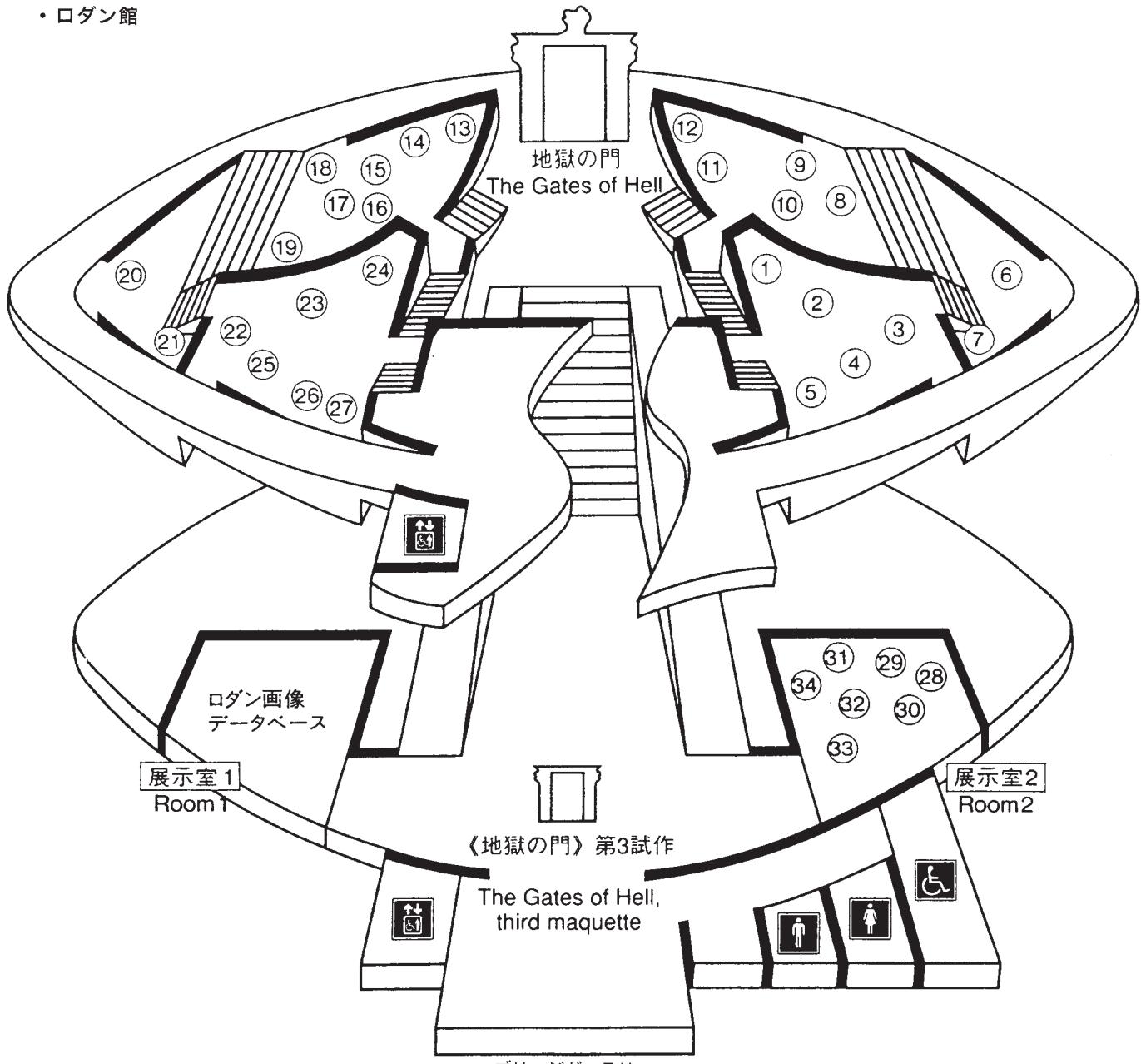
㉗ (次頁へ)

2階 Second Floor



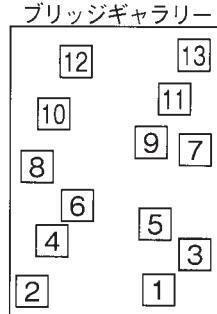
- ㉑ レストラン Restaurant
- ㉒ 記念・授乳室 Nursery
- ㉓ ギャラリー前ロビー Lobby
- ㉔ 収蔵庫前室 Storage Front
- ㉕ 収蔵庫1 Storage (1)
- ㉖ 収蔵庫2 Storage (2)
- ㉗ 収蔵庫3 Storage (3)
- ㉘ 搬入口 Delivery Room
- ㉙ 荷受室 Packing Room
- ㉚ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉛ レストラン Restaurant
- ㉜ 館長室 Director's Room
- ㉝ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉞ 応接室 Reception Room
- ㉞ 会議室 Council Room
- ㉞ 事務室 General Affairs Section
- ㉞ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉞ 修復室 Restoration Room
- ㉞ 警備員室 Guards Room
- ㉞ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉞ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉞ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉞ ラウンジ Lounge
- ㉞ ミュージアムショップ Museum Shop
- ㉞ 機械室 Machinery Room
- ㉞ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㉞ トイレ W.C.
- E.V. エレベーター Elevator

・ロダン館



ロダン、A

- ① 『カレーの市民』 ジャン・デール
- ② 『カレーの市民』 ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 『カレーの市民』 ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 『カレーの市民』 ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 『カレーの市民』 アンドリュー・ダンドル
- ⑥ 『カレーの市民』 ユスター・ド・サン=ピエール
- ⑦ 『カレーの市民』 第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 『永遠の休息の精』 のトルソ
- ⑬ 『影』 のトルソ
- ⑭ パオロとフランチスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 『影』 の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
- 女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ㉑ 考える人



- ㉒ バッカス祭
- ㉓ 『ラ・フランス』 習作
- ㉔ パステイアン=ルバージュ
- ㉕ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉖ クロード・ロラン
- ㉗ ボードレールの頭部
- ㉘ 花子のマスク

展示室2

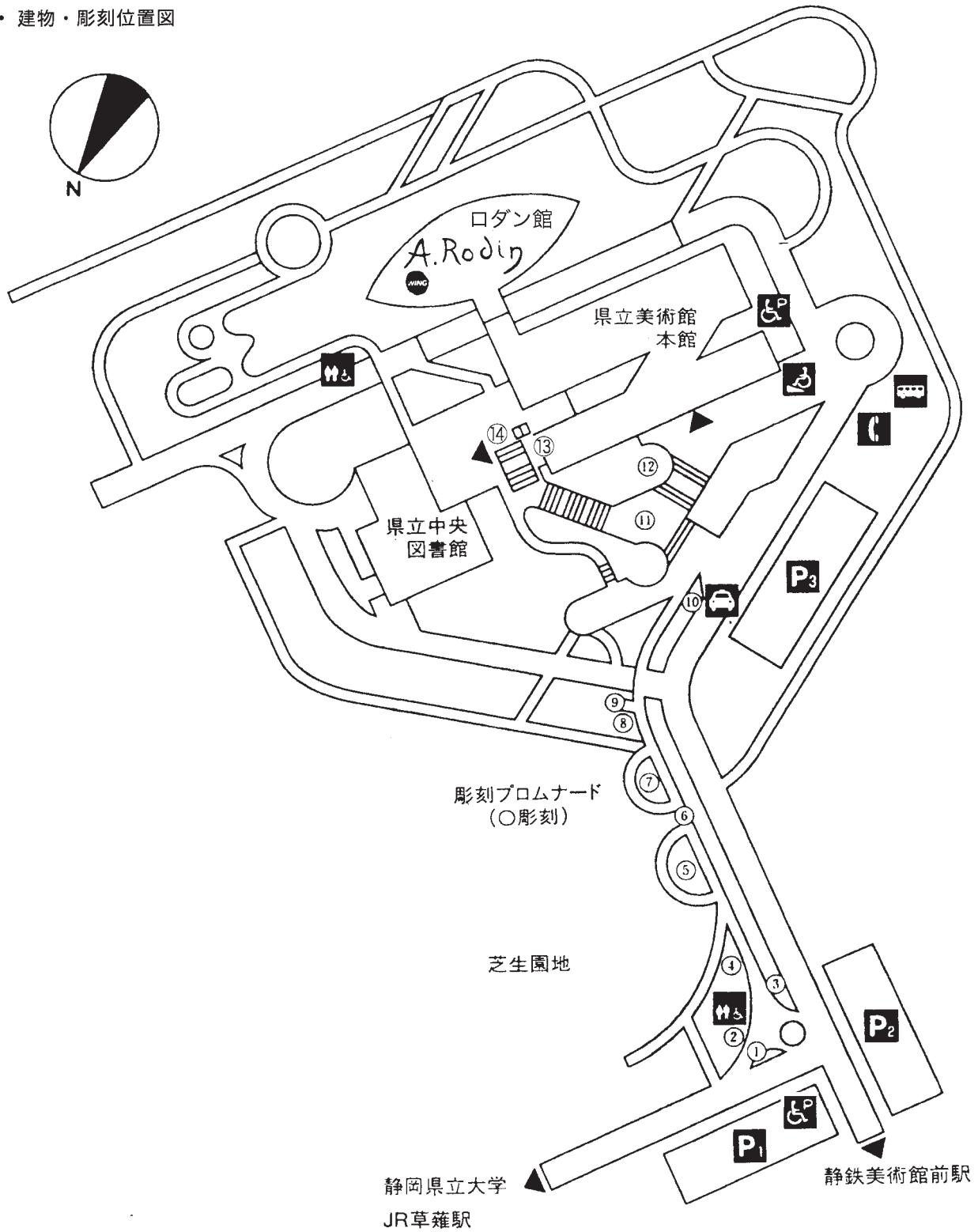
- ㉙ カルボー, J.B. / ナポリの漁師の少年

- ㉚ カリエ=ペルーズ, A.E. /
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉛ ロダン, A. / バラの髪飾りの少女
- ㉜ カルボー, J.B. / 悲しみの聖母
- ㉝ ダルー, A.J. / 乳を与えるバリの女
- ㉞ フレミエ, E. / 蛇使い
- ㉟ バリー, A.L. / ライオンと蛇

ブリッジギャラリー

- ㉑ ゴーギヤン, P. / オヴィイリ
- ㉒ パルラッハ, E. / 読書する僧たちIII
- ㉓ ムーア, H. / 横たわる人体
- ㉔ レームブルック, W. / 女のトルソ
- ㉕ ジャコメッティ, A. / 横たわる女
- ㉖ アーキベンコ, A. / 『化粧する女』 習作
- ㉗ ブランクーシ, C. / ポガニー嬢II
- ㉘ リップシツ, J. / 母と子
- ㉙ ロッソ, M. / 病める男
- ㉚ ブールデル, E.A. / アポロンの首
- ㉛ ブールデル, E.A. / ロダンの肖像
- ㉜ マイヨール, A. / 『イル・ド・フランス』
のトルソ
- ㉝ クローデル, C. / 波

・建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V—相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線—菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 10:00～17:30

(展示室への入室は午後5時まで)

[夜間開館] 8月2日(土)～9月6日(土)の間の土曜日(「アニマルワールド」展開催中)は20:00まで開館(入室は19:30まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)、年末・年始、その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

一般300円(団体200円)

大学生以下・70歳以上の方は無料

■企画展観覧料

展覧会名	一般	70歳以上
佐伯祐三とパリ	1,000円 <800円>	500円 <400円> ※高校生・大学生含む
下岡蓮杖	700円 <500円>	400円 <300円>
アニマルワールド	800円 <600円>	400円 <300円>
美少女の美術史	1,000円 <800円>	500円 <400円>
風景解剖学	600円 <400円>	300円 <200円>
石田徹也	800円 <600円>	400円 <300円>

* <>内は前売及び20名以上の団体料金

* 中学生以下及び、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。(高校生・大学生は、収蔵品展は無料、企画展は展覧会によって有料・無料となります。)

■施設利用料

(1) 県民ギャラリー

利 用 区 分	使 用 料	
	10:00～17:30	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	17,050円
	県民ギャラリーB	12,850円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,350円
	県民ギャラリーB	8,550円

(2) 講 堂

使 用 料		
午 前	午 后	全 日
10:00～12:30	13:00～17:30	10:00～17:30
7,650円	13,800円	21,450円

交通案内 J R 「草薙駅」から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

J R 「静岡駅」南口からタクシー約20分

東名高速道路・静岡IC、清水ICまたは新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

総務課 T E L 054-263-5755

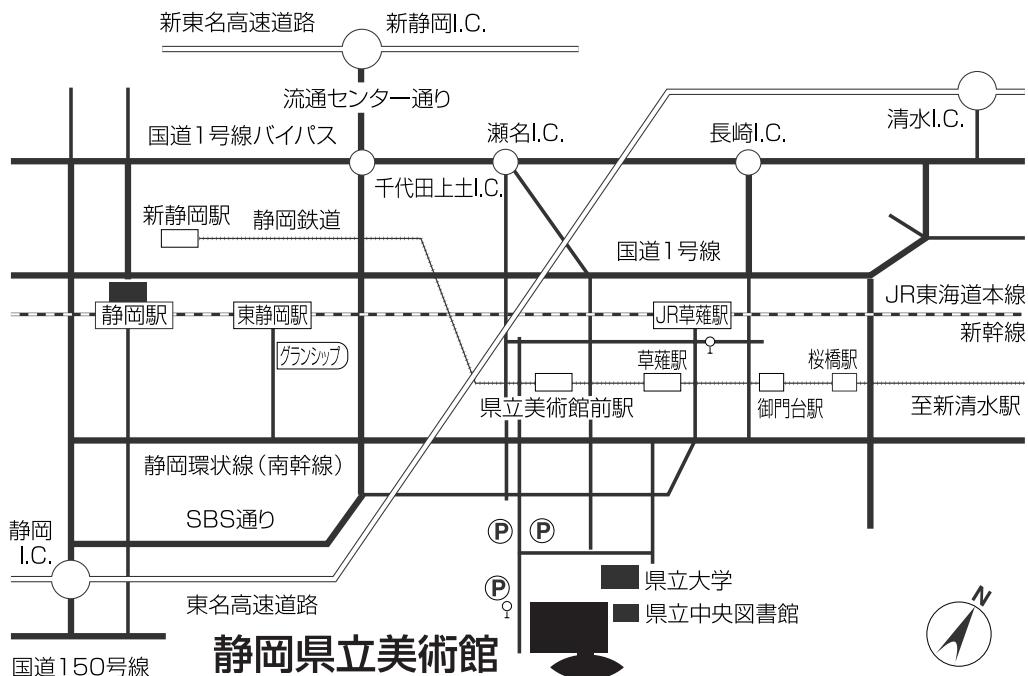
〃 F A X 054-263-5767

学芸課 T E L 054-263-5857

〃 F A X 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926



平成26年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館©
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263)5755
印 刷：株式会社アプライズ
〒422-8037 静岡市駿河区下島114

Annual Report of Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2014

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©
Printed by APRISE Co.Ltd. Shizuoka
Printed in Japan 2015